

町田市障がい者青年学級

実践報告集



2016年度 第42号

2016年度 町田市障がい者青年学級実践報告集

はじめに

16年度町田市障がい者青年学級事業について、「実践報告集第42号」を刊行いたしました。この報告集は、障がい者青年学級（以下「青年学級」）の活動の様子を綴り、分析して課題を明らかにし、さらに今後の活動の展望を語ることを目的に編集したものです。編集にあたっては、日頃から活動をご支援いただいている「担当者」（ボランティアスタッフ）にご尽力いただきました。

16年度の青年学級の活動を振り返りますと、3つの学級で171名の学級生が参加しました。活動内容としては、通常の学級活動以外に公民館学級では恒例の大地沢青少年センターでの宿泊合宿を行いました。ひかり学級、土曜学級では話し合いにより宿泊合宿に代わり日帰り旅行を企画、ひかり学級では貸し切りバスで藤野芸術の家へ、土曜学級は電車を利用して、みなとみらいへ出かけました。また年度末の成果発表会では各学級ともに新しい歌の作成や、日頃の思いを作文や劇を通して表現するなど、精力的な発表を行いました。特に2名の新たな仲間を迎えた土曜学級では、新入学級生を交えての学級活動が他の学級生にも刺激を与え、新たな学級活動を生み出す土台になりました。

一方で、担当者の体制は必ずしも充足しているとはいえ、担当者募集のために、市内外の大学・専門学校へのポスター掲示依頼や授業・ガイダンスでのPR、市内町内会の掲示板へのポスター掲示など積極的に広報活動を行い、結果として11名の方に担当者として新たに参加いただくこととなりました。

今年度は青年学級のなかでも特別な1年となりました。7月26日に起きた津久井やまゆり園での凄惨な殺人事件は、青年学級に参加する人にも大きな影響を与えました。公民館学級では8月の夏休み明けに2回続けて、午前の時間をつかってこの事件について感じたことを話しあいました。津久井やまゆり園から5キロしか離れてい

ない大地沢青少年センターでの合宿では、キャンプファイヤーで追悼の会をおこないました。これらの一連の活動が成果発表会まで継続して取り組まれました。彼らも私たちと同じ豊かな思いと言葉をもち、やまゆり園という生活の場でそれぞれの生活を送っていたのに、なぜこの事件に巻き込まれてしまったのか。私たちと同じように彼らにも生きる意味があったのだ、という思いを確認しながら…。

14年1月、我が国は「障害者権利条約」を批准しました。国連総会で採択された06年以後、障害者虐待防止法や障害者総合支援法の施行、障害者差別解消法の成立、障害者雇用促進法の改正など、さまざまな制度改革を経たのち批准しました。この条約は様々な分野における権利実現のための取り組みを締約国に対して求めています。教育を受ける権利についても、同条約第24条において規定しています。また、16年3月には、障がいのある人の施策の基本計画として、「第5次町田市障がい者計画」が策定されました。この計画では、障がいのある人が希望する学びや文化芸術・スポーツ活動に参加しやすくすることを明記しました。

このような時代に優生思想を基にした凄惨な事件が起きました。障害をもつといわれる人々が主体的に学び、社会参加し、自らの生活を肯定し、地域で生活していくためにも、社会教育事業としての青年学級をより充実させる必要があります。町田に根付いた青年学級事業ですが、さらに社会の中で理解を深められ、より多くの市民の皆さんの参加を得て、事業を展開していけるよう努力と研鑽を重ねていきたいと考えています。

末筆になりましたが、事業の実施、「実践報告書」の作成など、日ごろから活動をご支援いただいている担当者の皆様、関係者の皆様のご尽力に感謝申し上げます。

2018年3月

町田市生涯学習センター

目次

はじめに	1	第3部 ひかり学級	
第1部 2016年度 学級活動の概要	7	第1章 コース活動	
第2部 公民館学級		ふれあいをつくっていくコース	61
第1章 コース活動		無敵最強スポーツコース	67
抱きしめたい心コース	17	ひまわり味彩大作戦コース	73
ものづくりコース	25	コスマリップ劇ダンスコース	77
生活とくらしを考えるコース	31	第2章 自治運営	
炎のファイト！健康体づくりコース	37	第1章 班活動	
あおのなかまコース	45	第4部 土曜学級	
第2章 自治運営		第1章 班活動	
1 班長会	55	ひまわりサンバ班	87
2 つどい委員会	56	レインボーウルトラスポーツ班	93
第3章 考察	58	ゆめとイベント班	97
		はなよりだんご班	101
		第2章 自治運営	
		1 班長会	107
		第3章 考察	109

	第5部 地域への広がり	
	第1章 サークル活動	
	1 おなべの会	115
	2 とびたつ会	117
	3 スケッチルーム	123
	第2章 若葉とそよ風のハーモニーコンサート	124
	第6部 学級を支える体制	
	第1章 担当者会・調整会・学習会	133
	第2章 送迎検討委員会	138
	第3章 父母会	141
	第7部 青年学級によせて	
	第1章 青年学級によせて	145
	第2章 新人担当者として関わって	145
資料		151

2016年度障がい者青年学級(学級実施日)

回	月 日	活 動 内 容 (活 動 場 所)
	4.9 土	土曜学級 青年学級を語る会(生涯学習センター。以下「生涯セ」)
	4.10 日	ひかり学級 青年学級を語る会(ひかり療育園)
	4.17 日	公民館学級 青年学級を語る会(生涯セ)
1	6.5 日	ひかり学級 開級式(ひかり療育園) 午後1時半～午後4時
1	6.11 土	土曜学級 開級式(生涯セ) 午後1時半～午後4時
1	6.12 日	公民館学級 開級式(生涯セ) 午後1時半～午後4時
2	6.19 日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
2	6.25 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
3	7.3 日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
3	7.9 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
4	7.17 日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
4	7.23 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
5	9.4 日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
5	9.10 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
6	9.18 日	ひかり学級 バスハイク(藤野芸術の家) 午前8時半～午後4時半
6	9.24 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
6	9.25 日	公民館学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
7	10.1 土	公民館学級 合宿(大地沢青少年センター)
8	10.2 日	
8	10.8 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
7	10.16 日	ひかり学級(ひかり療育園) 午前10時～午後4時
9	10.29 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
9・8	11.6 日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
10	11.12 土	土曜学級 日帰り旅行(横浜みなとみらい) 午前9時～午後4時半
10・9	11.20 日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
11	11.26 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
11・10	12.4 日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
12	12.10 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
12	12.18 日	公民館学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
13	1.7 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
11	1.8 日	ひかり学級(ひかり療育園) 午前10時～午後4時
13	1.21 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
13・12	1.22 日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
13	2.4 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
14・13	2.5 日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
13	2.18 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
15・14	2.19 日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
15	2.26 日	ひかり学級 成果発表会(生涯セ) 午前10時～午後4時
16	3.4 土	土曜学級 成果発表会(生涯セ) 午前10時～午後4時
16	3.5 日	公民館学級 成果発表会(生涯セ) 午前10時～午後4時

第1部

2016年度

学級活動の概要

1 青年学級のねらい

青年学級開設当初は20名に満たなかった学級生も、現在は十倍近い人数になり、3つの学級にわかれてそれぞれ独自の活動を展開しています。各学級ともに、青年学級開設当初からの目標である「生きる力・働く力の獲得」のもと、「自治」「生活づくり」「文化の創造」という3つの柱を軸に活動を行ってきました。

ここでいう3つの柱については、まず「自治」とは学級生自身が活動を企画し、運営していくことを意味します。一人ひとりの学級生の意見をもとに、それを取りまとめる班長・副班長を中心とした集団活動が進められ、さらにその班長や副班長によって構成される班長会で学級全体を見渡していく、というような民主的なプロセスを重要視してきました。そして何よりも大切にしてきたことは、学級生がなにもにも束縛されることなく、一人ひとりの思いを自由に語るといことです。とはいうものの、月2回の限られた活動のなかで、企画から運営まですべてを行うといことは、たやすくありません。しかし、それらを大切にしていくことで、自分自身の意見を述べる機会や経験を持ちにくかった学級生一人ひとりの主体性は、確実に培われてきたのです。

次に「生活づくり」です。これは活動のなかでお互いの要求、職場や家庭での喜びや哀しみなどのさまざまな思いを伝え合い、一人ひとりの生活の様子や課題を集団の場に出し、その思いや要求を集団で受け止め共有していくことです。そのことを通して、自らの生活を振り返り、自分自身の存在を肯定し、人を思いやる仲間づくり・集団づくりが行われてきました。この集団での経験が、現実の厳しい生活に向き合い、積極的に自分の生活上の困難に立ち向かっていく力になるのではないかと考えられます。

このような自治的な集団をもとに、学級生の生活要求や課題を反映させることでつくられていく活動は、既成のものではない独自の「文化の創造」を通して、具体的なかたちを与えられ、さらに深め

られていきます。それにより、学級生が活動のなかで実質的な主体者となり、ひいては生活場面でも主体的な存在となっていくことを目指しています。

実際の活動では、劇や音楽、絵などの様々な創作活動を素材として取り組み、経験の幅を広げながら活動を創りだしてきました。そして、このような「文化の創造」から、学級生の要求や働くことの誇り、喜び、苦しみ、仲間への思いなど、生活実感に根ざしたものを取り入れ、オリジナルソングに代表されるような、青年学級独自の表現文化活動を作り上げ、他者へアピールする力を築きあげてきました。

このように、文化活動に積極的に関わり、「文化の創造」を担っていくことは、自らの生活を振り返り、作り上げ、学級生が主人公として人生を切り拓いていく力につながると考えられます。

「文化の創造」活動の延長として、88年からスタートした『若葉とそよ風のハーモニークンサート』（以下、わかそよ）も、15年5月に17回目が開催され、またこれに類する催し物が開かれるなどしています。これまでの青年学級の実践から、地域に打って出たコンサートであり、ここでは長年培ってきた学級生の自治の力が大いに発揮されています。

「自治」「生活づくり」「文化の創造」の3つが歯車のように回りながら学級生たちの生活をより豊かなものにしていき、大きな力になっていくことが、これまでの実践のなかで確認されてきています。このことを踏まえ、今年度もそれぞれの学級で実践が展開されます。

2 青年学級の概要

(1) 各学級の活動の概要

青年学級は、現在、3つの学級にわかれて月2回の活動を行っ

ています。そのうち「公民館学級」と「ひかり学級」は日曜日、「土曜学級」は土曜日に活動しています。

16年度は3学級あわせて学級生171名（16年度当初の時点での在籍者数）、担当者63名（16年度末の時点で担当者または当日担当者として活動に関わっていたボランティアの人数）で活動を行いました。一年間の活動は6月の開級式から、秋の合宿や日帰り旅行をはじめ、3月の成果発表会までの間に公民館・ひかり学級は原則として毎月第1・第3日曜日に、土曜学級は毎月第2・第4土曜日に行い、それぞれの学級で年13〜14回の活動を行いました。また、活動体制としては、土曜学級が班体制、公民館学級とひかり学級がコース制をとりました。

(2) 活動日の大まかな流れ

タイムテーブルは3学級ともに概ね次のとおりでした。

10時〜	朝のつどい
10時30分〜	班・コース活動（途中、昼食をはさむ）
15時30分〜	帰りのつどい
16時	終了
16時〜	班長会など

班長・副班長は、班やコースをまとめると共に、「班長会」に出席し、他の班やコースとの連絡を取り合っており、各学級全体の活動について話し合い、学級の自治活動を行いました。他にも、公民館学級では、朝夕のつどいについて話し合う「つどい委員会」が帰りのつどいの後に行われました。

(3) 一年間の学級活動の流れ

4月

学級を語る会

6月	開級式
7月〜2月	月2回の学級活動
（8月は休み、9〜12月に1泊2日の合宿や日帰りバスハイクあり）	
3月	成果発表会

3 青年学級のこれまでの歩み

74年度に開設された青年学級は体制面に着目すると、その歴史の中に大きな4つの節目をとらえることができます。すなわち、コース制の始まり（85年）、ひかり学級の発足（91年）、土曜学級の発足（97年）、とびたつ会の発足（04年）です。そしてこの節目を境にして、5つの時期に分けることが可能となります。

(1) 青年学級の発足と実践から生まれた3つの柱

【74年度〜84年度】

第一の時期は、青年学級の実践の方向性を模索する中から実践の中核となる3つの柱を確立した時期と言えます。この3つの柱とは、素材として表現活動を伴う文化的な創造活動を重視すること、集団のかたちとして自治的な集団をめざすこと、主題としてそれぞれの生活を活動の中心にすえることです。

こうした3つの柱は、それぞれ、劇づくりを通じた仲間づくりをめぐらした時期（74年〜77年）、自主的な活動を重視した時期（78年〜80年）、生活を見つめ直した時期（81年〜84年）という3つの時期に対応しており、実践の中から生み出されてきた柱そのものと言ってよいでしょう。また、発足当初20名だった学級生の数は、84年度には63名になっていました。

(2) コース制のはじまりとその発展の時期

【85年度～90年度】

第二の時期は、コース制の実施によって始まる時期ですが、第一の時期の成果を受けて、内容別のコース活動に分かれ、それぞれのコースごとにその内容をじっくり深めていく中で、生活づくりをめざすこととなりました。

この時期の生活づくりというねらいが具体的な成果となってあらわれた例に、「わかそよ」が産声を上げたことが挙げられるでしょう。それぞれの生活の中で感じている想いを歌に託して地域に向けて発信することを通じ、一人ひとりの新たな生活の創造が始まったと言えます。

また、こうした活動の中から、全国障害者問題研究会の全国大会に参加したり、パリで開催された国際会議に参加したりする学級生が現れるようになってきました。

生活づくりという目標のもと、地域にアピールしていく活動は、いろいろなどころで実を結び始めたと言ってよいと思います。

この間、参加希望者は増加を続け、90年度には学級生が99名を数えるようになりました。活動の充実が、青年学級の存在を広く市民にアピールしたことも、希望者の増加に一役買っていると言うことができるでしょう。

(3) ひかり学級への分級による2学級体制の時期

【91年度～96年度】

第三の時期は、学級生の増加という事態に対応するためにひかり学級の誕生から始まる時期です。

学級生が増加する中で、言語的コミュニケーションが難しく、多くの介助を必要とする障がいのある学級生の姿も見られるようにな

りました。そうした生活上の困難を抱えた学級生がいる一方で、問題が差し迫っていない学級生も少なからずいるという状況は、学級の多様化も意味していました。

こうした状況下では、学級全体としての共通の目標を以前のよう維持することは、しだいに困難になってきました。しかしながら、それは一方で今までの流れを継承しつつ、多様な要求に応える実践を繰り返してきた時期であると言えるでしょう。

社会への大切なアピールの場「わかそよ」も、青年学級の大規模化のため、ほぼ隔年開催となりましたが、ミュージカルという新しい表現を盛り込みながら発展を遂げています。またこの時期、海外研修の機会を与えられる学級生が何名か生まれました。

(4) 土曜学級の誕生による3学級体制の時期

【97年度～03年度】

第四の時期は、土曜学級の誕生によって3学級の体制が始まった時期です。土曜学級は、最初、休日の小学校の校舎を借りるかたちで発足しました。活動の際、車いすの方が一部利用できない場所がありました。02年に公民館が現在のビルに移ってから、公民館で活動できるようになりました。「自治」「生活づくり」「文化の創造」の3つの柱を土台にしながらも、公民館学級、ひかり学級、土曜学級のそれぞれが独自の活動を展開するようになりました。

この時期、公民館学級の学級生である高坂茂さんが、日本で最初の本人活動の会「さくら会」結成の中心メンバーとなり、町田の青年学級にも本人活動の成果を持ち帰ろうという思いで活動を始めましたが、00年3月に志し半ばで職場の事故で亡くなるという大変大きな出来事がありました。「町田にも本人活動を」という動きは、こうした中で芽生え始め、高坂さん亡き後は、その遺志を引き継ぐかたちでいろいろな試みがなされ、とびたつ会の発足へとつながる流

れを作り出しました。

(5) とびたつ会の誕生 ～青年の活躍の拡がり

【04年度～現在】

第五の時期は、青年学級からとびたつ会が生まれ、市主催事業としての青年学級と自主サークルとしてのとびたつ会が、並び立つ体制を開始した時期です。とびたつ会は、形式的には、青年学級とは別の組織ですが、青年学級の活動を通して本人活動の重要性を自覚したメンバーによる会です。しかし、とびたつ会にも青年学級に参加した経験のない青年が加わるなど、次第に独立した活動をするようになりましたが、学級の終わった後の交流や学級行事などへのとびたつ会メンバーの参加、「わかそよ」や、それに類する催し物の共同開催など、両者は深い関係を今後も持ち続けていくことになると思われまます。

また、とびたつ会の発足によるメンバーの移動が、結果的に学級の受け入れ能力を超えてしまった青年学級に新たなメンバーを受け入れる余地をもたらしました。しかし、短期的には学級をひっぱっていくリーダー的存在が抜けることを意味しており、学級活動に影響をもたらすことになりました。しかし学級生の中から新しくリーダーシップを発揮する存在が現れ始め、そのリーダーシップのもとで新しい活動の展開が見られるようになりました。

またコミュニケーションの多様化によって、これまであまり発言ができていなかった青年たちの主張が学級活動に反映され始めています。それは自ら発言や文字を書くことができずコミュニケーションが難しいため、これまで話し合いや作文など「ことばを使つての活動」にはあまり参加できなかった青年たちが活躍するようになってきたということです。

これは「スイッチパソコン」や「指文字」など、支援方法の充実

が図られたことが大きいのですが、コミュニケーションが難しいとされる青年たちのことばの世界が拓かれたということ以上に、学級の場面での存在感が大きく増したという変化がありました。

学級では表現活動を通じて主体性を獲得する場面が多くあります。例えば実際に歌うことはできなくても学級ソングの作詞をして発表の舞台に上がるといった経験をを通じて主体性を獲得する青年たちが出てきました。

こうした青年たちが表舞台に出ることで、学級の雰囲気にも変化の兆しが生まれています。これが社会に受け入れられるにはまだまだ厳しい状況ですが、40年を越える学級の歴史で貫かれている理念に新しい芽吹きとなったともいえるでしょう。

4 3学級に関わる今後の課題

(1) 新人学級生の継続的受け入れと担当者体制の充実

青年学級の抱える課題として、新人学級生の継続的な受け入れの問題があります。当初20名弱の人数からスタートした青年学級も毎年10名程度の新たな学級生を受け入れてきましたが、担当者不足などの理由から新人学級生を受け入れられない状況が数年間続いています。しかし、将来構想検討委員会での話し合いもあり、新人学級生をこの数年は募集できるようにしました。

それに伴って学級生の人数も3学級全体で現在177名となり、会場でも生涯学習センターとひかり療育園だけでは限界があります。現在の3学級体制（公民館学級、ひかり学級、土曜学級）で、どこまでの学級生を受け入れることができるか、会場や規模の面からの検討も必要となっています。

16年度には若干名の募集に対し、2名の応募があったため、そのまま2名を受け入れることとなりました。

また、担当者体制が厳しい状況であることに変わりありません。

現在の担当者募集方法（「広報まちだ」での募集記事、地域の自治会等を通じての担当者募集のビラの配布やポスターの掲示、近隣の大学・専門学校へのポスター掲示、及び授業やガイダンス等での担当者募集の説明など）に加え、大学のボランティアサークル等との連携やボランティア講座の活用など、担当者を継続的に安定して確保する方策が模索されてきました。

担当者体制は単純にマンパワーの問題だけではありません。担当者として主体的に学習活動に関わる以上は、単に「一市民としてのボランティア」として参加する以上の資質と取り組みが求められます。そのため担当者会を充実させ、参加を促していくことも必要とされています。これまでの方向性を検証し、人材確保・育成についても検討が必要な段階になっています。

（２）青年を取り巻く環境の変化への対応

学級に参加する青年の状況も大きく変化しつつあります。障がい者施策の影響もあり学級生を取り巻く生活環境や就労状況もここ数年大きな変化ができています。新しく参加している学級生でも一般企業で働く人がいる一方で、高度なケアが必要な人も増えていきます。

長年学級に参加してきた青年も、グループホームや通勤寮、生活寮を利用し、仕事に就いて得られた給料の使い方の訓練を受けたり、自らの将来について考えたりするなど、自立にむけて活動するようになってきました。特にここ数年、市内にもグループホームが増え、自宅からグループホームへ移る青年も増えています。現時点ではグループホームへ移ったことにより青年学級に通えなくなるということはありませんが、学級生の置かれている状況を把握することがこれまで以上に重要となっています。

加えて、こうした家族の高齢化や生活環境の変化により、送迎の必要性も高まってきています。これまでも送迎検討委員会で青年学

級における送迎の課題について検討し、一時送迎を行ってきませんが、今後、より一層、送迎に対するニーズが高まってくること予想されます。

そして、これらの青年学級の将来像や、青年を取り巻く状況の変化、送迎等の課題について、生涯学習センター職員や担当者、家族だけでなく、青年学級の主体者である学級生と一緒に考えていき、その中で本来的な青年学級の意味を再確認し、これからの発展について将来的な展望を持っていくことが、今後の大きな課題となっています。

体制面の語句の説明

青年……発足当初より、学校を卒業して社会に出た知的障がい者の社会教育の場は「青年学級」という名称で活動が進められ、社会的にも認知され今日にいたっています。その経過の中で学級生に対して青年という呼び方が定着しています。実際には青年期を越えた学級生が多数をしめるわけですが、その活動の若々しさなどもあって、違和感をあまり覚えることなく使われてきたと言えます。

担当者……青年を支援し、共に活動する人。参加資格は18歳以上の。学級日の運営だけではなく、担当者会や総括会議への参加、学級ニュースの作成、実践報告集の校正作業なども活動に含まれています。

当日担当者……仕事や授業などの都合により、担当者会への参加が難しいため、学級日のみ参加する担当者のこと。（役割は担当者と同様）

コース・班制……青年学級での自治活動を展開するための、10〜20人の基礎集団。やりたいこと（音楽・料理・スポーツ・工作など）を参加者が選び、希望別に分かれた集団のことです。

つどい……コース・班活動に入る前に、学級参加者全員が集まって歌をうたったり、見学者の紹介をしたり、近況報告をする場。朝と帰りに行っています。

成果発表会……年度の終わりに、1年間の活動の成果を発表する場。今年度、3学級ともに生涯学習センターで行いました。

青年学級を語る会……学級生が年度の初めに学級活動について話し合う場。前年度の反省と新年度の活動について学級ごとに話し合いを行なっています。

とびたつ会……青年学級よりも、より青年が主体的に活動することをめざした本人活動の会で、発展学級としての性格も併せもっています。04年に発足。

担当者会……青年学級に参加する担当者が集まって、週に1回開か

れる会議で、学級ごとに行っています。月2回の活動の準備や反省、活動やその他の場面での学級生との関わりの中で青年が表現する中から、青年の求めていることは何なのか、その実現に向けてどうしたらよいか、それをどのように今後につなげていくのかを話し合います。各学級の担当者会で2名程度の「学級主事」が選出され、会の進行をしています。

調整会……担当者から選ばれた学級主事と生涯学習センター職員で構成。青年学級を実施するにあたっての全体的な条件整備や調整を行い、担当者会に提示します。また学級間の情報交換・共有を図る会です。

父母会……青年の家族が、青年たちが現在抱える問題や将来の生活に抱える不安などを改善・解消するために設けている話し合いの場、及びその集団です。

送迎検討委員会……各学級から選出された数名の担当者（送迎委員）で構成される委員会。青年の通級に欠かせない送迎の保障について話し合い、取り組んでいます。

将来構想検討委員会……生涯学習センター長、生涯学習センター職員、各学級から1〜3名程度ずつ代表として選出された担当者（将来構想検討委員）、とびたつ会支援者で構成される委員会。青年学級の中長期的な将来像を検討するために組織されています。12年度以降は開催されていません。

活動内容の語句の説明

学級ソング……学級独自で作られ歌われる歌のこと。青年のことはや姿、口ずさんだフレーズなどを元に歌としてまとめています。こうした学級ソングはつどいの他、コース活動の中、行事などの場で一緒に歌うことで共有され、学級の一体感と盛り上がりの形成に一役買っています。既製の大衆文化におけるポピュラーな曲ではなく、障がいを持つ青年たちの生活実感や思いを反映したものです。それは、民衆文化としての自分たちの「文化の創造」と

いう青年学級で大事にされてきたテーマを象徴しています。

素材：…実際の学習活動におけるテーマや取り組みのもとになるもの。具体的には青年から直接的・間接的に出される要求や生活状況などで、それを共有することで活動を展開しています。

思い起こし・近況報告：…活動での話し合いの基本となるもの。青年学級での話し合いは多様な青年が参加しているため、青年の発言をまとめるだけではなく、意思表示を確認してコース・班全体で共有する作業が必要になってきます。青年一人ひとりの思いを共有するために活動の基本的なことを話したり、個人として話しやすい身の回りのことが話題にされたりしています。

作品づくり：…学級では一人ひとりが絵を描いたり、ねん土を作ったり、またコース・班全体で作品づくりに取り組んでいます。いわゆる工作的なものだけではなく、作った学級ソングをレコーディングでCDにまとめたり、作文や絵画を蓄積して文集にまとめたりすること、調理活動なども含まれます。

表現活動：…青年学級では二つの使い方をする活動で、一つは歌や劇といったコース・班で通常行われている「パフォーマンス活動そのもの」、もう一つは、主に成果発表会やクリスマス会など全体で行う催し物で作文を朗読したり、作った歌を披露したり、外出で調べてきたことを発表したり等、「活動内容そのものの紹介のための二次的な表現活動」との二つに分けられます。

いずれにしても成果発表会という一年の締めくくりが大きな目標になつており、成果発表会に向けて練習を重ねたり、発表のためにこれまでの活動を振り返り表現としてまとめあげたりすることで、単に青年の内部表出だけではなく、コース・班全体の活動を外在化するという意義もあります。

本人活動：…障がい当事者が決定権をもったグループ活動のこと。

日本における本格的な本人活動の芽は、91年の育成会全国大会本人分科会にあると言われています。この時結成された「さくら会」には、町田からも高坂茂さんという青年学級の先輩も参加されま

した。

それまでは、多くの場面で能力がないとされ、意見表明や自己決定等の機会が剥奪される傾向にあった知的障がいのある人たちが、「自分たちのことは自分たちで考えよう」と自らが社会変革の担い手であることを自覚し、学習や行動をする活動に取り組み始めました。実際の活動は幅広く、福祉の制度や自分たちの権利についての学習活動や、レクリエーションなどを内容としています。

スイッチ・指文字・筆談：…数年前より重度の肢体不自由や知的障がいのため、あるいはいわゆる自閉症などのために、言語的コミュニケーションが苦手とされる青年を中心に、スイッチパソコンで気持ちを話す方法が取り入れられてきました。現在では、パソコン自体は使用せず、通訳者が青年の体の一部に触れ、五十音を発音しながら一文字ずつ言葉を運び出していく「スイッチ」や通訳者が青年の一方の手（指）に手を添え、通訳者の掌に文字を書いていく「指文字」、青年が持つペンに手を添えて文字を書く「筆談」などがあり、コミュニケーション方法も多様化しています。

また、言語でコミュニケーションをとる青年も思いや意見を語る際、補足的にこれらを使う青年も増えてきています。また、パニックのような行動を見せた青年に対して気持ちを聞き、そのときの本人の考えや反応などを理解し、周囲の対応や受容につなげる実践がされています（詳細は08年実践報告集の特集を参照）。

学級名		活動単位		自治活動	内容
日曜学級	公民館学級	コース制	◆抱きしめたい心コース ◆ものづくりコース ◆生活とくらしを考えるコース ◆炎のファイト！ 健康体づくりコース ◆あおのなかまコース	班長会	各コースの班長・副班長とそれを支援する担当者と構成される学級活動後の会議。年間行事について調整や班長会ニュースの作成を行っている。
				つどい委員	有志が集まった学級生と担当者数人で構成し、朝夕のつどいについて企画・運営を行う。また合宿・クリスマス会・成果発表会は班長会と合同で運営していた。
	ひかり学級		◆ふれあいをつくっていくコース ◆無敵最強スポーツコース ◆ひまわり味彩大作戦コース ◆コスマリップ劇ダンスコース	班長会	ひかり学級全体について話し合いをする会議。 合宿・クリスマス会・成果発表会などの行事についてと、コースからの連絡を行った。
土曜学級		班制	◆ひまわりサンバ班 ◆レインボーウルトラスポーツ班 ◆はなよりだんご班 ◆ゆめとイベント班	班長会	各班の班長・副班長とそれを支援する担当者と構成され、成果発表会等の行事や、学級全体について話し合う会議。

第2部 公民館学級

第1章 コーす活動

こうみんかんがっきゅう
公民館学級 だ抱きしめたいこころ心コース (うた・がっき楽器)コース
 かつどう なが
活動の流れ

ひづけ 日付	かつどう <small>ないよう</small> 活動の内容
<small>がつ にち</small> 6月19日	<small>かいきゅうしき</small> 開級式
<small>がつ にち</small> 6月26日	<small>じ こしょうかい かかりぎ</small> 自己紹介、係決め
<small>がつ か</small> 7月3日	コース名の話し合い (「抱きしめたい心コース」に決定)
<small>がつ か</small> 7月17日	とっておきの音楽祭について話し合い <small>しんきょく</small> 新曲について話し合い
<small>がつ か</small> 9月4日	とっておきの音楽祭について話し合い
<small>がつ にち</small> 9月25日	とっておきの音楽祭に向けて練習
<small>がつ にち</small> 10月1日	<small>いちにちめ</small> 1日目 とっておきの音楽祭
<small>がつ か</small> 10月2日	<small>かめ ちょうしょくづく</small> 2日目 朝食作り (サンドイッチ、コーンスープ、ヨーグルト) <small>おんがくさい か かえり しんきょく さんぽ</small> 音楽祭の振り返り 新曲づくり 散歩
<small>がつ か</small> 11月6日	<small>しんきょく</small> 新曲づくり (絵や作文でアイデアを出し合い)
<small>がつ にち</small> 11月20日	クリスマス会について話し合い <small>しんきょく</small> 新曲づくり→ <small>かして</small> 歌詞になりそうな発言、 <small>きくぶん</small> 作文、 <small>かいたえ</small> 描いた絵のエピソードなどの振り返り
<small>がつ にち</small> 12月4日	<small>しんきょく</small> 新曲「人の心と花の香り」 <small>ひと こころ はな かお</small> 試奏 <small>しそ</small> ホールでリハ <small>みんな</small> 皆でカホン演奏
<small>がつ にち</small> 12月18日	クリスマス会 (午前にめくり作成) 「家族の写真」、「笑顔がつながっていく」
<small>がつ にち</small> 1月22日	<small>しんきょく</small> 新曲づくり <small>えんそう</small> ホールでメロディを演奏しながら確認
<small>がつ か</small> 2月5日	今年度のコース活動・ <small>しんきょく</small> 新曲について話し合い <small>しんきょく</small> 新曲「人の心と花の香り」が完成
<small>がつ にち</small> 2月19日	<small>しんきょく</small> 新曲「たいせつなこと」が完成 <small>はつびようかい</small> 発表会に向けて練習
<small>がつ か</small> 3月5日	<small>せい かはつびようかい</small> 成果発表会 「たいせつなこと」、「人の心と花の香り」

1 集団の特徴

前年度楽器・うたコースからのメンバーが7名、8名が他コースから新たに加わりました。楽器を演奏することやうたを歌うのが好きなメンバー、また2017年5月の若葉とそよ風のハーモニーコンサートを見据え、うたを作りたいというメンバーが多く集まりました。メンバーそれぞれが、今の気持ちを表現したうた作りをしていきたいという要求を持っていて、話し合いではリーダーシップをとれるメンバーたちが中心となり、それぞれが持つ自分の意見をメンバーに伝えていました。

2 活動のねらい

コース活動は、以下のように話し合うことで、明らかになった思いや願いを歌詞にして歌として表現することを前提に進められました。

- ・話し合いを通して互いの気持ちを知り、共有すること
 - ・様々な人達の前で自らを音楽で表現すること
 - ・自分が何を表現したいかを活動の過程で見つけ歌にすること
- 演奏中に相手の音や声を意識し、合わせることで仲間の想いを理解すること

3 活動の評価と展望

(1) 地域の音楽祭への参加

10月に、町田では初開催となる「とっておきの音楽祭」というイベントに出演しました。出演自体は担当者からの提案でしたが、青年に話すと、「やってみたい」「出る価値があると思います」という意見が多く、劇ミュージカルコース・健康コース・とびたつ会とともに参加しました。震災や出生前診断、やまゆり園の事件に関して作文で触れ、いのちの大切さを歌いました。近年の公民館学級ではあまりない、一般の通行人が通る道中の発表で、学級関係者以外でも何人か足を止めて聴いている方がみられました。出演後の振り返りの時間では、「知らない人の前でやるのはとても緊張したけれど、楽しかったです」「もっと色々な人に聴いてもらいたい」「他にももつと違う場所でもやりたくなった。路上ライブもいいですね」という感想が出ていて、「自分たちの想いをたくさんの人に届きたい」という気持ちが一段と強くなった活動でした。

また、他出演団体の発表も鑑賞しに行き、音楽にのって体を揺らしたり手拍子をしたりするメンバーや、「じーんときちやった」と発言するメンバーもいて、音楽祭自体も楽しむことができました。



なお、2017年度もこのイベントは開催が決定しており、出演と関わり方について、また青年と検討していくこととなりました。

(2) うた作りについて

コース結成当初から、新曲作りに意欲的なメンバーが多く、2017年度の「若葉とそよ風のハーモニーコンサート」も見据えて、曲作りはコース活動の主軸となりました。

作成方法としては、青年のコース活動で描いた絵、作文、発言などのイメージを共有していくことから始めました。絵を描くという活動は、通訳者のいない当コースにおいて、青年の想いを理解する一つのツールとして非常に有効でした。普段ことばをあまり発しなくても、絵であればどんな絵を描ける青年もいて、どんな絵なのか質問もしやすく、ひとつひとつを説明することから会話が広がりました。そして、作品に秘められたテーマを共有し、他の青年のインスピレーションにもつながっていききました。

そういった絵に込められた想いや、作文、これまでの発言を文字起こし、プロジェクターで投影しながら、全員でキーワード・キーフレーズを話し合い、まとめていききました。以下、完成した2曲についてできた経緯を記します。

○人の心と花の香り

大地沢合宿で新曲づくりの打ち合わせを行い、紙にイメージした文章や絵を描いた際、Yfさんが、早く震災で仮設住宅にいる人が

家に帰ることができるよう「贈る花」の絵を描いた事とMtさんが仕事で色々な方に贈る草花の世話をしています。と発言し、贈る花が新曲のイメージにつながりました。

合宿後の活動で、Akさんが歌詞を書いて発表しました。『さわやかな花にしたい。いろんな花が咲くと、心がきれいな花になる。花はいつまでも大切に生きていてほしい。ときどき、花にお水をあげると花は喜びます。』がベースになっています。またAkさんの歌詞を受けてMmさんが話してくれたこと「花を咲かせてみせましょう」は歌詞にもつながっています。

歌詞の内容はKkさんが、「たくさんの仲間の笑顔を描きました。仲間がいるときの楽しさを伝える」がBメロになるなど、青年の思いが多く反映されています。作成の過程では、絵や作文の中で挙げたことばである『花』『幸せ』『生きる』をいかに違和感なく盛り込むことを意識しました。一部の方にしか伝えて



いませんが、歌詞のサビにある『夕暮れ』というフレーズは、『やまゆり』に変えるとやまゆりに捧げた曲になるように作られています。タイトルの「人の心と花の香り」は紀貫之の歌から。現代語訳「人の心は、さあ、どう変わってしまったかわかりませんが、昔なじみのなつかしい土地では、花が昔のままに香っていることですよ」。こちらが青年の想いになじみ、タイトルとしました。

○たいせつなこと

このうたができたきっかけは、どんなうたを作りたいかとイメージを絵で描くことになった際、自画像を描いたThさんの『ぼくもみんなと同じように生きていて、そして同じように笑って生きていく』ということとを伝えたいと思って描いた絵です』という発言でした。このとき、やまゆり園のことを歌にしたいということとをコース内で話していたため、事件に通ずる発言だということが分かりました。そして、合宿での事件に関する話し合いの内容や、コースのメンバーの意見を踏まえ、犯人の「障がい者は生きていく価値がない」という主張や「何も分からないまま殺されてしまった可哀な障がい者」という報道に対し、「決してそんなことはない」という応えと命の尊さ、そして自分たちは、幸せを感じ、人生を色鮮やかに生きているという前向きなメッセージを世間や仲間へ伝えられるような歌をつくることになりました。

【1番…やまゆりの仲間や一人ひとりのいのちの尊さをうたう】
美しいのちが突然奪われてしまったことへの悲しみを伝える

ものとして、青年からやまゆりの仲間への詩が提案され、ほぼそのまま歌詞にしています。また、Maさんが19本のミサングをやまゆりの仲間のために作り、やまゆり園を訪問したコースに託しました。その時の気持ちを『心を込めてミサングを編みました。一本一本のミサングは、たくさんの糸をより合わせているように、一人ひとりの人生がより合わされてできています』と語りました。奪われたいのちにはそれぞれの人生があつて、それは家族や周囲の人と育んできた一つひとつの人生であつたことは、青年が一番知っているからでしょう。ミサングを編むことでその人生に想いを寄せる、Maさん自身が歌詞になりました。

また、話し合いの中で、『やまゆりのいのちや、しっかりと人生を生きていた仲間がいたことを想い、忘れないという言葉を入れた』という発言をもとに、「忘れない」という言葉が歌詞に入っています。

【2番…自分たちの人生をどう捉えているか。どう生きていくのか】

コースの話し合いの中でも、やまゆりの事件への怒りや悲しみを伝えるというよりも、そこからどういう想いを伝えていきたいのか、ということにメンバーの主訴がありました。

『辛いこともあるけれど、仲間や担当者や幸せに生きていることを伝えたい』というNfさんの発言や、これまでコースで聞いていた友だちや職場、家族のエピソードから「大好きな人や大好きな場所があること、幸せなことをたくさん感じている僕らの人生はなんて鮮

やかで、なんて愛おしい」「僕は僕らしく人生を楽しんで生きています」という発言をもとに歌詞が作られました。

このように、やまゆりの事件を受けてできた歌ですが、決して暗い歌ではなく「当たり前のことだけれど見過ごされてしまった、たいせつなこと」「生きる喜び」を明るく歌い上げる歌となりました。

Nfさんが『私の想いを伝えるためには、歌が一番いいと思います』と語っていましたが、そういった意味で、それぞれの気持ちを歌として形にできたこと、またこのタイミングで若葉とそよ風のハーモニーコンサートで歌うことができたことは良かったと思います。

(3) コミュニケーションについて

このコースには通訳ができる担当者がいなかったため、うたの歌詞に関する内容や、やまゆり園の話など、ことばをしつかりと聞きたい（話したいと思っっているような）場合は他コースの通訳ができる担当者に一時的に入ってもらいたい意見をききましたが、それ以外では通訳は使いませんでした。青年の表情で感じたり、それぞれ声かけを大切に、コミュニケーションをとっていききました。

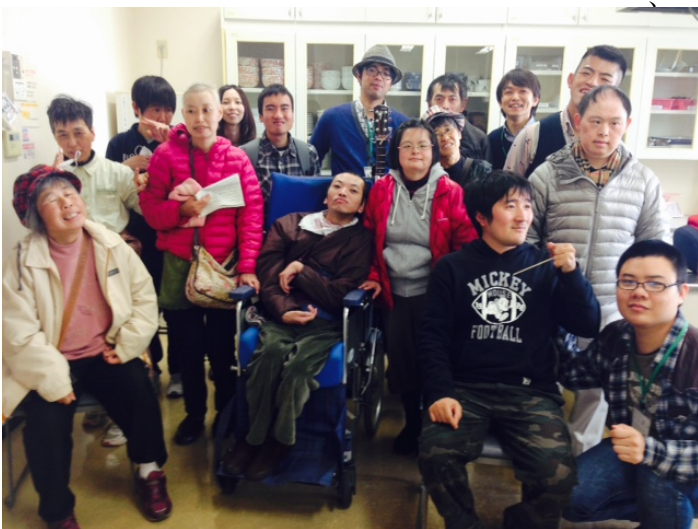
活動の進め方については、担当者は最初の提案さえするものの、それはきつかけに過ぎず、あとはもともと青年の中に存在する意欲や伝えたいことがどんどん出て、それが色濃く活動に影響を与えていました。学級歴の長い青年が中心にリードし、他の青年に意見をふつたり、話しやすい雰囲気です活動を進めました。

また、音楽コースならではの活動としては、太鼓サークルに所属

しているToさんが、初めて打楽器を演奏したいというMtさんに、叩き方のアドバイスをしたり、見本を見せたりする交流がありました。Toさんが活動に出来ないことも多かったですが、Mtさんが代わって、ベテランのKkさんと協力してコースのリズムをつくっていました。

(4) 今後の展望

今に限ったことではありませんが、特に今年度の音楽祭やうたづくりを通して、青年の中の「たくさんの人に自分たちの想いを届けたい」という気持ちの高まりを感じました。若葉とそよ風のハーモニーコンサートがその一つの発信の場所になっていきますが、それ以外にも、これから発信の手段・機会をどう作っていくかを考えていくということが一つの課題となってくるのではないのでしょうか。今後では、地域の音楽祭に出るのか、今回青年から発言があったように、路上ライブのような機会を自分たちで作っていくのか、他の手段はどうかなど、検討していきます。



人の心と花の香

2016 by 抱きしめたい心コース

♩ = 100

C G Am Am7/G F C B♭ G
あかねいろにそまつたそらをふとみあげるとー

5 C G Am Am7/G F G Csus4 C
ぼくらだけのけしきふじさんがめにうつつた

9 FM7 G Em7 E7 Asus4 Am
いつだってさいてはいない ぼくらだからここ

13 Dm7 Em7 F Gsus4 G
にあつまれているしあわせのいまをゆうぐれ

18 C G Am7 G
にひびきわたるいまだけのゆめのねいろこの

22 FM7 G Em7 Am7 Dm7 Gsus4 G
きせつにしかないようなうたをさかせるためにさわやか

26 C G Am7 G
にさきわたるいまだけのゆめのけしきこの

30 FM7 G Em7 Am7 F G 1. C G 2. C G
きせつにしかないようなはなをさかしてみたいゆうぐれいもっと

35 Em7 E Asus4 Am
みずをわけあいえんになってうたえるぼく

39 F G Csus4 C
らのこのばしょをとどけたい

たいせつなこと

2016 by 抱きしめたいコース

♩ = 116

C Am7 G
 まちがってないよ ほくらのいきかた そんな
 F/G Gsus4 G
 Em7 Am7 F
 なあたりまえのこと きえも うた
 C Am7 G
 Em7 Am7 F/G C
 がうひとが どこかにいるのなら ぼ
 F/G C
 Am7 Am7 F F/G C
 Em7 Am7 F/G C
 ぐらはいま そいつとつたえたい ぼ
 F/G C
 Am7 Am7 F F/G C
 ぐらはわらっていきまていてる C G7
 A さいはで こんないええるとも のに
 E7sus4 E7
 Dm7 Am7
 あなただけ ありがとうと一も
 F C G7
 Am
 はなはは ありがとうと一も
 F/G G
 Dm7 Am7
 むくひょう がつくさいてたの に
 F/G G
 B ひろわせな りこと Em
 F/G G
 Em7 Am7 F/G C
 すてきな おもい

Em E7sus4 E7
 Gsus4
 Em7 Am7
 ミサさんが家あんし だて りる
 Em7 Am7
 たくさんのほくのいらの
 Em7 Am7 F
 ごひさやかのあゆみがいとおかし わら
 Dm7 D7 G Gsus4 G
 C
 あつていようよ ほくはぼくらしく じん
 F/G Gsus4 G
 Am7 Am7 F F/G G
 せいまたのしんでいき たく
 C G/B G
 れのあかいこから きよよ
 Am7
 あつたのちのあつたの
 Am7/G Am7/G F F/G C D.S.
 FM7 Em7
 いささんのせひ
 Am7 Am7/G F F/G C
 FM7 Em7
 くらのさんの
 Am7 Am7/G F F/G C
 73
 くらはは
 Am7 Am7/G F F/G C
 (ゆっくり) FM7
 76
 くらはは
 Am7 Am7/G F F/G C

6月19日	開級式
6月26日	自己紹介、コース名決め、 今年度の活動でやりたいことについて話し合い
7月3日	今年度の活動でやりたいことについて話し合い
7月13日	近況報告、役割分担
9月4日	津久井やまゆり園事件について話し合い、 合宿について話し合い
9月15日	合宿について話し合い
10月1日	合宿 1日目：町田あいす工房ラッテ見学
10月2日	合宿 2日目：調理【ラーメンと餃子づくり】
11月6日	牧場見学について話し合い
11月20日	相原・中島牧場 見学
12月4日	クリスマス会について話し合い、 牧場見学の思い出、作品づくり（絵・牛の帽子 制作）
12月18日	クリスマス会
1月22日	成果発表会について話し合い、 初詣（母智丘神社）、作品づくり（絵の制作）
2月5日	成果発表会について話し合い、作品づくり（大きな牛の絵 制作）
2月19日	成果発表会について話し合い、作品づくり（大きな牛の絵 制作）
3月5日	成果発表会



1 ものづくりコースとは

今年度は男性7名、女性4名、計11名がものづくりコースに集まりました。メンバーの半分が入れ替わり、新たな顔ぶれで活動が始められました。今回、ものづくりに初めて挑戦する青年からは「まだ何が作れるかわからないけれど、自分の思いを作品に表現する力を試したい」という意気込みも語られました。

年度当初におこなわれた話し合いでは「絵を描きたい」「ものづくりや外出などにも取り組みたい」という意見や前年度から挙がっていた「障がいをもって生きる」というテーマについて考えていきたいという意見もあり、一年間を通して皆で考えていきました。

2 活動の様子

(1) 話し合い

仕事と生活、障がいをもって生きること

今年度は前年度からあがっていた「障がいをもって生きる」というテーマについて考えていきたいという意見や仕事・生活での悩みなどが話題にあがりました。ある青年は現在、実家を出て通勤寮で生活していますが、そろそろグループホームへの引越を

考えなくてはならない時期に来ていることを語り始めました。慣れた場所から離れる不安や憂鬱な気持ちでいることを吐露する反面、「(引越については)考えるのも嫌だけれど、学級活動の中でグループホームの見学に行くのはどうか」と前向きに問題と向き合おうとする姿がありました。この意見には実家で暮らしている青年からも賛成の声があがりました。「母が元氣だから今は家族が皆一緒に暮らせているが、母の体調が悪くなったら家族が(特に障がいのある兄とは)バラバラになってしまう」という不安を語り、将来への不安は皆が抱えている思いであることを共有しました。

また、7月に起こった「津久井やまゆり園事件」がきっかけとなり、「障がいをもって生きること」や「命」について、さらに深く思いを語り合うことになりました。

「どのよう存在でも命は等しく尊いということを認め合うことが必要なのだと思う。」

「障がい者だけでなく世の中には虐げられている人もいます。私たち障がい者を差別する人たちは世の中で差別されている人なのではないか。差別されている人の痛みを理解し合うことが必要だと感じる。(やまゆり園の事件は)障がい者だけの問題ではないというのが本質にあるのだと思う。」

― 虐げられている人は自分の命の尊さを認められているという感覚が持てないために、障がい者や他の立場の人を劣った存在として扱うのかもしれない。自分の命の大切さを認め、他の人の命の大切さを認められる世の中を目指していかなければならないと思う。

心に重くのしかかる話題が続き、話し合いを続けるのが苦しい時もありましたが、今話さなければという思いを互いに感じ合い、何度も機会を設けては、思いを語り合っていました。

(2) 合宿 町田あいす工房ラッテ・調理

合宿についての話し合いでは調理がしたいという意見が多く、作りたいものをそれぞれ提案しました。餃子、ラーメン、すいとん、カレーなどが案としてあがる中、話し合いで餃子とラーメンを作るようになりました。ある青年は「普段は作られたものを食べているので、自分で決めて作るのも生活を考える上では大切。」と意気込みを語りました。また「食事」についても考えを巡らせ、「食事をすることは生きることだと思えますが、皆さんはそのことについて考えたことはありませんか。食事は命ある生き物を殺して食べるということですよ」と話しました。他の青年から牧場などを見学して、そのことについて考えるのはどうかと

提案があり、町田あいす工房ラッテと近隣の牧場を見学する方向で、合宿当日に向け調整していくことになりました。当日は有志のメンバーが午前中から集まり、手分けをして餃子とラーメンの食材を購入することにしました。メインの餃子は美味しい挽肉を買おうということになり精肉店にて購入することにしました。野菜や果物は近くのスーパーで買い出しをしました。普段から家族とよく買い物に行くという青年は、積極的にカートを押したり、食材を手にとってじっくりと選んだりしていました。

午後、全員が集合し、いよいよ出発。電車とバスで町田あいす工房ラッテへ向かいました。10種類以上あるジェラートのそれぞれ好きな味を選び、お店の外にあるベンチに座って皆で自然を眺めながら美味しいジェラートを食べました。

この機会に近隣の牧場も一緒に見学したいという希望でしたが、調整が取れず見学は断念。

牧場の外からでも牛を見てみようということになり、歩いて牧場を目指しますが歩けど歩けど目的の牧場はありません。後にわかったことですが、目指していた牧場は数年前に移転してしまっていました。



した。結局この日は牛に出会うことはできず、暑い中ずいぶん歩いたので、ヘトヘトになりながら大地沢青少年センターに何とかがたどり着くことができました。

2日目のメインは楽しみにしていた調理。手順を確認し早速作り始めることにしました。材料のキャベツをきれいに洗ったり、隠し味の白菜の浅漬けをみじん切りにしたり、挽肉を粘りが出るまで混ぜたりと、全員で分担しながら作っていました。包む作業は全員でおこないました。餃子づくり初挑戦の青年はラップを使ったお盆の上に餃子の皮をのせ、ひとつずつ丁寧に包んでいきました。餃子をフライパンで焼く作業も一苦労。汗ばむほど熱いコンロの前で、100個近くの餃子を焼いていきました。それと同時にラーメンも作業開始。袋からラーメンの麺をとり出し、ほぐして、大鍋でゆでていきました。アツアツの餃子とラーメンが完成し、全員そろってお昼ご飯になりました。あんなに時間をかけて包んだ餃子もぺろりと完食。焼き加減も絶妙でしたが、何よりみんなで一緒に協力してつくった餃子の味は格別でした。



(3) 牧場見学と牛の絵

合宿の際に行けなかった牧場見学について、きちんと調整して見学に行きたいという声があり、合宿後の活動日から計画を練っていきました。知人を通して町田市内で牧場を営んでいる中島牧場の中島さんを紹介してもらい、11月上旬、活動日とは別に班長と担当者で下見に行き、交通手段や道順を確認しました。中島牧場でもお話を伺い、後日、活動日に班長から報告しました。牛たちがどのように暮らしているのか、また牧場での仕事はどのようなもののかなど、聞きたいことを質問事項としてまとめ、見学に向けて準備をしていきました。

当日は早めに集合し生涯学習センターを出発。町田から電車で相原駅に向かいそこからバスで、牧場を目指しました。到着すると20頭あまりの牛たちが牛舎でのもみりとしているのが見えました。牧場の主の中島さんから、牛たちの一日の生活や誕生してからその命を終えるまでのこと、商品となる牛乳のことなど、たくさんのお話を伺いました。メンバーも「これは何ですか？」と指をさして質問したり、牛に近づいて触れてみたりと積極的に見学しました。



なかでも熱心に牛と触れあい、中島さんからお話を伺っていたのは2度目の訪問だった班長でした。後に触れ合った感想を次のように話していました。

「牛の命は私たちと同じように尊い。牛はみんな命を輝かせているので、私たちも命の輝きを大切にしていかななくてはと考えました。」

(4) ものづくり

11月におこなった牧場見学は生きることや命について考える上でも大きな一歩であったと同時に、ものづくりにおいても重要な活動の一部となりました。

見学後の活動では写真をもとに様子を振り返り、クレヨンや絵の具で牛の絵を描いたり、画用紙と薄手の紙を使って立体的な牛の帽子を作ったりしました。見学の時に見た牛の眼が印象的だった様子で、目を何色で塗るのが良いか、周囲のメンバーと相談していました。水色に塗られた目は「牛たちの目が優しく輝いていた」という感想の通り、きらりと輝きを放つ、こだわりの一作品になりました。

また、皆で大きな絵を描くのはどうかという提案があり、牛と触れ合う班



長が写った写真をモデルに絵を描いてみることにしました。模造紙4枚分の大きな紙を壁に貼り、その上に重なるようプロジェクトクターを使って写真を壁に拡大して映し出し、線をなぞっていきましました。色は絵の具を水で溶かしスポンジに吸わせてトントン叩いたり伸ばしたりして塗っていきました。牧場から見えた風景や優しい目をした牛、そして班長が笑顔で牛と触れ合う姿が描かれた絵が完成しました。この大きな絵の制作についてメンバーからは「ものづくりは苦手でしたが、こんなことができるのだと新しい発見だった」「とても楽しい活動だった」といった感想があり、楽しく印象深い活動になりました。

3 成果発表会に向けて

成果発表会に向けた話し合いでは、「一年間の活動を振り返りたい」、「牛の絵を発表したい」「障がいをもって生きることについて話してきたことを舞台から伝えたい」などの意見があり、発表の仕方や細かい内容について考えていきました。まずはそれぞれ印象深かった活動をあげ、その部分をそれぞれが担当しようということになりました。「障がいをもって生きること」についてはたくさん時間をかけて皆の思いを共有してきたので、代表者を決めその人が一年間、皆で話してきたことを踏まえて話をしようということになりました。事前に発表用原稿をつくり、

その内容をコース全員で確認しました。また、長年、青年学級で活動してきた青年からは「学級のごとで作文を書いて発表したい」という提案があり、さっそく原稿用紙にまとめ本番に備えました。

成果発表会当日は、発表内容を確認し、まず司会役を決めることにしました。普段は控えめで遠慮がちな青年が「やってみようかな」と立候補し司会も無事に決定しました。その後、実際に原稿を読んで時間内に発表できるかどうか練習をしました。本番はあつという間。活動の記録として撮っていた写真とともに、一年間を振り返り、作品や思いを発表していきました。

そして発表の最後に、長年ものづくりコースで活動してきた青年が活動に対する思いを語り、発表を締めくくりました。

—僕は学級には障がいを持つ仲間と話すためにきています。話すことで悩みを分かち合い、立ち向かう勇氣をもらっています。障がいを持つ僕の悩みは、話ができない人として扱われることです。僕は耳が聞こえませんが言葉はわかるので、話ができる場所がほしいです。母との生活もグループホームに移っていかざるをえませんが、できるだけ学級にきて話したいです。とても話ができる人と思われくらい話をしていきたいので、よろしくお願ひします。

一年間を振り返ると、ものを作る活動よりもそれぞれが抱える悩みや思いを語り合うことの方が多かった一年となりました。また、話題も何か解決したり、結論を出せるものではないことばかりで悶々とすることもありました。しかし、成果発表会の舞台上では、仲間と一緒に何でも語り合える場があることの喜びが語られ、青年学級という場がいかに大切なものかということを変更して確認する機会になりました。

発表終了後、青年からは「牛の絵を描いたのが楽しかった」、障がいをもって生きることをテーマに話し合っ、それを伝えられてよかった」、「みんなと一緒に思いを話し合うことで、今の状況に立ち向かう勇氣が湧いてきた」などの感想があがり、一年の活動を締めくくりました。

6月12日	開級式、コース決め
6月19日	自己紹介、係決め
7月3日	青年の父母の訃報について
7月17日	午前：合宿について 午後：発表の内容について
9月4日	午前：夏休みの思い出 午後：合宿について
9月25日	合宿について
10月1日 ～2日	合宿 1日目：買い出し、音楽祭の見学、キャンプファイアー、相模原事件について 2日目：朝食作り、散歩、相模原事件について
11月6日	午前：合宿の振り返りについて 午後：クリスマス会について
11月20日	次回の調理活動について
12月4日	パン作り
12月18日	クリスマス会
1月22日	成果発表会について
2月5日	成果発表会について
2月19日	成果発表会について
3月5日	成果発表会

1 集団の特徴

16年度の生活とくらしを考えるコースは1名(男性)10名、女性4名の活動になり、昨年度から引き続き参加しているメンバーと新たに他のコースから来たメンバーとが半分くらいです。

生活とくらしを考えるコースでは、昨年度と同様に、担当者のコミュニケーションツールが確立しています。コミュニケーション援助のできる担当者がいるときには、その方法を用いており、援助のない場面では独力で意見を述べる事ができるメンバーや活動歴が長いメンバーが話し合いを進めています。

また、車椅子の仲間の介助に対して積極的なメンバーもおり、移動や食事の場面では、大切な役割を果たしています。

2 活動のねらい

生活とくらしを考えるコースでは、以下の2点の事を大切にしています。

- ・仕事や生活について一人ひとりの言葉を大切に、話し合いを深め、仲間の考えや問題を共有する。

話し合われた内容をもとに、表現活動へつなげていく。

3 活動の様子

(1) 青年の父母の死について

母を亡くした青年から訃報の話があったことに対し、コースで思いを話し合いました。

「母を亡くしてしまった青年の気持ちが辛い。しっかりと受け止めて真つす

ぐ前を向いていて、とても強いと思う。」

「母が亡くなると思うと悲しくて仕方ない。母が亡くなったら、ヘルパーに頼るか施設に入ると思う。」

「父が亡くなった時、家に戻れたけど別室にいたので辛かった。本当に死はいつ誰にきてもおかしくない。」

その後、「おいたちの歌を歌いたい。生きる意味を考えたい」という意見があったので歌った。

母を亡くし、落ち込み悲しんでいる青年を励ます声や父母の死という誰もがいつかは迎える問題について話しました。

(2) 体調不良で活動に参加できなくなったHkさんについて

体調不良の中、朝の集いに1時間だけ久しぶりに参加できたHkさんについて話し合おうと提案がありました。

「僕たちの仲間が学級に來られなくなった時のことをみんなで考えました。もう少し本人から話があつても良かったと思う。」

「少し前から車いすに乗って生活している。今回(1時間だけでも参加したのは)、もう來れないという覚悟があつてきたのかもしれないと思う。

病気のことは分かりませんが、担当のスタッフからはあまり良くないと聞いているので心配している。今日も長くいられなかったのは、そういうこともあるのだと思つている。本人はそこまで話さなかつたので、みんなそこまで大変な気がしている。」

「私はHkさんといつも近くにいるので様子が少し違つていたことがずつと気になっていましたが、今話を聞いて納得しました。」

「仲が良かった青年にとって、辛いと思うので、歌って気分転換しましう。」

今まで一緒に活動を共にしてきた青年を心配する声や別れを惜しむ声、また仲が良かった青年を慮る声がありました。

(3) 津久井やまゆり園について

合宿の1日目の全体交流会で話し合いが行われた翌日、改めてコース内で津久井やまゆり園での事件について話し合いをしました。

「昨日の(津久井やまゆり園の)話し合いではああいった犯人が生まれるのが疑問で仕方ないと感じた。」

「とても衝撃的だった。犯人が許しがたい。」

「私たちはいろいろ考えているということは社会の中で伝わっていない。」

「僕たちがこの場で話していることが僕はとても素晴らしいと思っるので、どうにか伝えたい。」

「意見を言うことで僕たちは何が変わっているかと思いつながら次に何をすればよいか考えたい。」

「私たちの言葉をどうやって理解してもらえるのかを考えたい。」

戦後最大の殺傷事件に対する怒りや、自分たち自身や活動の素晴らしいが理解されていないこと、どうすれば理解されるのかといったことが話し合われました。

(4) 仕事について

作業所の職員が見学に来たことをきっかけに仕事について話し合いが

行われました。

「絵のほかにも焼き物だったり、木工製品などのものづくりもやっている。少しずつ仕事の幅が広がったと思っています。」

「テクニクが必要な仕事もあって、そこはもう少し練習が必要。」

「ドアの開け閉めだけでなく、エサやりや売店の仕事もあるので、やって

みたいけれど、なかなか新しいことにチャレンジできないのが残念。」

仕事に対する真摯な思いや切実な願いが話されました。

(5) 調理活動について

職場でパンを販売している青年からパンを作りたいという声を受けてパン作りを行うことになりました。

「僕はパンを作ってみよう。いつもはパンを売っているが、なかなか作る

仕事にはたどり着けない。パン作りが

どれだけ大変か知ってみよう。その

大変さが分かれば売るときに気持ち

も大きく変わってくる。」

調理後には、「粉を量る」一番最初

からできたのが良かった。」や、「自分で作ったから、一段とおもしろかった。」、「みんなの愛がこもっていた。」と充実した活動だったことがうかがえました。



(6) 青年Mmさんの訃報について

公民館学級ニュースでMmさんの突然の訃報が届き、驚く青年達は、活動の中で、自然とMmさんとの思い出を話し合いました。

「公民館ニュースで亡くなったことを知り、ショックだった。」

「仲が良く、震災の話をした。」

「一緒に歌を作った。」

「Mmさんの話が出来て良かった。偲ぶことが大切だと思った。」

など、皆の思いが語られました。

(7) 成果発表会について

成果発表会に向けた準備をする中で、何を発表するのにかについて話し合いが行われました。

「亡くなった青年や学級に來れていない青年について話したい。」

「仕事のことをもう一度話したい。」

「親が亡くなったことを作文で伝えたい。」

こういった意見が多かったため、成果発表会では、作文を読み上げる形を取ることにし、リハーサルをする中で、青年達からいろいろなアイデアが出てきました。

作文をそのまま読み上げるのではなく、伝えたいことを絞って読んだり、誰が発表しているかを分かりやすくしたりなど、発表に向けた工夫をしました。

(8) 話し合うひらき

通訳(筆談)をできる担当者がいる際には、通訳(筆談)を用いて話し合いを進め、いない場合は、言葉や気持ちを伝えることができる人を中心に話し合い、あとで全員の意思の確認を取るといった形をとりました。

話し合いの内容としては、長年、くらしコースで活動していた仲間が亡くなり、その人がどのような想いを持って活動に参加していたのか、またその想いを受けて、今後自分たちがどのようなように過ごしていったらいいかなど、それぞれがそれぞれの立場から発言し、共有しました。悲惨な津久井やまゆり園事件のあと、命の大切さや生きることの意味を考え、「自分たちのことを知ってもらえるのか、知ってもらいたい。」という思いを発信していくことに向け、前進した話し合い、活動となりました。前期は、その日に出了意見について話し合うことが多かったが、後期は「仲間の死について」、「仕事のこと」などのテーマについて話し合うことができました。

自身を取り巻く生活や家族のこと、仲間の死に、仕事のことについて等話し合ったテーマは、一見違うカテゴリーに見えるかもしれないが、その背景には「いのち」、「いきること」という一貫した大きなテーマがあって、これらの話し合いがひとつに繋がっているということに気づかされた一年間の活動でした。

4 課題と展望

コースの活動として、コミュニケーション援助としての通訳(筆談)が絶対必要ではなく、担当者の体制によつては、調理活動等を行うことで全員が活動に参加することができました。調理においては、準備や担当者の人数が

必要ひつようですが、全員ぜんいんが参加さんかできるといしてんう視点してんから見みれば、良いい活動かつどうであるといえます。

ただし、通訳つうやく（筆談ひつだん）がいないから、活動かつどうが進すすまないということはありませんでしたが、いるといないでは、全員ぜんいんが意見いけんを交流こうりゅうできるので、広ひろがりと深ふかまりといてんう点てんについて違ちがいがあるのは確たしかであります。

今こん回かいの成せい果か発はつ表びょう会かいについて話はなし合あった内ない容ようで、歌うたが作つくれたりすらば、合がっ宿しゆくで他ほかのコーこースすが出でた』とおきおの音おん楽がく祭さい』等など、発はつ信しんの場ばで披ひ露ろうでき、
より多おおくの人ひとに知しつてもらおいたおいといおも思おもいにつかつたうなる活かつたう活動かつどうがでこんこで
はないなかあでしなうか。どおのよおうおに活かつたう活かつたうをアおウおトおプおツおトおしておいおくおのか、今こん後こも
活かつたうの中なかで話はなし合あつていおきおいおきたいおと思おもいます。

こうみんかんにがっきゅう ほのお けんこう
公民館学級 炎のファイト！ 健康からだづくりコース

かつどうのながれ

6月12日	開級式
6月19日	コース決め、自己紹介、午後の活動の話し合い、役割決め
7月3日	コース決め、自己紹介、係り決め、七夕短冊制作 次回の活動の話し合い
7月17日	音楽祭出演の話し合い、熱中症の話し合い、予防ドリンクづくり、芹ヶ谷公園へ外出キックベースボール練習
9月4日	朝のつどいで話し合い（やまゆり園の件）ひかり学級と打ち合わせ（交流試合について）コース名、合宿の話し合い
9月25日	合宿1日目、音楽祭見学、キャンプファイヤー（追悼）、全員で話し合い
10月1日 ～2日	合宿2日目、朝食調理活動、昼食おにぎりづくり、高尾山ハイキング
11月6日	合宿の思い起こし、交流試合応援依頼の手紙作成、次回の活動の話し合い
11月20日	クリスマス会について班長会から課題の話し合い 芹ヶ谷公園で練習
12月4日	桜美林大学グラウンドに移動、交流試合、ひかり学級クリスマス会参加
12月18日	班長会から課題の話し合い、クリスマス会発表の話し合い、クリスマス会
1月22日	つどいで亡くなった仲間の追悼、正月の生活の話し合い、次回の活動の話し合い
2月5日	外出（やまゆり園にミサンガを届ける）相模湖界隈をウォーキング 外出の思い起こし
2月19日	班長会からの課題の話し合い、1年の思い起こし、発表会の話し合い 作文づくり、絵を描く
3月5日	活動の確認、台本読み合わせ、リハーサル小道具づくり（絵を描く）、成果発表会

今年こそ、キックベースでひかり学級に勝ちたい！

「キックベースを練習して強くなり、ひかり学級との試合に今年こそ勝ちたい！」いろいろなスポーツをして体を鍛えたい」という思いの青年、男性7名、女性2名が集まりました。30代後半から40代の青年がほとんどで3名が20代です。3名がグループホームで暮らしていますが、ほとんどの青年が家族と生活しています。1名の青年以外は健康体力づくりの経験者でひかり学級とのキックベースの対戦に負け続け、「今年こそ」と闘志を燃やしていました。

1 集団のねらい

運動をすることに興味と関心を持ち、「交流試合に勝つ」という明確な目標からスポーツに積極的に参加することで、体力を増進し気力をつけていく事を大きな目標にしていきました。また、仲間との活動の中で互いを尊重し認め、仲間づくりへ、そしてチームワークづくりにつなげ、キックベースの試合の勝利につなげていくこと。ルールを意識し、ゲームを楽しんでいく事。健康を維持、増進するための話し合い、食文化の知識も話し合ったり、体調が悪い時の様子も出し合い、経過を伝え、互いに共有していくことも方針にしていきました。

2 健康体力づくりの活動

(1) キックベースの練習をしよう

年度初めの活動はコースを構成していくため、どうしても話し合いが多くになります。そんな時、気分転換にとウォーキングをしてから近くの芹ヶ谷公園へ行き、準備運動後、ボール投げやキックの練習、試合を楽しみました、健康コースに初めて入った青年は、打席につくと、何回かの練習でコツを覚え、踏ん張ってキックをし、1塁ベースに走っていました。ボール投げ、キックをしつかり練習した青年は、ピッチャーが投げたボールにうまく合わせ、三遊間を突破して2塁打の活躍をしました。キックしたボールが飛ぶと「やったー」と喜びを表現し、満面の笑顔を見せていました。それぞれの自信から、ひかり学級に挑戦状を書いて対戦する活動につながりました。「私が下書きを書いたら」という青年の後、皆でマジックで挑戦状を仕上げました。ひかり学級のチームの人数は、公民館の2倍ということで、「学生さんに手伝ってもらおう」と、地域の桜美林大学の学生さんへも手紙を書きました。その後は寸暇を惜しんで公園やホールで試合形式で練習しました。

(2) 交流試合

夏休み明け最初の活動日にひかり学級「無敵最強スポーツコース」からキックベースの交流試合を申し込まれました。交流試合は12月4日、場所は昨年と同じ桜美林大学という事を皆で確認しました。このときにまだコース名が決まっていなかったため、ひか

り学級の「無敵最強」というコース名に触発され、自分たちのコースも名前を決めようという事になりました。「炎のキックベース」「ファイブ！健康からだづくり」「強い健康からだづくり」と「無敵最強」に対してのネーミングの意見が出ました。結局「炎のファイブ！健康からだづくりコース」に決定しました。

12月4日10時、桜美林大学グラウンドに着き、軽く準備運動を行い、練習しました。11時過ぎに無敵最強コースが到着、ひかり学級の青年によるキックベースのルール説明を聞いた後、試合が始まりました。ジャンケンで先攻になり、1回表に3点入りました。その裏で6点取られ、結果1点差で負けてしまいました。皆、残念そうな様子でした。しかし試合後は対戦に敗れたことを引きずることなく桜美林大学の学生やひかり学級生と交流していました。ひ

かり学級の活動場所のひかり療育園で一緒に弁当を食べ、公民館学級からひかり学級に移った青年や担当者との旧交を暖める姿が見られ、良い機会でもありませんでした。



(3) 健康について考えよう

連日、熱中症のニュースが聴かれるようになりました。「毎日暑いけど、熱中症になってないですか？」という話題を担当者が投げかけると、自分の経験や職場の仲間の様子などから話が盛りあがりました。「頭が痛くなる」「気持ちが悪くなる」その他「目の前が暗くなる」「顔が白くなる」「水を飲んでくださいってお天気キャスターが言っていた」などの会話が弾み、皆で十分気を付けようとして確認しました。午後から芹ヶ谷公園で体を動かすことになっていたのですが、熱中症にならないよう、予防ドリンクづくりをして持っていたということになりました。何を入れるかを皆で出し合い、購入しました。梅干し・レモン・はちみつ・水を合わせ、ペットボトル500ml分のドリンクをつくりました。梅干しが苦手な人は、梅干し抜きのドリンクをつくりました。料理の得意な青年がペットボトルに入るようレモンの皮を小さく切り、自分自身でレモンを絞り、レモン汁を作り、味見をしながらハチミツを入れました。午後はキーンと冷えたペットボトルを持って、原町田市民の森を通り、少しウォーキングしてから芹ヶ谷公園へ行きました。しばらく体を動かした後には蒸し暑さに皆、手作り熱中症予防ドリンクを飲んでいました。その後の活動でも、青年も担当者も熱中症のことを意識して水分摂取や体調を気遣う言葉が交わされていました。

(4) 外出

合宿のハイキング

昨年(さくねんど)度(ど)活動(かっどう)の候補(こうほ)にあがっていましたが、ハイシーズンによる混雑(こんさつ)のため(ため)、高尾山(たかおさん)には行(い)けません(せん)でした。今年(ことねんど)度も登山(とざん)の希望(きぼう)がありました。計画(けいかく)の話(はなし)し合い(あ)どおり(お)り6時(じ)に起床(きしょう)し皆(みな)、気合(きあ)い十分(じゅうぶん)、サンドウィッチ(サンドウィッチ)と、リンゴ(りんご)、コーンスープ(コーンスープ)などをしっ(し)かり食(た)べ、自分(じぶん)のおにぎり(おにぎり)(シヤケ、梅干(うめぼ)し、昆布(こんぶ)入り)を作(つく)って、リュック(リュック)に入(い)れ7時半(しちはん)には大沢(おおさわ)を出(しゅっ)発(ぱつ)しました。バス(バス)グループ(グループ)4名(めい)は法政(ほうせい)大学(だいがく)まで歩(ある)き、京王(けいおう)バス(バス)に乗(の)って、京王(けいおう)線(せん)めじろ台(だい)駅(えき)で下(げ)車(しゃ)、電車(でんしゃ)で高尾山(たかおさん)口(ぐち)までと(と)いうル(る)ート(と)で向(む)かいました。9時(じゅう)過ぎ(すぎ)にはケ(け)ーブル(ぶる)駅(えき)に到(た)着(ちゃく)しました。登山(とざん)グ(グ)ル(る)ー(う)プ(ぷ)5名(めい)は大地(おおち)沢(さわ)青(せい)少年(せうねん)セン(セン)ター(ター)の裏(うら)山(やま)の草(くさ)戸(ど)峠(とが)に8時(じゅう)過ぎ(すぎ)に到(た)着(ちゃく)し、早(はや)いペ(ペ)ース(ース)で歩(ある)きました。しかし(しかし)途(と)中(ちゅう)、ケ(け)ーブル(ぶる)駅(えき)に降(ふ)り(お)る分(ぶん)岐(きてん)点(てん)を見(み)落(お)とし、高尾(たかお)駅(えき)方(ほう)向(こう)へ下(くだ)って(と)して(し)ま(ま)い(ま)した。30分(さんじゅうぶん)ほど



多く(おほく)歩(ある)くこと(こと)にな(な)って(と)して(し)ま(ま)い(ま)した(た)が(が)皆(みな)、め(め)げ(げ)ず(ず)、一(ひと)駅(えき)だ(だ)け(け)電(でん)車(しゃ)に(に)乗(の)り(り)10時(じ)には(は)、ケ(け)ーブル(ぶる)駅(えき)に到(た)着(ちゃく)しバ(バ)ス(ス)組(ぐみ)と合(ごう)流(りゅう)する(する)こと(こと)が(が)でき(でき)ました(した)。そこ(そこ)から全(ぜん)員(いん)で頂(ちよう)上(じやう)を(を)目(め)指(さ)し11時(じ)すぎ(すぎ)には高尾山(たかおさん)山(さん)頂(ちよう)に到(た)着(ちゃく)しました。

途(と)中(ちゅう)、汗(あせ)をか(か)き、上(う)着(わき)を(を)脱(ぬ)い(い)だ(だ)り汗(あせ)を(を)か(か)いた(た)服(ふく)を(を)着(き)替(か)え(え)たり(り)して(して)歩(ある)きました。高尾山(たかおさん)山(さん)頂(ちよう)では(は)、手(て)作(つく)り(り)お(お)に(に)ぎ(ぎ)り(り)、卵(たまご)、み(み)かん(かん)、お(お)か(か)し(し)を(を)食(た)べ、お(お)茶(ちや)も(も)皆(みな)、十(じゅう)分(ぶん)に(に)飲(の)み(み)ま(ま)した(た)。自(じ)分(ぶん)で(で)作(つく)った(た)、シ(シ)ヤ(ヤ)ケ(ケ)、梅(うめ)干(ぼ)し、昆(こん)布(ぶ)の(の)上(じやう)等(とう)な(な)お(お)に(に)ぎ(ぎ)り(り)を(を)味(あじ)わ(わ)い(い)ま(ま)した(た)。「お(お)い(い)し(し)い(い)!!」と(と)コ(コ)ン(ン)ビ(ビ)ニ(ニ)の(の)も(も)の(の)で(で)なく(なく)手(て)作(つく)り(り)の(の)健(けん)康(こう)コ(コ)ー(ー)ス(ス)なら(なら)では(は)の(の)、お(お)弁(べん)当(とう)は(は)格(かく)別(べつ)だ(だ)った(た)よう(よう)で(で)した(た)。帰(かえ)る(る)途(と)中(ちゅう)、修(しゆ)験(げん)者(者)の(の)法(ほ)螺(ら)貝(がい)を(を)吹(ふ)き(き)な(な)が(が)ら(ら)の(の)行(ぎやう)列(れつ)に(に)も(も)出(で)会(かい)え(え)貴(き)重(じゆう)な(な)経(けい)験(げん)も(も)でき(でき)ました(した)。

津久井やまゆり園訪問・相模湖ハイキング

7月(がっ)後半(こうはん)に(に)起(お)きた(た)津(つ)久(きう)井(い)や(や)ま(ま)ゆ(ゆ)り(り)園(えん)の(の)事(こと)は(は)健(けん)康(こう)コ(コ)ー(ー)ス(ス)自(じ)体(たい)では(は)話(はな)し(し)合(あ)い(い)を(を)する(する)時(じ)間(かん)が(が)取(と)れ(れ)ず(ず)に(に)い(い)ま(ま)した(た)が(が)、合(ごう)宿(じやく)で(で)全(ぜん)体(たい)で(で)の(の)話(はな)し(し)合(あ)い(い)、つ(つ)ど(ど)い(い)の(の)中(ちゅう)で(で)、健(けん)康(こう)コ(コ)ー(ー)ス(ス)の(の)Rh(あ)さんが(が)「津(つ)久(きう)井(い)や(や)ま(ま)ゆ(ゆ)り(り)園(えん)に(に)つ(つ)いて(いて)話(はな)し(し)合(あ)い(い)たい(たい)」と(と)発(はつ)言(げん)し、2回(にかい)の(の)つ(つ)ど(ど)い(い)の(の)中(ちゅう)で(で)話(はな)し(し)合(あ)い(い)が(が)も(も)た(た)れ(れ)ま(ま)した(た)。その(その)話(はな)し(し)合(あ)い(い)の(の)中(ちゅう)で(で)、青(せい)年(ねん)達(たち)は(は)無(む)残(ざん)に(に)散(ち)つ(つ)た(た)命(いのち)の(の)現(げん)実(じつ)を(を)知(し)っ(っ)て(て)い(い)き(き)ま(ま)した(た)。そ(そ)して(して)コ(コ)ー(ー)ス(ス)の(の)最(さい)終(しゆう)活(かっ)動(どう)日(び)の(の)外(がい)出(しゅっ)の(の)場(ば)所(しょ)を(を)決(き)める(める)話(はな)し(し)合(あ)い(い)の(の)時(とき)、担(たん)当(とう)者(者)の(の)「津(つ)久(きう)井(い)や(や)ま(ま)ゆ(ゆ)り(り)園(えん)へ(へ)行(い)っ(っ)て(て)み(み)て(て)

は？」という何気ない発言に、「行ってみたい」という、強い青年達の要望がありました。青年達の「行ってみたい」という要望がありました。はじめは津久井やまゆり園の近くまで行き、外から眺めてくるという計画でした。しかし、担当者が下見で施設へ行ってみると、とても開かれた対応をしてくださり、日曜訪問も受けていただけることとなりました。そうして、津久井やまゆり園訪問が実現しました。

当日、Mtさんは、音楽コースのMaさんから託された、津久井やまゆり園で亡くなった方々のことを思って作った19本のミサンガを大切に持ってきました。他の青年も当日は、目的を持った外出ということで、全員時間前に集合。JR横浜線町田駅を時間どおり出発し、中央線相模湖駅では電車のボタンを青年が押してドアをあけました。バスも乗り換えがスムーズで、本数の少ないみかげゆぶじのここと、でき三ヶ木行きに無事乗り込む事が出来ました。JR相模湖駅近辺から山々が迫ってきて、バスからも皆、車窓を眺めていました。「やまゆりがあつた！」と看板があつた方にバスが曲がつて皆、安心。バスを降りて山や畑



や、千木良の家並みがある、のどかな風景を見渡しました。津久井やまゆり園の正面玄関から視線を山の上に移すとプレジャーフォレスト（旧ピクニックランド）の観覧車が見えて何ともほっこりする場所に施設がありました。当直の方に対応していただけ、事務所の千羽鶴の前でみんなで手を合わせ、音楽コースの青年から手渡されたミサンガと、ミサンガを託された青年が書いた手紙、2012年度に作られた「みんなのいのち」「いのちのことば」の楽譜とコースを代表した青年が書いた手紙を19人の亡くられた方々に捧げました。「ここであんな悲惨なことが起きたなんて残念です」と伝える青年もいました。皆で「いのちの歌を歌い続けていきます！」とお伝えし、やまゆり園を後にしました。正門に向かってずっと手を合わせている青年もいて、いつもになく皆の神妙な姿がありました。心配していた空も、薄日がさし、帰りはバス乗車の予定でしたが、皆で相談し「相模湖駅まで歩こう！」ということになりました。神社を過ぎると山道の下りになり青年同志で「気をつけようね」と声をかけ合いながら相模川から相模湖のダムのようにハイキングしました。吊り橋を渡り、カモも泳ぐ相模川を眺め、最後に皆で津久井養護学校への急坂を上っていきました。下り道の苦手な青年は、手すりのない下り道に苦戦していましたが、皆に励まされてがんばりました。コースのリーダーは「いい運動だねえ」と力強く歩き、早く降

りてきた青年は、つり橋の近くで猫を見つけて楽しんでいました。

相模湖に到着し、楽しみにしていたお蕎麦屋さんで丼物を食べてお腹が満たされ大満足でした。

3時に公民館に帰り、外出の思い出を起こしをしました。そして、皆で奪われる命などどこにもない 生きることこそ 素晴らしい生きていくから感じられること… この声で この歌で 伝えたい 尊い命と「いのちのことば」を歌いました。

(5) 表現活動

活動の2回目(7月)の前(7月)の夜、次回活動予定の話し合いで短冊に願いたいことを書いて班長から出しました。

「ビール飲みすぎないようにします」、「彼女ができませんように」、「マックに行きたい」、「仕事がんばります」、「家族が幸せになりますように」、「もっと楽しい話し合いができますように」、「歌を作りたい」、「ついでに仲間の母親が亡くなったことを聞いた青年は「かなしいことがないように」 「うれしいことがふえますように」と短冊に書きました。

話し合いのテーマについては、目標になる事、生活の事、行事に向けての事などの話し合いが先行し、津久井やまゆり園の事や病気で亡くなった青年のことはコースでは深く話す機会を逃して

ました。年が明けた1月のつどいの時、50代の青年が亡くなったことを聞き、「生きていくからこそ苦しい事、楽しい事いろいろあります」「生きることの大切さを感じ、劇で1年の体験を発表したい」「悲惨な事件があり生きていくこの時間を大切にしていきたい。」とRhさんが発言していました。

合宿のキャンプファイヤーで亡くなった津久井やまゆり園の19人の方々を追悼した後、全体での話し合いの中で、Mnさんは、「みんな夜空の星になって今、僕たちを空の上からみまもってくれているだろうロウソクの19本のあかりが、夜空に向かっている今、輝きをとどけるこの19本のあかりが、夜空にとけるときに、もう一度星たちは輝きを増した」と発言していました。つどいなど全体での話し合いで他のコースの青年の話を聞き、それらの思いをきちんと受け止める、個々の気持ちの中には入っていて、1年間の思い出の中自分の気持ちを発表したり作文を書いたりすることができました。Rhさんは「僕が今年の活動で感じたことは『いのちのかがやき』です。命を輝かせれば輝かすほど、失われた命の重さを感じてしまいます。僕たちは、仲間の命が奪われたことを、忘れたことはありません。僕たちの命は簡単にうばわれていいものではありません。」

成果発表会に向け、1年の思い出の活動でそれぞれの思い出深い活動を出し、中でも全員が思い出に残っていた高尾山ハイキングの活動の発表の準備では、バスと電車の小道具づくりをしました。

京王バスの写真を見ながら鉛筆で下書きをしてから絵具で塗り、クレヨンでふちどりしました。京王線の電車も仕上げの縁どり、京王線のラインや細かい部分を描く青年もいました。作文や絵を描くなど表現活動を行ったことから。発表当日には、合宿の記憶がよみがえり、成果発表での、生き生きとした発表につながりました。

3 担当者のかかわり

コースの担当者の支援体制は特に後半は3名と十分ではありませんでした。しかし、外出の時は応援を頼み、担当者同士の連携をとることに努めました。青年との活動を行っていくなか、手での通訳により聞き取れる担当者がいたことで、青年の思いに近く寄り添うことができました。青年側も自分の思いを受け止めてもらったという安心感と自信を感じ取れ、青年同士の仲間意識を強く感じているようでした。津久井やまゆり園の下見など、担当者が活動前に下準備を行うことで、活動がより深くできました。

担当者の持ち味をそれぞれ生かしたかかわりをしていくことで、担当者の支援は十分とはいえなくても、結果的には班長の青年を中心に、経験豊富な青年の自発的な活動がかえって引き出せることになりました。



6月12日	開級式
6月19日	自己紹介、係決め、コースでやりたいことを発表
7月3日	ミュージカルづくり
7月17日	ミュージカルづくり
9月4日	午前：合宿についての話し合い 午後：ミュージカルづくり
9月25日	新曲について
10月1日 ～2日	合宿 1日目：買い出し、とっておきの音楽祭、キャンプファイアー、相模原事件について 2日目：朝食作り、ミュージカルづくり
11月6日	午前：合宿の振り返りについて 午後：ミュージカルづくり
11月20日	午前：クリスマス会について話し合い 午後：ミュージカルづくり
12月4日	ミュージカルづくり
12月18日	クリスマス会
1月22日	午前：亡くなった青年と担当者について話し合い 午後：ミュージカルづくり
2月5日	ミュージカルづくり
2月19日	ミュージカルづくり
3月5日	成果発表会

あおのなかま(劇・ミュージカル)コース

1 集団の特徴

本年度の劇・ミュージカルコースのメンバーは12名(男性7名、女性5名)でした。公民館学級では、ここ数年、手を添えて行う筆談などの援助方法が広く行われるようになり、この援助ができる担当者がいれば、すべてのメンバーが意見を発表することが可能となつていきます。

コミュニケーションの介助なしに、自ら意見を発表することでコースを引張っていけるメンバーは、男性に1名、女性に2名おり、どの場面でもリーダーシップを発揮していました。また、援助なしでもある程度はコミュニケーションをとれるメンバーが男性3名、女性2名おり、活動を支えていました。一方、独力ではコミュニケーションのむずかしいメンバーが男性に3名、女性に1名おり、その援助方法を通して自由に意見を伝えることができていました。

2 ミュージカル作りの経過

ここでは、あおのなかまコースが、年間を通じて取り組んできたミュージカル作りの経過をまとめていきたいと思います。7月3日、ミュージカルについて、いろいろな意見が出されました。「シンデレラをやりたい。」「お姫様の役をやりたい。」「踊りたい。」「友だちと一緒にどうしようか考えるのが良いと思う。」「いつも同じ色の劇だとつまらないので、新作のお話を作りたい。」

「オリジナルの劇をやりたい。」というようなものですが、この話を受けて、7月17日の活動で、ミュージカルの内容について、きちんと語り合いました。そこで、「シンデレラをやりたい」という意見をめぐって、議論されました。シンデレラをやりたい理由は、「大切なものをなくした気持ちを劇に取り入れたいと思ったから」というもので、これをきっかけに、「親を亡くした悲しみについて考えてしまった」、「ぜひ大切な人やものをなくした気持ちを取り入れたいけれど、結末が見当もつかない」、「自分は親を亡くしても辛い思いをしたが、青年学級に来て仲間といると幸せなので、劇の結末は、みんなで生きていることが幸せというのか。」などの多くの意見が飛び交いました。

そして9月4日の活動を迎えたのですが、班長が、『ジジンの洞窟』というストーリーを提案してきたのです。これは、「主人公のジジんが様々な困難に立ち向かいつつも、乗り越えて自信をつけながら洞窟を目指して旅をする」というものでした。このオリジナルの劇の提案はみんなに受け入れられ、さっそくいろいろな意見を出し合いました。「洞窟を目指す」というと、暗闇を目指すイメージがあるので、目指す場所を変えてみてはどうか。「目指す場所はあるので、目指す場所をどうするか。」「目指す場所が自信がつく都や滝はどうか。」「目指す場所に着いたことで自信がつくのではなく、旅の過程で自信がつく方が良いと思う。」「ジジんが自信を持ってなくなった理由を考えたい。」「困難に立ち向かうには、自信の他に仲間も必要だと思う。」といった意見でした。

このまま、ストーリーの話し合いで活動は終わるかと思われたのですが、その日の活動が残り30分くらいになった時に「津久井や

まゆり園の事件のことについて話したい。」という意見が出てきました。前回の活動の直後に起こった事件ですが、8月は、この話題が繰り返され、テレビなどでも語られていました。「僕たちは生きていてもいい存在なのに、当たり前のように自分たちを傷つける人が多くて不安になりました。」「自分たちのことは自分たちで出来るようにならないといけないなど感じた。」「悲しくて話せない。」「自分たちにも気持ちがあることを分かかってほしい。」などのそれぞれの想いを一人ひとりが語ったのでした。

9月25日には、シナリオとは別に、合宿の活動についての話し合いで、津久井やまゆり園の事件のことが語られました。きっかけは、合宿の夜のキャンプファイヤーと話し合いの時間をどう持つかということだったのですが、「事件のことを忘れてしまう前にきちんと話し合いたい。」「キャンプファイヤーは合宿でしかできないことなのでやりたい。」「という理由から「両方行う」ということになりました。その上で、あらためて、ミュージカルの話し合いを行ったのですが、『新曲』を作るための活動をしたという意見があがったので、どんな言葉や想いを入れたいかについて話し合いました。シナリオに関連のある『自信』や『希望』という言葉を入れたらいい。」「青森へ行ってしまった好きな人に伝えたい想いを入れたい。」「という意見があがりました。10月1日、2日の合宿では一日目の夜に津久井やまゆり園の事件のことを学級全体でじっくり話し合いました。二日目の活動では、それを受けて、「ストーリーにやまゆりの花をいれよう。」と

いう提案があり、それに続けて「やまゆりを探していくことにしよう。」「やまゆりも私たちも元気になる水を探していくことにしよう。」「というように意見が出され、「19本のやまゆりがどこかの洞窟にあつて、それを探していく、そのやまゆりを甦らせ私たちも元気になる水を探しに行く」という大まかな流れができあがっていききました。

そして、水をさがしにいく歌の歌詞が二人から提案されました。一つ目は「水はいつたいどこにある 北か南か西か東か 山か海か空か地底か 水よ水よおねがいだ 私に勇気をください」というもので、二つめは「水をさがしてひとりきり やすらぎをもとめて旅に出るひとりぼっちはつまらないから 私は友をさがして旅に出る」というものでした。こうして、少しずつミュージカルのかけがえができていきました。

11月6日、合宿から一ヶ月ぶりの活動でしたが、合宿に来られなかった仲間もいたので、まず、合宿でかたちになった「ジジン」が自信をつけるために洞窟を目指す、洞窟には19本のやまゆりが倒れていて、それを蘇らせるために命の水がとれる希望の滝を目指す」というストーリーの確認を行いました。この話し合いの中で、ストーリーの元になった『ジジンの洞窟』という物語を作ったSeさんは「自信をもっていない人よりも、自信がある人のほうがステキだと思うので、みんなもつと自信をもって生きていこう!」という意味を込めたと語っていました。

また、合宿で出来たTiさんとYsさんの詞にメロディーを付けようという提案のもと、歌作りにとりかかったのですが、まず、作詞者のTiさんが、すでにメロディーの冒頭をつけてきたという

ことで、自分の声で歌いました。すると、Seさんから「ジジンの洞窟」の歌、Nyさんから「希望の滝」の歌、Teさんからは「やまゆりにささげるうた」の歌詞が提案されたのです。そして、「ジジンの洞窟」の詞と「希望の滝」の詞にはメロディーがすでにつけてあるとのことだったので、それを聞き取ることにしました。学級の仲間が、個人で作詞作曲をするのは、とても珍しいことなので、そのことをみんなで喜びながら、この新しい2曲を練習しました。なおYsさんの歌詞にメロディーも少しついていたので、Ysさん自身からあまりふさわしくないし、4曲もいい歌ができたので使わないということになりました。

11月20日は、Tiさんが改めて『水を探して』を最後まで完成させてきて、みんなの前で歌いました。また、Teさんの『やまゆりにささげるうた』にはみんなでメロディーをつけようという提案があり、まず、Hnさんから最初の歌い出しは「ドシラ」にしようという提案があつて、そこからメロディー作りが始まりました。この時、中心になつたのは、TiさんとSeさんでしたが、二人がかわるがわるメロディーをつけていったのです。ドシラから始まる重苦しいメロディーが次第に長調に転じていく絶妙とも言えるメロディーが少しずつ形になっていきました。とりあえず、1コーラス分できたので、後半はそこまでのメロディーを繰り返すことで担当者が調整してくることにになりました。この2曲ができてきたので、前回と合わせて4曲の歌ができたことになりました。短い期間で学級生の手によって詞もメロディーも作られたうたが4曲もできたというところに、学級生も担当者も驚きながら、ミュージカルの

完成への手応えを強く感じる事ができました。

12月4日は、「水を探して」の歌も楽譜化されて細部もはっきりとしたものになりました。「やまゆりにささげるうた」の後半も完成し、4曲が完全なものになったので、さっそく歌を練習しました。歌が完成したので、さらに演技や台詞の練習に移っていきまし。総監督のYsさんの指導のもと、みんなで一つひとつのシーンの演技やセリフの練習を行いました。Ysさんは、倒れて19本のやまゆりを見つけ、驚くシーンを「ここがこの劇の1番重要なシーン」だと語り、みんなで心をこめて演技をしました。また、「やまゆりに水を丁寧にかけるところを大切にしなければならぬ」という意見も出され、練習をしました。

12月18日のクリスマス会では、この新曲4曲を歌うことになったので、午前中は、練習をしました。まだまだ歌いこめてはいませんが、全体の場で、堂々と発表する事ができました。

1月22日は、さらに台詞を細かく決めながら、練習を行いました。ストーリーを細かく確認しながら、「やまゆり園のことについての想いを話してから、みんなで洞窟を目指してほしい。」「もっと事件についてストーリーに入りたい。」などの意見や、「ナレーターを入れるのはどうでしょうか?」といった提案も出されるなか、実際に、「セリフを決めよう。」というメンバーからの提案で、「みんな、ジジンの洞窟へ行きましょう。」「大変な事が起きている!」「やまゆりがかわいそうだ。」「私たちは自信が欲しいし、やまゆりを蘇らせた。」「などのセリフが誕生していききました。2月5日、ストーリーの流れを確認しながら調整を行いました。

ものがたり さいご
が、「物語の最後をどうしようか迷っている。」というメンバーの
発言をきっかけに話し合いが行われ、「やっぱり命の水でやまゆ
りが蘇って、めでたしというような終わり方は少しおかしいので
はないか・・・。」「ずっと終わり方について考えていたけれど、
なかなか良いものがない。」という意見の後に、「やまゆり
は命の水で蘇るのだけれど、やっぱりこの世では生きていけない
て、みんなが青空に向かって解き放つというのはどうだろうか？」
というHnさんから提案にメンバー全員が大賛成。さらに、「この
最後のシーンにまた曲を作ろう。」ということになったのですが、
詞は、Hnさんの語ったことをTeさんが詞にし、メロディーは、Hn
さんが付け、5曲目の新曲『永遠のやまゆり』が完成しました。
また、さらに「魂をかなしみから本当に解き放つために希望の滝
を目指そう!」「水をあげよう!」「あお!」などのセリフも誕生
しました。また、手話を学んでいるTuさんを中心に、『希望の滝
へ』に手話を利用した振り付けを考えました。

2月19日は、午前中ホールで5曲の新曲を通して歌った後、シ
ーン一つひとつの動作やセリフを確認しながら、実際に手作りのや
まゆりなどの小道具を用いて、練習を行い、背景の映像や照明の
確認なども行いました。

午後Hnさんからは、「新曲の後に出来たストーリーに合うよう
に、『ジジンの洞窟』と『水を探して』の歌詞を少しだけ変更した
いのですがどうでしょうか?」という提案があり、Hnさん自らが
原案を出して、2曲の歌詞の変更を行いました。

成果発表会の当日である3月5日は、午前中に劇『青い希望』を

はじめから通して最終確認を行いました。コース発表は、やまゆり
園の事件をテーマにした作品として、深く共感をもって会場の
人々にも受け止められていました。重いテーマに真正面からぶつ
かって大きな手応えを得られたミュージカル作りとなりました。

3 活動の評価

(1) ミュージカル作りについて

今年度の活動は、最初からオリジナルのストーリー作りを目指
し、「ジジンの洞窟」というアイデアも出されていきました。しか
し、津久井やまゆり園の事件という大きな出来事があったため、ス
トーリー作りは「ジジンの洞窟」のアイデアをもとに、さらに、深
いテーマを目指して進んでいくことになりました。

その時に、大きな力となったのは、歌作りです。最終的に5つ
の歌ができましたが、今回、これらすべて歌詞とメロディー両方
を学級生自身が作ったことは、これまでの青年学級の歴史の中
も初めてのことで、画期的なことだったと言えるでしょう。

また、毎回、監督を頑張ってきたYsさんは、今年度は、筆談の
介助を通して監督をしたのですが、ストーリーを深くとらえた上
で、演技への的確な提案をしており、劇作りにかけてきた思いの深
さが言葉の端々に表れていました。

テーマについては、亡くなったやまゆり園の方々への思いをどう
表現したらいいのかということを繰り返し悩みながら検討を続け
ていきましたが、魂の追悼にふさわしいものへと深めていくこと
ができました。

活動を通じて、一人ひとりのメンバーが、日々の生活の場で劇作りのことをずっと考えていたことがあらためて明らかになりました。詩やストーリー、歌として提案されるものはほとんどそのようにして考えてこられたもので、こうしたむずかしいテーマであればあるほど、そうした一人ひとりの深い思いがなければ前に進むことはできなかったと思われれます。

(2) 歌の聞き取りについて

メンバーが作っていた歌をどう聞き取るかということについて簡単にまとめておきます。歌詞については、みんなで見聞を出し合う時は、短い言葉をつないでいくことで詩ができていきますが、今回は、事前に作っていたものも含めて、一人で作り上げたものをそのまま聞き取った歌がほとんどでした。「永遠のやまゆり」は、Hnさんが出したアイデアをTeさんが詩にするというかたちをとりました。

メロディーについては、Tiさんのように自分で歌う場合と、1音ずつ聞き取る場合とがありました。Tiさんのメロディーは、最初聴いている時は、その場で即興で口ずさんでいるかのように思われましたが、後で録音したものを楽譜にしてみると、構成もしっかりしていて、何度も一人で歌いながら作っていたものだということはあきらまかでした。聞き取りは、階名を筆談で伝えてくる場合もありますが、ほとんどは、聞き手が「ドレミファソラシド」と音階を歌いながら、相手が想定している音を探りあてるかたちで行ったものです。「やまゆりにささげる歌」と「永遠のやまゆり」のメロディーは活動の中で作られたものですが、1音1音納得した

上で選んでいることがよくわかり、感情の裏を細やかに込めながら作られたメロディーであることに圧倒されました。

★あおのなかまコース『青い希望』台本★

◎みんなが話している。

みんなのところに Nyさんが駆け込んでくる。

「大変な事が起こったぞ！やまゆり園というところで、たくさんの仲間たちが殺されてしまった。今こそみんなで語るときだ！」

ナレーション「やまゆり園で 19人の仲間がなくなりました。」

「淋しかったんだよ。」

「たくさんの仲間が亡くなったんだって？」

「ジジンの洞窟に行くと、まだ理解されないまま悲しんでいる魂に会えると昔おばあちゃんから聞いたので、みんなで行ってみませんか？そこでやまゆりに会えるかもしれない。」

◎洞窟へ向かう。

♪『ジジンの洞窟』

ジジンの洞窟 ジジンの洞窟 いったいどこにあるのかも 私たち
は知らないけれど

ジジンの洞窟たどり着けば きっと涙は癒されるだろう

ジジンの洞窟 ジジンの洞窟 みんな心を合わせよう

◎洞窟で 19本の倒れている(枯れている)やまゆりを見つめる。

(背景…洞窟の写真)

ナレーション「みんなが洞窟にたどり着くと、そこでは 19本のやまゆりが倒れていました。」

「わっ！（驚く動作）」

「やまゆりが可哀想だ。」

「おじいちゃんから、涙を流したときは水を探しに行けばいいという歌を覚えてもらったので、これから歌います。」

♪『水を探して』

水を探して 一人きり 安らぎをもとめて 私は旅に出た

悲しい涙を 知ったから 安らぎをもとめて 私は旅に出る

人の前では 話せなかった あなたたちの 心に 水を捧げよう

涙ふいたら 友だちと 水をからした やまゆりの花に

うるおいをあたえる 旅に出る

◎仙人十亀の登場

「希望の滝を目指している君たちに、私は告げたい言葉がある。私

は昔からこの世界に満ち満ちているたくさんの嘆きを聞いてきた

けれど、この間の出来事で亡くなった人たちの魂はまだまだ悲し

みの中にある。その悲しみを希望の滝で癒すことによって、やまゆ

りの魂は空に解き放たれることだろう。ここでやまゆりの悲しみを

もう一度みんなで共に感じ合うことにしよう。」

♪『やまゆりに捧げるうた』

言葉があったことを 誰にも知られることもなく

むざんにちったやまゆりに 今さきげようこの歌を

まつすぐ伸びたやまゆりはけだかく空を みあげているが
やまゆりのひとみは なみだにぬれてうるんでる

どうして花をあしげにしたの 花は二度とはもどらない

いのちをやどすものはみなたくさん意味を せおってる

かえがたいいのちをもう一度 よみがえらせる奇跡はどこと

どんなにさけべど空は こたえてはくれない

「希望の滝を目指そう！」

「魂を悲しみから本当に解き放つために希望の滝へ行きましょ
う！」

ナレーション「みんなは自信を取り戻し、やまゆりを蘇らせるた
めに、命の水がとれるという希望の滝を目指すことになりました。」

◎みんなで再び希望の滝を目指す。

「希望の滝は、あの山のかなたにあるにちがいないから、みんな
あのかなたを目指して出かけよう。だって今この洞窟に流れている
川の源にあるはずだから、みんなでこの川の水源を目指そう。」

♪『希望の滝へ』（ダンスあり）

かなたに見える希望の滝は
まだまだぼくたちには とどかないけれど

みんなの夢をひとつずつ
ゆりにこめてかかげれば

きつと滝までゆけるだろう

◎希望の滝に辿り着く（背景…キレイな滝の映像）

「水をあげよう！」

（みんなでゆりに水を与える）

◎青空に向かって解き放つ（背景…虹がかかった空）

♪『永遠のやまゆり』

あの青空に美しいやまゆりの花をささげよう

やまゆりの花の咲く場所は この大地からあの空へ

やまゆりのたましいは 永遠だから

あの青い空へ やまゆりの魂を 心をこめて ときはなとう

「私たちの悲しみが癒えることはないけれど、これでやまゆりの
魂を永遠に解き放つことができる。」

「やまゆりの花よ 永遠に。」

「さようなら。」

（みんなで空に向かって手を振る。）

「空に魂が昇っていくよ。」

「あお！」

水を探して

みずをさがして ひとりきり やすらぎを ちとめてわたしは
 たびにでる ひどりはつばはのほらないから ともだちを
 さがしにわたしは たびにでた ひとのまえで は
 はなせないから どこまでも ひとーり
 みずをもと めて じしんつけたら ともだちと
 みずをからした なかまのところに うるおいを
 あたえてたびだとう

ジジンの洞窟

ジジンのどろうくつ ジジンのどろうくつ
 いっただいどこにあののかも
 わたしたち は しらな い けれど
 ジジンのどろうくつ たどりつけば
 きつと じしんが みな ぎる だろ う
 ジジンのどろうくつ ジジンのどろうくつ
 みんな ゆめも ちでか けよ う

希望の滝へ

Musical score for '希望の滝へ' (Kibō no Taki e). The score is written on a grand staff with a treble clef and a key signature of one sharp (F#). The tempo is marked 'G' (Allegretto). The lyrics are:

かなたにみえなきぼくのたきは

ままだまぼくたちにはとどかないけれど

みんなゆめをひとつつ

ゆりにこめてかかげれば

きつとたきまですけだるう

永遠のやまゆり

Musical score for '永遠のやまゆり' (Eien no Yamayuri). The score is written on a grand staff with a treble clef and a key signature of one flat (Bb). The tempo is marked 'J=72' (Adagio). The lyrics are:

あのおそらにうつくしいやまゆりのはなをささげよう

やまゆりのはなのさくばよはこのだいちからあのそらへ

たましいはえいんだから

あのおいそらへやまゆりのはなをささげよう

やまゆりにささげうた

Musical score for 'やまゆりにささげうた' (Yamayuri ni Sasage Uta). The score is written on a grand staff with a treble clef and a key signature of one flat (Bb). The lyrics are:

ことばがあったこととをだれにもしられることもなく

むざんにちったやまゆりにいまささげようこのうたを

まつすぐのびたやまゆりはけだかくそらをみあげているが

やまゆりのひとみはなみだにぬれてうるんでる

どうしてはなをあしげにしたのはなはにととはもどらない

いのちをやどすものはみなたくさんをせおってる

かえがたいのちをもういちどよみがえらせるきせきはどこと

どんなにさけたいそらはこたえてはくれない

第2章 自治運営

1 班長会

(1) 班長会の概要

班長会とは、学級全体に関わる行事や、運営に関わるさまざまなことを調整する組織です。学級活動終了後の4時過ぎから5時までの時間を使い、各コースの班長と副班長が集まり話し合いを行ってききました。

活動内容としては、各コースの活動報告、合宿やクリスマス会・成果発表会などの行事に向けた話し合いおよび実際の準備や運営を行ってききました。なお行事に関する話し合い・準備・運営は、ついで委員と合同で取り組みました。

(2) 班長会の様子

今年度は、長年にわたり班長会に携わっている、いわゆるベテランとよばれるメンバーのほかに、学級歴が2〜3年という若手のメンバーもいました。昨年度同様、会を進行する司会は各コース持ちまわり制とし、最初の班長会が順番を決めました。その日、話し合った内容は班長会ノートに記録し、司会を務めたコースが活動の報告として「班長会ニュース」を書いて学級全体に向け発信しました。

(3) 評価と課題

今年度も昨年度に引き続き、学級生・担当者ともに1年間同じメンバーで継続的に話し合いを進めることができました。

また、話し合いの中で相模原で起きた津久井やまゆり園の事件について、合宿で話し合いを行うのはどうかという意見が学級生からあったため、一度コースに持ち帰ってもらい、コースごとで検討しました。その後、班長会を通して学級全体で話し合い、合宿のキャンプファイヤーの中で19個のキャンドルを灯して、追悼セレモニーを行いました。また、クリスマス会の開演時にも追悼を行いました。昨年度は、スイッチや筆談ができる人（通訳者）がいなかったため、発言に支援を必要とする学級生へのフオーロー体制を整えることができず、それが課題にあがっていました。

昨年度の反省を踏まえ、今年度は通訳のできる担当者が1〜2名班長会に参加できる体制をとることができ、通訳を必要とする学級生からもその場で意見を聞くことができました。

今年度の反省としては、事前に議題の確認ができていなかったため限られた時間を有効に使うことができなかつたことです。班長会の話し合いでは議題を確認するところから始めていました。そのため話し合いが中断してしまうことがあり、班長会の終わりが終了時間の17時を過ぎてしまうこともありました。今後は、事前に担当者間でその日に話し合っておくべきことを確認することが大切であると感じました。

また、年度の初めに司会の順番を決めましたが、いつも決まった人が司会や板書、ニュース作成を行っていました。

こうしたことから、今後は決まった人が毎回担当することのないように役割を確認し、きちんと分担する事を心がけていきたいと思えます。

次年度は1年間のスケジュールをもとに議題と内容を整理し、学級生と担当者が共に見通しを持って参加できるような運営を目指します。

2 つどい委員会

(1)「つどい」とは

朝と帰りのコース活動の前後の場面で、ホールに集まり、学級全体で行う活動です。学級ソングを皆で歌い学級全体で一体となつて活動する場面であり、コース間の連絡や応援者・見学者の紹介なども行われています。有志の学級生とつどい委員担当の担当者が一緒になって運営・活動しています。

(2) 運営体制と活動内容

今年度は、男性4名、女性2名の計6名体制で運営を行いました。委員会の活動内容は、つどいの司会進行、見学者や応援者等の紹介、歌決め、帰りのつどい終了後のつどい委員会で決定した内容を「つどいニュース」として発行し、学級全体にフィードバックするといった取り組みを行いました。

また、班長会との合同で合宿の交流会やクリスマス会、成果発表会の運営にも携わりました。

(3) 今年度の活動の特徴

昨年度までは、昼頃にリクエスト用紙を回し、帰りに回収を行っていましたが、今年度は、朝リクエスト用紙を配布し、帰りに回収という形に変更することで、青年がリクエスト用紙に記入する時間を十分確保することができました。さらに、リクエストを投票したその日の帰りのつどいでリクエストボックスから青年が歌う曲を引くことで、「意見が反映されるつどい」が実感されやすかつたように思われます。

また、担当者があまり知らない歌がリクエストされた際には、担当者会議の時間を利用して、歌の練習を行いました。歌える担当者が増えたことも良いことでしたが、さらに、その歌ができた経緯をペタランの担当者が語ることで、経験年数の少ない担当者も、学級ソングに込められた当時の背景や青年の想いを共有することができました。

(4) 活動の評価と展望

前述の取り組みは、リクエスト時間の確保や、担当者が青年とより一体となつてつどいを活気づけていくことにつながるため、継続していくことが期待されます。一方、昨年度に青年からの課題としてあげられた、「つどいでリク

エストされる歌の定番化（選ばれる歌が偏っていること）に對しては、今年度あまり取り組みができませんでした。これに對し、つどい委員会において、「歌の一覽表のようなものがあると、これまでの色々な歌を思い出せるから便利」という意見があがったため、今後検討していききたいです。

第3章 考察

1 今年度の活動について

今年度は「楽器・音楽」「ものづくり」「くらし」「健康」「劇ミュージカル」の5つのコースに分かれて活動をすすめていきました。コース分けでは、例年、「うた・楽器」と「くらし」には多くの青年が集まっていたため、活動がしやすい人数を意識しつつコース分けがされました。

「楽器・音楽コース」は、「とっておきの音楽祭」というイベントに、劇ミュージカル・健康およびびたつ会とともに参加しました。出生前診断や震災、やまゆり園の事件に関して作文で触れ、いのちの大切さを歌いました。近年ではあまりない、一般の通行人が通る道中の発表であり、足を止めて聴いている方がおり、「自分たちの想いをたくさんの人に届けたい」という想いが一段と強くなった活動でした。

「ものづくりコース」では、やりたいこと（ものづくり）を話し合っても意見があがりにくい中で、牧場見学を経て牛の絵を描いたり、牛の帽子づくりに取り組んだりすることができました。牧場見学がカギとなった経過を考えると、やはり外部からの刺激は重要でした。また、なるべく通訳者が活動している場所に留まれるように体制を作り、じっくりと話し合いをすることができました。丁寧に話をするのと時間がかかり、活動が停滞し、青年自身も疲れてしまう場面もありましたが、「一緒に思いを話し合うことで、今の状況に立ち向かう勇気につながった」との感想もあり、ひとつの成果ととらえています。

「健康コース」では、青年が一人ひとりにインタビュウをして意見を聞く自発的な姿が見られた。半面インタビュウの際、近づきすぎたトラブルになってしまいうこともあり、担当者間で支援の仕方を確認しました。

「劇ミュージカルコース」では、歌作りについて、歌詞もメロデーも青年自身が作ったことは、これまでの活動でもなかなか行えなかったことでした。歌詞については、一人の学級生が作り上げたものをそのまま聞き取った歌が多く、メロデーについては、青年が自分で歌う場合と、1音ずつ聞き取る場合があります。1音1音納得した上で選んでいることがよくわかり、細やかな感情が込められたメロデーでした。

2 今後の展望について

今後の展望として、主に2点挙げられます。

まず、青年ごとの役割の変化に対応していく必要があります。これは、新しいメンバーが少しずつ活動を牽引する役割を果たすようになってきたので、そのことを大切に進めていきたいです。また、長年にわたって常にリーダーの役割を務めてきた青年が、年齢とともに少しずつその役割を後輩たちに託すような場面が増えているので、そのことにも丁寧に対応していきたいです。

また、今年度であれば、「とっておきの音楽祭」に代表されるような、学級活動をどのようにアウトプットするか、また学級活動より多くの人に知ってもらおうことの大切さについて、活動の中で話し合っていきたいです。

第3部 ひかり学級

第1章 コース活動

ひかり学級 ふれあいをつくっていく

コース

活動の流れ

6月5日	コース決め、活動でやりたいことについて
6月19日	話し合い（コース名決め、係決め）、自己紹介
7月3日	バスハイクの行き先について、自己紹介、七夕飾り作り
7月17日	バスハイクでやりたいこと、おやつ作り、うた
9月4日	バスハイクでやりたいこと、ダンス、おやつ作り
9月18日	バスハイク
10月16日	CD作り、工作、バスハイクの感想、話し合い（クリスマス会か新年会か）
11月6日	楽器作り、カラオケ（外出）
11月20日	クリスマス会の活動について、工作、新曲の歌詞作り、楽器作り、おやつ作り
12月4日	ケーキ作り、クリスマス会発表（ダンス、うた、合奏）
1月8日	近況報告、CD作り、新曲の歌詞作り
1月22日	成果発表会の話し合いと練習、新曲発表
2月5日	1年の振り返り、成果発表会の練習
2月19日	CD作り、成果発表会の準備（捲り作成と発表練習）
2月26日	成果発表会

1 ふれあいをつくっていくコース集団の特徴とねらい

男性5名、女性9名の計14人のメンバーで活動しました。音楽の活動が中心のコースです。前年度の「にじスマイルコース」より7名、「ミュージカル・ダンスコース」より5名「小さなしあわせすみれコース」より1名「おでかけ料理コース」より1名でした。平素車椅子利用している人が5名、移動時の車椅子利用者は8名でした。

コースでやりたいことは、新曲を作りたいという希望が強く、カラオケに行きたい、ダンスをしたい、学級ソングを整理したい、CDを創りたい等の希望がありました。

コースの名前を決めた時、青年が「ふれあいをつくっていく」というのは、「みんな仲良くだね」と言いました。その言葉がきっかけになって「ふれあい」と言う言葉が、みんなの大切な言葉として意識されるようになりました。一年間、思いやりを忘れず、仲良く充実した音楽活動の取り組みが出来ました。

2 活動の評価、素材について

(1) 音楽デビュー

自分の好きな曲を歌ったり踊ったり、自分が演奏できる楽器を演奏して自己紹介をしました。青年は、とても積極的でした。自分からピアノを演奏したり、独唱したり、また、好きなCDを持って来て思う存分踊って生き活きと自己表現をして自己紹介をしました。

青年から学級ソングの中には学級生個人の事を歌った歌があるとの発言がありました。言葉で表現できない青年の自己紹介では、そのような学級ソングをみんなで歌いました。学級ソングが出来た経緯や思いに関する発言もあり、学級ソングを大切にしている様子が伺えました。有意義な取り組みとなりました。

(2) ダンス

好きなCDを持って来てもらい音楽に合わせて体を動かし、楽器を持ちリズムにあわせて演奏し、一体感を味わいました。話し合いの時には少し離れた場所にいる青年がダンスでは素晴らしいパフォーマンスを見せて、みんなを楽しませました。車椅子の青年も楽器を持ち音楽に合わせて楽しんでいました。しかし、担当者が少なく、車椅子を少し動かす程度となりました。車椅子一台に一人の担当者がついて、もう少し刺激の多い取り組みにできたら良いと思いました。

(3) おやつ作り

活動開始当初、猛暑が続き、熱中症予防の観点から水分補給の必要性を感じ担当者提案で簡単なおやつ作りをしました。おやつの間という形で休息と水分補給をしました。作ったものはフルーチェ、プリンアラモード、ホットケーキ等でスタッフの手作りのおやつ差し入れもありました。おやつ作りでは、話し合いに参加しづらい青年がコース活動に戻り、仲間と和やかな時間を過ごすことが出来ました。また、担当者の差し入れのおやつに感激し普段はあまり言葉で表現できない青年がはつきりと「ありがとう」と言いました。この言葉は別記の「ぼくらの気持ち」の新曲の作成に繋がりました。

(4) 楽器作り

創作活動として担当者が作ったサンプルを見たうえで作りたものの希望を取り、楽器を作ることにしました。ペットボトルにビーズを入れトレットペーパーの芯で柄の部分を作ったマラカスや、ごみ箱をひっくり返して飾り付けをした太鼓などを作りました。ある青年は以後の活動でもずっとカバンの中にいれて持ってきて、学級ソングを歌うときに使いました。お気に入りの楽器が出来上が

りました。

クリスマス会に向けて共同制作という形で段ボールのドラムも作りました。ぐうし館の手すき和紙にクリスマスツリーの絵やコース活動に対する気持ちなどを書いて貼り付けました。ぐうし館で仕事をしている青年たちは職場で作った手すき和紙を使ったことを喜んでいました。このドラムはクリスマス会はもちろん、成果発表会のときにも披露しました。

(5) 外出活動

○藤野芸術の家

藤野芸術の家では、はじめに音楽スタジオへ行き、ツリーチャイムやコンガやボンゴを借りて演奏をしました。なかなか普段は触れることのない楽器もあり、演奏に合わせて思い切り学級ソングを歌うことが出来ました。その後、予定していた共同制作は時間不足でできなかったため、木工キットを持ち帰ることになりました。後日、コース活動の中で木工をしたときに自分の好きな色の絵の具やニスで丁寧に塗ったりして、落ち着いて作品を仕上げる事が出来ました。

全体交流会では、ふれあいをつくっていくコースから提案した「ものまね〇×ゲーム」を行いました。それぞれの青年が、ものまねをする動物のイメージを自由に表現しながら楽しんでいました。

○カラオケ

活動の当初からカラオケに行きたいと希望する青年が多かったため、木曾のシダックスに行くことになりました。お店がひかり療育園の近くであったため、当日は歩いて現地へ向かいました。室内での活動が多く、あまり外出する機会が少なかったためか、散歩もかねてみんなで歩いているときも青年たちは楽しそうな表情でした。カラオケが始まると好きな歌をリクエストして歌ったり、持って

きた手作り楽器を歌に合わせて鳴らしたりして、とても盛り上がりました。あまりカラオケには行く機会がないという青年もおり、コース活動としてみんなと一緒に来られてよかった、また行きたいと担当者に話していました。

(6) クリスマス会

午前中はコース発表に向けてダンスや青年からリクエストのあった学級ソングの練習をしました。その後は、みんなでケーキ作りをしました。生クリームを泡立てたり、ケーキのスポンジを切ったり、みんなで役割分担しながら準備を進めました。ケーキのデコレーションは棒状のお菓子をろうそくに見立てて先端に生クリームをしぼったり、カラフルなチョコレート菓子をケーキの上に並べたりして、とてもおいしそうなケーキが出来上がりました。お昼には注文していたケンタッキーのチキンも届き、青年たちも「うまい！」と大満足でした。

午後はゲストである桜美林大学の聖歌隊の歌を聴き、コースの発表とプレゼント交換をしました。プレゼント交換はコースの青年の「くじ引きがしたい」という提案をもとにくじ引きビンゴというスタイルで行われました。楽しいプレゼント交換の時間になりました。

(7) 新曲作り

2曲の新曲が生まれました。

○ハーモニカ

自己紹介の時、ハーモニカを吹いて自己紹介をしたいと思っていて青年がいました。家でハーモニカの練習をし毎回ハーモニカを持って来ていました。しかし、なかなか皆の前で吹けませんでした。彼女のことを歌った学級ソングの「なのはなのうた」を歌ったり、

コースのみんなが彼女を応援する気持ちで学級ソングの「フアイト」を歌ったところ彼女は、ハーモニカを自分から手にして、いろいろな音を一生懸命吹きました。コースのみんなから拍手が起こりました。その時の様子が、歌になりました。最初の4小節の音は、彼女が演奏した音で出来ています。

○ぼくらの気持ち

新曲を作って「若葉とそよ風のハーモニー」で歌いたいとの強い希望を持っていた青年が「ぼくらの気持ち」という詩を書いてきました。彼の詩の中間部にみんなの気持ちを盛り込むことになりました。一月の活動の時に、やまゆり園の事件のことを念頭に置いて、自分の気持ちを大切な人に伝えるということで、スイッチで青年の気持ちを聞き取っていただきました。その中で、「隠れた弱い心が、弱いものをいじめるのです」と別の青年が伝えました。その青年は、「私は、辛い思いをいっぱいしているけれど、その気持ちを乗り越えて、明るく生きている」と力強く語りました。彼の言葉はコースのみんなの共感を得ました。そしていつも「ありのまま生きていきたい」と願っている青年の気持ちや、そして、別の青年は、「人生捨てたもんじゃないよ」と言いました。彼女が、こだわりなく明るく前向きに生きている姿は素晴らしいです。そしてクリスマスドラマに「皆をハートで包みたい」と願う彼女、それから、コースのみんなが大切にしていた言葉「ふれあい」と、他の青年が、スタッフのおやつに感激して思わず言った「ありがとう」、二度とこのようなことが起こらないように、みんなの気持ちとして、「大切ないのち傷つけないで」という願いをこめて作られました。「若葉とそよ風のハーモニー」で歌いました。

(8) CD作り

成果発表会に歌う新曲や学級ソングの練習を兼ねて、締め太鼓や手作り楽器も演奏して録音しました。どんな風に録音されているか、また、自分の声が録音されているか確認していました。自分の声を聞いてうれしそうです。CDの表紙は、ふれあいをつくっていくコースの思い出のアルバムとしてこの一年間に書いた絵や作品の写真をまとめました。

(9) 成果発表会

新曲の紹介を中心に学級ソングにのせて一年間の活動を振り返る形で発表をしました。盛りだくさんの内容となってしまう、持ち時間をオーバーし、一部の発表が出来なくなったのはとても残念でした。

一年間のコース活動の感想を発表した青年は、しっかりとした声で、作文を読みました。

新曲のハーモニカの曲の紹介は、この曲が出来た時の様子を再現しようと思いました。リハーサルでは、うまくハーモニカを吹くことが出来ましたが、残念なことに本番は気分が乗らず、吹けませんでした。会場からも応援の声がかかりました。

自分の気持ちを担当者の助けを借りながら、一生懸命作文を書き上げた青年は大きな声で作文を発表しました。「また、頑張って作文を読みたい」と感想を言いました。手作り楽器も大切に使用成果発表会でも披露することが出来ました。最後にもうひとつの新曲「ぼくらの気持ち」を歌いました。

(10) 課題と展望

コースには、これまでも音楽コースに参加してきた青年が多く集まりました。同じコースになることが多い青年同士でも、思いやりを持つことを大切にしていました。担当者が特に働きかけること

ハーモニカ

ふれあいを作っていくコース

わたしの好きな
 うちのまいにち
 ハーモニカです
 みんなにきいてもらいたいと

9
 まいにちまいにち
 れんしゆうをして
 ハーモニカをもっていく

16
 でもどしてだろ
 ゆうきがなくて
 きょうもふけなかつた

24
 一 かつきゆうソング
 みんなでうたい
 ゆうきがわいてきた

32
 ハーモニカのおと
 みんなににとどく

37
 うれしくてずっと
 ふさぎたいよ
 やさしいなみだに

43
 つつまれて
 はくしゅうのなかにいた

Chords: C, C/G, Dm, DmiA, G7D, G, C, Dm, G7/D, G, C, Am, Em, Dm, C, DmiF, G7, C, Em/B, Am, F, G7, C, D, G, C/G, C, Dm, DmiA, G7D, G, C, F, DmiAm, G7, C

がなくても、発言が少ない青年に積極的に話しかけたり、相手の立場に立って考える様子が見られました。

コースでは特に、担当者体制の不十分さが目立ち介助が中心になり、担当者と青年が共に活動を楽しむ時間を確保することが難しい場面も見られました。後期からは、新担当者が入ったことにより、バスハイクや、青年たちが希望していたカラオケにも行くことが出来ました。カラオケは非常に好評で、1年間の振り返りの際にも思い出として語られることが多かったです。青年たちの希望を叶えることが青年たちの生活の充実に繋がることが分かった一方で、担当者体制を十全にすることの必要性も感じました。

ぼくらの気持と 作詞 加藤功雄と

♩ = 116

ハートふれああってー ハートでつながらー

ハートふれああってー ハートでつながろう

ぼくらのさあちうた なのほなにとどーさ ぼくらのさあちの火口 さいうたいたす

かくれは ぼわいころ ぶわわのいぬ

る かいせつないのち さすつけない

で かましゆりこ えて つらさのこ

え ありのまみとめ あらなく

ら ぼくらのあかきゆめと ころでゆう

さうけたいみん なでちからあせ いさて ちゆう

よ ー ー ー ー ー ー

すてはくはない

ひかり学級 無敵最強スポーツコース

活動の流れ

6月5日	開級式
6月19日	自己紹介、係・コース名決め、忠生公園散歩（ボール蹴り）
7月3日	話し合い（バスハイク）、七夕づくり、ボッチャ
7月17日	話し合い（バスハイク）、ボッチャ、ペットボトルボウリング
9月4日	話し合い（バスハイク、公民館学級との対抗試合）、ボウリング
9月18日	バスハイク（工房体験、キックベースボール、全体交流会）
10月16日	ボウリング・バスハイクの思い起こし、キックベースボール
11月6日	キックベースボール、外食（中華料理）
11月20日	料理（カレーライス、サラダ、デザート）、話し合い（クリスマス会）
12月4日	キックベースボール（公民館学級との対抗試合）、クリスマス会
1月8日	話し合い（年末年始の近況報告）、卓球・バドミントン
1月22日	話し合い（成果発表会）、成果発表会の準備
2月5日	体育館外出（卓球・バドミントン・フリスビー・バスケットボール）
2月19日	話し合い（一年間の思い起こし、成果発表会）、成果発表会の練習
2月26日	成果発表会



印象に残った場面

無敵最強スポーツコースで一番、印象に残っているのは公民館学級とのキックベース対抗試合です。なぜなら、この日の為に何回も練習し、コースが一丸となって頑張ったからです。

スポーツが好きな青年たちは公園やバスハイク先で練習するときはいつも楽しんでいました。しかし、課題もありました。ボールを蹴った後に一塁に行かないことと守備です。打者だと凄く強いのにちよつとしたミスで相手に点数が入ってしまう可能性がありました。ここで必要なのは改めてルールを確認することと集中練習でした。試合まで残り少ない活動日でやる練習では打って一塁に走る練習とボールをキャッチして一塁に投げる練習をしました。初めは出来なかつたけれど段々と上達してきました。

試合当日はひかり学級ではクリスマス会でした。他のコースはクリスマス一色でしたが、スポーツコースは試合に向けて構えていました。会場は桜美林大学のグラウンドです。自己紹介をしてラジオ体操をして準備が整いました。我々は後攻です。練習した守備の力を見せるときです。劇的には進化をするわけではありませんが、ボールに向っていく人は多くなっていました。また攻撃側に移ったら得意分野なので力の限りにボールを蹴りどんどん点数を入れていきました。担当者のサポートもあり全員が塁に走っていききました。前半から調子もよく、リードしながら試合は進んでいきました。しかし、途中で公民館学級の打者が思い切りボールを飛ばして相手側に点数が入り、ピンチになりました。どうなるのかとハラハラしましたが最後まで逃げ切りました。8対9でギリギリでしたが勝つことが出来ました。

午後にはクリスマス会があるので公民館学級も誘いました。この日はコースごとに持ち時間が与えられていたので私たちは対抗試合の勝利報告をしました。青年と担当者にとって本当に嬉しくて楽しい一日になりました。

無敵最強スポーツコースの特徴とねらい

無敵最強スポーツコースは、体を動かしたい、スポーツをやりたいといった要求を持った青年が多く集まったコースで、男性13名、女性3名の合計16名で活動しました。

青年学級の経験が20年近い30〜40歳代の青年が中心で、昨年度もスポーツコースに所属していた青年が多かつたこともあり、活動当初より仲間意識がある程度できあがっているコースでした。

無敵最強スポーツコースでは、次のような3つのねらいを掲げて一年間の活動に取り組んでいきました。

- ① スポーツなどを通して、体を動かすことの楽しさを感じる。
- ② お互いを知ることのできるような活動を通じて仲間意識を深めていく。
- ③ 青年一人ひとりの得意なことを活かし、みんなで協力して一つのものをつくっていく。

2 活動の評価

(1) 素材について

① スポーツ

一) 忠生公園散歩とボール蹴り

最初の活動で、自己紹介の後、散歩に行きたいとの意見が出たことから近くの忠生公園にボールを持って散歩に出かけました。

忠生公園では、ラジオ体操の得意な青年のリードでラジオ体操を行なった後、みんなで輪になってボール蹴りをしました。

ボール蹴りでは、ボールを蹴る相手を見ながらまっすぐ蹴る青年や、力強くボールを蹴る青年がいる一方で、あまり積極的にボールを蹴ろうとしない青年もいました。また、公園への移動では、歩くのが早い青年とゆっくりな青年との間で距離が出てしまうので、

時々、担当者が声をかけながら歩きました。

自己紹介や輪になってボール蹴りをする事で、今年のコースでどんなメンバーが一緒なのか、お互いに知ることができると同時に、散歩やボール蹴りをする事で、青年がどのくらい動けるのか等、担当者として確認することができました。

二) ボッチャ

開級式のスポーツコースの紹介で担当者より「ボッチャ」を紹介したこともあり、何人かの青年からボッチャをやってみたいとの意見があり、挑戦してみました。

7月3日と14日の2回取り組み、2回とも赤チーム、青チームに分かれて白いボールめがけて順番に赤と青のボールを投げて試合をしました。初めてボッチャをやる青年がほとんどでしたが、ルールをわかりやすく説明したこともあり、一人ひとりボールを持って投げることができました。

試合の後、「ボッチャ初めてやった」といって嬉しそうにボッチャのボールを触る青年や、「また(ボッチャ)やりたい」と感想を言う青年もいました。青年にとってこれまで取り組んだスポーツと違った経験をすることができたのではないのでしょうか。

三) ボウリング

年度当初にコースでやりたいことを話し合った時に、ボウリングをやりたいと言った青年が多かったことや、ペットボトルボウリングがやりたいといった意見が出されたことから、まずは7月に室内でペットボトルボウリングを行ない、その後9月には町田駅周辺にあるボウリング場に行つて本物のボウリングに挑戦しました。

ペットボトルボウリングでは、ペットボトルに水を少し入れピンを倒れにくくし、2つのチームに分かれ、一人2球ずつ投げて試合をしました。

また、ボウリング場では担当者も含め4、5人のチームで4レー

ンに分かれて2ゲーム行いました。ボウリングの得意な青年はマイシューズやマイボールを持って来るなどとても気合を入れて活動に参加していました。また、他の青年についても、自分の順番になると積極的にボールを投げていました。また、ボウリングが苦手な青年に対して、他の青年がついて教えるといった場面も見られました。ボールを投げてピンを倒すというシンプルなルールだったこともあり、多くの青年が楽しむことができた半面、2ゲーム行ったことで疲れてしまう青年もでてしまいました。

四) キックベースボール

年度当初、多くの青年からキックベースボールをやりたいといった提案があり、また公民館学級のスポーツコースから対抗試合の申し入れがあったことから、継続的に取り組みました。

まずはコースでキックベースボールの練習をすることとなり、バスハイクで行つた藤野芸術の家の広場や忠生公園の広場、ひかり療育園のホール等、計4回の練習を行いました。これまでもスポーツコースで継続的に取り組んできた種目だったので、ルールはある程度理解していると思われましたが、ピッチャーが投げたボールを蹴ることはみんなできませんでした。蹴った後一塁に走ったり、飛んできたボールを捕って一塁に投げたりすることは難しかったようで、継続して練習することで、ある程度できるようになってきました。

対抗試合当日は、桜美林学園のグラウンドで公民館学級と合流し、互いに自己紹介をして準備運動をした後、キックベースボールの得意な青年がルールの説明をしてゲームを開始しました。試合は9対8でひかり学級が勝利しましたが、試合終了後、互いに握手するなど、対抗試合を通じて公民館学級との交流を深めるとともに、無敵最強スポーツコースとしての仲間意識を深めることができました。

五) 卓球・バドミントン・フリスビー・バスケットボール

青年から「卓球がやりたい」、「羽根つき」、「体育館に行きたい」

といった提案があり、まずはひかり療育園のホールで卓球とバドミントンに取り組んでみました。その後、町田第二小学校の体育館に行って、卓球やバドミントン、フリスビー、バスケットボール等に挑戦しました。

卓球やバドミントンは個人競技のため、全員で一緒に行くことはできませんでしたが、卓球を交代で行ったり、フリスビーを何人かの青年で輪になって投げあったりすることができました。また、体育館では卓球を一生懸命やる青年や、バスケットボールのシュート練習を熱心に行う青年など、それぞれが得意な種目や自分のやりたい種目に取り組むことができました。

② 創作活動・料理

一) 七夕飾りづくり

七夕の日が近かったこともあり、青年からの提案で七夕飾りを作ることになりました。折り紙で飾りを作ったり、願い事を短冊に書いて笹に飾っていきました。

色とりどりの折り紙で輪っかの鎖を作る青年や、飾りや短冊に花の絵を描く青年などコース全員で協力して七夕飾りという一つのものを作ることができましたが、あまり時間がなく作った作品をみんなで十分に観賞することができないまま終わってしまいました。もう少し時間をとって、作った飾りや願い事を紹介し、お互いに確認できる時間をつくることができれば、より活動を深められたのではないのでしょうか。

二) 工房体験 (バスハイク)

バスハイクで行く「藤野芸術の家」でやりたいことを話し合い、青年からサンドブラストや木工、陶芸がやりたいとの意見が出され、当日は3つのグループに別れそれぞれやりたい種目に取り組みました。

工房のスタッフから作り方の説明を受けてから作業に取り掛かっ

たこともあり、普段の活動ではあまり集中してものづくりをしない青年も含め、一人ひとり集中して活動に取り組み、それぞれ個性的な作品をつくることができました。

当日は、一人ひとり作った作品を確認する時間がありませんでしたが、その後のコース活動で写真等のスライドを使って思い起こしをすることで、工房での様子やそれぞれの作品をみんなで共有することができました。

三) カレーライスづくり

今回の活動の話し合いで、料理をつくりたいという意見が多かったことから、カレーライスとマカロニサラダ、フルーツヨーグルトをつくることになりました。併せて、担当者からの提案で、青年が働いている職場で栽培しているシイタケをカレーに、また別の青年が入れてみました。

前回の活動で食材について話し合い、カレーライスの食材については事前に担当者が買っておくこととし、当日はマカロニサラダやヨーグルトを近くのスーパーで買うことになりました。

これまでのスポーツ活動とは違い、料理という素材に取り組むことで、料理やものづくりが得意な青年の力を発揮する場面をつくることができました。

③ 成果発表会

成果発表会に向け、無敵最強スポーツコースの一年間の主な活動を写真のスライドを見ながら思い起こし、どのような活動が印象に残っているかを確認していきました。そこから、一年間の活動で印象に残った活動をスポーツの実演や作文等で一人ひとり発表していきます、最後にクリスマス会で踊った「choo choo train」を全員で踊ることとなりました。成果発表会の前の活動で流れを確認し、成果発表会当日、担当者がシナリオ案をつくってみんなに提案し、何度か

練習した後、本番に臨みました。

(2) 生活づくり

今年無敵最強スポーツコースでは、七夕の短冊に願い事を書くことで、家庭での様子や青年の思いを知る機会をつくることができました。

日頃からボウリングや卓球の練習に取り組んでいる青年は、七夕の短冊に「卓球のプロになりたい、英語をしゃべりたい」と書いていました。自宅で毎日壁打ちの練習をしているとのことで、卓球に對して自信を持っていることが伺えます。またある青年は、短冊に「お仕事ががんばる」と書き、また別の青年は「もっと青年学級が続きますように」と書いていました。そうしたことから青年の仕事や青年学級に対する思いを知ることができました。

ただ、そうした仕事や青年学級に対する青年の思いを、時間がなかったこともあり、その後コース内で共有し、話し合っただけでいなくまでには至りませんでした。班長を務めた青年も担当者と一対一だと職場のことなど自信を持って話していましたが、全体の場ではなかなか話すことができませんでした。2、3人の小集団だと話ができても、大勢になるとなかなか話ができない青年もいます。そうした青年の思いをもう少し丁寧に聞いていって、活動につなげていくことができれば、また違った活動ができたかもしれません。

無敵最強スポーツコースは言葉で表現することが苦手な青年が何人かいました。自己紹介やお正月の話をしたときに、事前に家族と連絡をとって本人の話をフォローする必要がありました。ただ、今年はそのことが十分にできないまま終わってしまいました。ただ、家族が送迎しているある青年については、家族が送り迎えに来た時に、普段の生活の様子や学級での様子を家族から聞いたり伝えたりする機会が何度かありました。マラソンが得意で大会等にも参加していることを家族から聞くことができ、ニュースなどでも紹介すること

ができましたが、コース活動でとりあげ、みんなでそのことを共有するまでには至りませんでした。その他の青年については、家族があまり送迎をしていないこともあり、話す機会がほとんどありませんでした。家庭やグループホームと連絡を取る際に、ただ単に要件を伝えるだけでなく、家族やグループホームの職員から最近の様子等をもっと聞いて活動に活かしていくことができれば、より活動も充実していくのではないのでしょうか。

その他、コース活動で、青年が働いているところでつくっている食材等をつかって料理をつくりました。職場でシイタケを栽培している青年は、学級日前に職場でシイタケを買って、当日の活動に持って来ました。コースの中でそのことを紹介すると、とても嬉しそうにしていました。また、別な青年も自分の職場でブルーベリージャムを販売していることをみんなにアピールして、デザートのヨーグルトに入れることになりました。料理の食材を通じて、青年の仕事のことをお互いに知る切っ掛けとなり、また、そのことが仕事に對する自信にもつながっていくのではないのでしょうか。

(3) 表現活動（文化創造）

① 成果発表会

成果発表会の話し合いをしたときに、青年から「作文を読みたい」、「絵を描いて発表したい」といった意見が出されました。これは、これまでの学級の経験から成果発表会が、普段の活動とは違い、作文や絵という形で自分の思いを舞台の上で表現する場であるということが、青年の中に意識されているからだと思います。舞台の上で、普段の活動ではあまり積極的にボールを蹴ることのなかった青年が見事にボールを蹴ったり、成果発表会の発表に向けて活動の思い出の作文を活動中すらすらと書き、自信をもって発表するなど、青年にとって成果発表会が一年間やってきたことを表現し観客に伝える場として、しっかりと根付いていると言えるのではないでしょ

うか。

② スポーツ

今年、無敵最強スポーツコースでは、開級式の担当者によるデモンストレーションでボッチャを提案したこともあって、何人かの青年からボッチャをやってみたいとの意見が出され挑戦してみました。当初、新聞紙等でボールをつくって行うことを考えていましたが、当日、応援で参加した担当者が、ボッチャの道具を持っていったことから、本物の道具を使い、みんなにルールを説明してもらいながら取り組むことができました。これまでスポーツコースではあまり取り組んだことのない種目でしたが、本物の道具を使って、丁寧にルールを説明して取り組むことで、「またやりたい」といった感想が出されるなど、新たに経験したことが、次の新たな要求につながっていったと思われず。

また、ボウリングにしても、ペットボトルボウリングは手軽に取り組むことができますが、ボウリング場に行って本物のボウリングを行ったときの方が、青年もより集中してプレイしていました。その他、卓球についても、ひかり療育園のホールで、作業机等を使っていたときよりも、体育館で本物の卓球台で行ったときの方が盛り上がり上がっていました。

ただし、メンバーによっては道具を工夫したり、ルールについても、オリジナルのルールのままではなく、コースの集団全員が参加できるようなルールに変えるなど、工夫が必要となってくると思われます。

3 今後の課題と展望

これまでスポーツコースでは継続してスポーツコースに参加する青年が多いこともあり、これまで取り組んできたボウリング、キックベースボールといった要求が出され、それらの種目に活動で取り

組みました。ボウリングやキックベースボールなど継続的に取り組むことで、青年が見通しを持って活動できる半面、活躍できる青年が偏ってしまったたり、活動が「マンネリ化」してしまう可能性もあります。

今後、今年度新たに取り組んだボッチャのような新しいスポーツにも挑戦するとともに、例えば風船バレーボールやゴロバレーボールなど車いすを利用して青年も参加できるようにスポーツにも取り組んでいくことが必要と思われず。また、公民館学級のスポーツコース以外の種目での交流も模索していく必要があるのではないのでしょうか。

ひかり学級 ひまわり味彩大作戦コース
活動の流れ

6月5日	コース決め、活動でやりたいことについて
6月19日	話し合い（コース名決め、係決め）、自己紹介
7月3日	調理（カレーライス）、話し合い（バスハイク行先、次回活動内容）
7月17日	話し合い（バスハイクでやりたいこと）、七夕づくり
9月4日	話し合い（バスハイクでやりたいこと）、工房体験で創りたい物のイメージ 絵作成
9月18日	バスハイク
10月16日	バスハイクの振り返り、話し合い（次回活動日について）
11月6日	調理（そうめん作り、そうめん作りの振り返り）
11月20日	クリスマスツリーとキャンドル作り
12月4日	クリスマスツリーとキャンドル作り、クリスマス会
1月8日	年末年始の振り返り、外食のメニュー決め
1月22日	成果発表会について話し合い、作ってきた作品の見直し
2月5日	外食、外食の振り返り、成果発表会打ち合わせ
2月19日	成果発表会の打ち合わせ
2月26日	成果発表会

1 ひまわり味彩大作戦コースの特徴とねらい

男性 11名 女性 6名の計 17名のコース。年齢は 40代で学級歴 20年以上の青年多数でのメンバーでの活動となりました。前年度の物作りコースや以前物作りコースの青年が多く、物をつくることや料理に興味のある青年が集まりました。

活動の狙いは、料理や工作など物を作る楽しさや達成感を味わうところにあります。その過程で、様々なことを語り合い、お互いを知り、自分の生活を考えるきっかけづくりを目指しています。また、大人数のコースであることを踏まえ、活動を行う上で、集団意識を高め協調性を育むよう心掛けました。

2 活動の評価

(1) 取り組んだ素材

■ 調理

○カレー・サラダ・フルーチェ

二つのグループに分かれ作業を行いました。

車椅子の青年は小型包丁を使いきゅうりを切ったり、フルーチェを作ったりしました。作業を分担したことで昼食時間に間に

合いゆつくり食べることができました。

○素麺・稲荷寿司

秋の調理活動なので温かい素麺と稲荷寿司を作りました。

大量の素麺を茹でる青年や油揚げを開くのに苦戦する青年もいました。ご飯を詰める作業は各自が行いましたが難しい青年には他の青年を手伝う姿もあり、皆で協力して取り組みました。

■ 物作り

○七夕飾り

大人数であるため二つのグループに分かれそれぞれ絵の得意な青年が大きく竹を描き、笹の葉を切り貼りしたり、折り紙で飾りをつくったりしました。

○イメージ絵

バスハイクでの工房体験でどんな物を作りたいかイメージし、絵を描きました。ガラス体験希望の青年は苺を描き、木工体験の青年は三連の木や自動車の絵をかきました。

■ クリスマスツリー・ランプ作り

全体活動のクリスマス会に飾るツリーは三角のダンボールを2枚重ね緑色の紙を貼り飾りを付け、ツリーの土台には皆でコメントを書いたシールを貼りました。

ランプはダンボールを丸く切り土台にして、プラスチックカッパを被せました。土台になる紙にキリで穴を開けるところは青年が行い発光ダイオード接続は担当者が行いました。

ツリー・ランプはクリスマス会のホールに飾ることができました。

■ 調理の見本作り

成果発表会に向け、今まで作った調理の見本を毛糸やフェルトで作りました。

紙皿に茶色い毛糸でカレー・白色毛糸でご飯を乗せ、フェルトで人参・ジャガイモ・福神付け・折り紙でサラダを作り、白色毛糸で素麺を盛り、フェルトで卵焼きや蒲鉾を飾りました。

■ 外出

○バスハイク（藤野芸術の家）

施設では3つのコースに分かれ活動しました。

事前にイメージ絵を描いていたのでスムーズに作業に取り組みました。ガラスを削る機械が少なく実際に体験出来た青年は数名しかいませんでしたが初めての施設、初めての体験を行うことができました。

■外食（和食レストランサガミ）

1月にコースの新年会を兼ねて外食しました。

メニューが豊富なため大人数では決めるまで時間がかかるのではないかと担当者からの提案で金額などを考慮し、2つのお膳から予め選び予約しました。

ある青年は全員の配膳が終わらないうちに食べ始め、みんなが揃った時点で食べ終わったというハプニングや体格の良い青年は物足りず少食の青年から分けて貰っていました。

数名の青年が近くのケーキ屋に寄り、おやつケーキを買って帰りました。午後のおやつにしました。

外食の感想で女性からは器も綺麗で目でも楽しめた。初めて韃靼蕎麦を食べたと感想を聞くことが出来ました。

■成果発表会

パソコンが得意な青年が台本を作ってきました。それを基に話し合い、手を加えて行きました。出番待ちに「だんだん緊張してきた」と話した青年も舞台上に立つとアドリブでセリフを言

っていました。発表が終わると今までの作品をホール前に飾り来客や他の青年にも間近で見てもらいました。

（2）生活づくり

活動始めの自己紹介で、最近ガイドヘルパーと外出するのを楽しみにしている青年がいました。夏休みの過ごし方の話し合いです。家族と映画や墓参り、旅行などそれぞれ楽しんだ様子でした。グループホームで暮らしている青年が数名いると知った一人の青年は「みんな家から離れてグループホームで暮らしていると聞くと自分も家を出た方が良いのか焦っている」と担当者に話しました。

活動の料理の仕込みは全員協力して、盛り付け等は各自で行ないました。年間を通して稲荷寿司作りや物作りのランプ作り・外食で韃靼蕎麦を食べたり、バスハイクで行った藤野芸術の家、その中でもガラス細工作りなど初めて体験することが多かった活動になりました。

（3）集団づくり

コミュニケーションが得意な青年が、口数の少ない同じ職場の青年の様子などを報告してくれることがみられます。仕事の都合で遅く参加する青年が、部屋に入ってきた途端、「あー来たあ」とみんなの声があがり、その青年もスムーズに活動に入ることができました。

バスハイクの昼食中、ある青年が他の青年のお水を何回か飲んでしまいましたがお水なら何杯でも飲んでよいけど他の人のや、向こうのジュースは飲んでダメだよ」と声をかけていました。

ランプ作りではカップの淵を切ることが難しい青年に代わり、得意な青年が線を引きました。

ある活動日の昼食時、食欲が無かった青年に対し、他の青年が「ちゃんと食べないとダメだよ」と声をかけ、他の青年も自分の飲み物を分けてあげ、美味しそうに飲んでいる姿を見てホッとした顔を見ました。

一年間の活動を通して集団意識・仲間意識が高まったのではないだろうか。

3 課題と展望

普段、学級活動に参加できていない青年がおり、彼らが定着して活動に加われる様にするにはどうしたら良いかを検討する必要があります。成果発表会に向けて全員で取り組める大きな作品を手掛けていこうとはしたものの、なかなかまとまった時間を確保することが出来ませんでした。調理では青年たちが今まで取り組んできていなかったものにチャレンジし、満足度も高かったことから、青年たちの意思を尊重しながら、新たなチャレンジの場も設ける必要があると改めて感じました。

ひかり学級 コスマリップ劇ダンスコース

活動の流れ

6月5日	開級式、自己紹介（活動でやりたいこと）
6月19日	話し合い（係り決め、自己紹介、コース名決め）、音楽を聴いてダンス
7月3日	話し合い（バスハイクの行き先について、つどいで歌う曲について）、ダンス
7月17日	調理（カレー・デザート作り）、話し合い（バスハイクでの活動について）
9月4日	夏休み報告、話し合い（バスハイク、劇について）、ペットボトルボーリング、バスハイクでの創作物のイメージ作画
9月18日	バスハイク
10月16日	話し合い（バスハイクの振り返り、劇について）、劇の練習
11月6日	話し合い（クリスマス会に向けて）、クリスマス会の小道具づくり、忠生公園へ外出、劇の話し合い、練習
11月20日	話し合い（クリスマス会に向けて）、台本確認、小道具づくり
12月4日	発表準備、クリスマス会
1月8日	近況報告、小道具づくり、劇の練習
1月22日	台本の確認、劇の練習
2月5日	成果発表会に向けて
2月19日	劇の練習（めくり・しおり作り、BGM決め）
2月26日	劇の練習（台本の読み合わせ、リハーサル）、成果発表会

1 コスマリツプ劇ダンスコースの特徴とねらい

男性5名女性4名の計9名のコース。年齢は40代で学級歴20年以上の青年が多数でのメンバーでの活動となりました。

昨年度「ミュージカルダンスコース」と「にじスマイルコース」に在籍していた青年が6名と、歌やダンスに興味のある青年がほとんどで、衣装作りの紹介もしたことからか、ものづくりコースだった「小さなしあわせコース」に在籍していた青年も1名いました。

活動のねらいは、成果発表会で劇を披露するという大きな目標を掲げ、コースで1つの目標に一致団結して取り組むことで、仲間と達成する喜びを分かち合うところにあります。少人数での話し合いにより、お互いの意見を大切にしながら、考え方を深く知り、仲を深められるように配慮し活動しました。好きな曲に合わせて歌い、踊ることで、楽しみながらお互いの得意なことを知り合い、個性を表現し、認め合っていました。調理やペットボトルボーリング、劇の小道具制作を通して、協力しながらお互いの得意なことや好きなことを発見できたコースとなりました。

2 活動の評価

(1) 素材について

①ダンス

お互いを知り合う目的で、好きなCDを聴き、ダンスをしました。40代の青年が多いため、松田聖子やシブがき隊といった30年以上前の曲と一緒に歌うことで強い一体感が見られました。他にもJ・P・O Pからはモーニング娘。やスピッツなどでダンスをし、比較的新しい曲ではあるものの知っている青年が多く、楽器を持って好きなりズムに合わせて踊ることで全員が楽しむことができました。

最終的にこの機会に流した曲を劇のBGMに使ったり、劇の終盤のダンスに取り入れたり、コースに取って大切な曲になっていきました。

②調理（カレー、フルーチェ）

自己紹介でやりたいことを聞いた際に、青年たちから料理を作りたいとの意見が出ましたので、取り組むことになりました。青年たちからは、サンドイッチやデザート、冷やし中華、話し合いの際に他コースがカレーを作っていたことに影響されたのか、カレーの意見も出ました。多数決で、最も多かった「カレー」を作ることにになり、青年から「夏野菜カレー」がいいとの意見も出たためナスやピーマンを入れることになりました。デザートは「フルーチェ」を作りました。青年たちで手分けをし、かき混ぜたり、もう1つのボールに入れる牛乳を計ったりして完成させました。

③ペットボトルボーリング

ペットボトルをピンに見立て、絵具を混ぜて好きな色をつけました。青年たちは、途中から絵具を混ぜてピンが色とりどりに変わる様子を楽しみました。共に絵具を選ぶことで、年齢が離れていた、前年度コースが異なっていて交流が少なかりがちな青年同士に交流のきっかけが生まれました。普段、あまり活動に参加していない青年も、ピンの前まで駆け寄って投球し、一緒に空間での活動ができ、一致団結が求められる劇を作っていく上での大きな一歩となりました。

④バスハイクに向けての活動

バスハイク前の活動日では、藤野芸術の家の工房で作る作品のイ

メージを描いて発表しました。「作業所で使っている滑り止めのついた斜め皿」、「好きなビールを飲むためのコップ」、「シンプルなコップ」などの生活を意識したものの。赤いペンでチューリップを描いて見せる青年、母親の顔を描く青年もいました。好きなものを描くことで、よりお互いのことを知る機会にもなりました。

⑤ ハンドベル

他のコースの担当者に協力してもらいながら「赤鼻のトナカイ」、「小舟」を演奏しました。練習では、赤のグループと青のグループにわかれ、担当者が赤のうちわと青のうちわを交互に出し、それに合わせて青年はベルを鳴らしました。みんな知っている曲ということもあり、リズムも取りやすくスムーズに進み、歌いながら練習することもできました。小舟では一列に並び、担当者が肩をたたいたタイミングで鳴らすことにしました。本番では、みんな緊張することなく練習通りに発表することができました。

⑥ 劇『桃太郎』

劇を一年を通じて取り組みました。一からテーマを考えていくには時間があまりにもかかるため青年に絵本を持って来てもらいその中から探ることにしました。「カチカチ山」「浦島太郎」「金太郎」「桃太郎」の絵本から多数決で「桃太郎」を演じることになりました。「桃太郎」をモチーフにオリジナル劇に取り組みました。オリジナルの劇を作るならば配役もオリジナルのものがないのではいかとの提案でそれぞれの青年のやりたい役を話し合いました。ピンク色の服や車イスが好きな青年は桃太郎役に推薦されたりと、青年の間できちんとお互いの良いところを見極め、活かそうとする強い仲間意識が見えました。桃太郎の由来の動物にライオン・ゾウ・シカと希望を出す青年もいたり、元からある桃太郎役は、名前を変えて演

じるのはどうか？と意見を出す青年もいました。最終的に桃太郎の名前は「ももすけ」との意見に決定しました。
・ストーリー台本

コースオリジナルのものを演じたいという要求がありました。それを実践に移す決定的な出来事として、オニ役の青年が、すぐに桃太郎役の青年から、きびだんごを受け取るうとしたしぐさをするこ
とで、劇のストーリーの方向性が決定していききました。きびだんごを渡してから仲間になるシーンでは、練習の際に、ふいに青年同士で握手を交わしたことから、その後のシーンでも握手シーンを取り入れることとしました。長いセリフが難しい青年には、「がんばれ！」など応援の台詞を用意することで劇に参加できるようにしました。

・衣装・小道具作り

きびだんご作りでは、紙粘土を丸める単純な作業であったことや劇中で一貫して登場する道具であったことから全員で1個以上作り、キーアイテムとして意識を共有することができました。また、お面作りでは、自分が演じる役のお面を1人ずつ制作しました。大きな桃作りは、事前に担当者で作った桃を絵具で塗りました。

(2) 集団作り・仲間づくり

出席を取る際に休みの青年がいると「○○さんは？」と気に掛けることがあり、活動当初はあまり関わりが強くは見られなかった青年に仲間意識が生まれていました。電車が好きな青年たちは、お互いに読んでいる本を貸し借りしていました。劇の練習が始まると自分のペースでいることが多い男性陣に対して進行係の青年が声をかけることがありました。1年間の活動が一貫して劇の発表につながりました。台本のセリフを青年と担当者双方で内容を確認することや担当者からいくらか提案をしつつも練習後に意見を聞くことで青年が主体となって劇を作り上げることができました。

近況報告（電話かけ）を通じてどの青年も学級日が楽しみと報告

があり一人ひとりにとって大切な場所となっていることがわかりました。

3 課題と展望

・介助について

このコースは女性の介助が必要なコースでしたが、毎回の活動で参加できる女性の担当者は二人で、なおかつそのうちの一人は新人であることを考えると、毎回のように経験のある応援の担当者をお呼びする必要があります。

・劇を観に行く・DVDを見る

劇を観に行くという希望は現在では出ていませんが、自分たちの劇を作り上げるためにも参考になるものを見る時間は設ける必要があります。必要性を感じながら、小道具作りや話し合いに追われてしまい時間を設けることは困難でした。

以前からコースのメンバーと一緒に活動に加わることがなくほぼ1日中ベッドで寝ている青年がいました。話し合いの時には、担当者がベッドまで行き何択かの質問を投げかけると答えるが、自分から意見を出すことは基本的にはありません。しかし、食べ物（おやつ）など興味の強いものがある時はコース内にとどまっているため、好きなことを活動の中に入手く取り入れることで、「楽しい」と思いながら継続的にコースに入れるように工夫する必要があります。

第2章 自治活動

班長会

(1) 班長会とは

コース間の情報交換や情報交流をする場であり、またバスハイクや成果発表会、クリスマス会など学級全体に関わる議題について話し合う場として班長会が行われます。例年、午後1時から1時半まで行っていますが、外出等で複数コースが不在の場合は夕方におこなうこともあります。

また、昨年度から。その日の班長会での出来事をまとめた班長会ニュースを持ち回りで執筆し、他の学級生への情報共有に努めました。各コースからは班長が、欠席の時は代わりに副班長が参加し、班長会を進めていきました。

(2) 活動の流れ

6月19日

- ・各コース名の報告、合宿かバスハイクかについて。バスハイクに決定。また、朝のつどい担当コースの順番決め。
- ・つどいの順番 ①コスマリツプ劇ダンス ②ひまわり味彩大作戦
- ③ふれあいをつくっていく ④無敵最強スポーツ

7月3日

- ・バスハイクの行先について各コースからの報告。「藤野芸術の家」に決定した。

7月17日

- ・バスハイクでやることについて話した。
- ・全体交流会をやるか↓やる
- ・工房体験をやるか、やる場合は、何をやりたいか（陶芸？木工？ガラス？）
- ・スタジオは使うか？
- ・食事はレストラン？バーベキュー？↓レストランで決定

9月4日

- ・バスハイクについて
- ・全体交流会で何をするか↓ものまね○×クイズ、ダンス、うた
- ・工房体験で何をするか（陶芸？木工？ガラス？）
- ・食事のメニュー
- ・生涯学習センターまつりについて日程確認

9月18日

- バスハイクのため班長会は休み

10月16日

- ・まつりで歌いたい歌決め

- ・クリスマス会、新年会、それぞれになった場合の日程確認、成果発表会

11月6日

- ・クリスマス会（12月4日）か新年会（1月8日）かの話し合い

11月20日

- ・クリスマス会で何をやるか（全体・コースごと）、ゲスト呼ぶ場合は第2候補まで

- ・うたを決める。恋人がサンタクロース、あわてんぼうのサンタクロース、きよしこの夜、アナと雪の女王、ジングルベル

- ・ゲストは桜美林大学聖歌隊

12月4日

- ・クリスマス会担当、歌の順番決め

1月8日

- ・成果発表会に向けて段取り確認

- ・バスハイクか合宿か、その決め方

1月22日

- ・招待状作成
- ・成果発表会時間確認
- ・発表順（①ふれあいをつくっていく②ひまわり味彩大作戦③無敵最強スポーツ④コスマリツプ劇ダンス）

2月5日

・ 成果発表会で歌う歌

・ 班長の役割分担（司会、初めの言葉、終わりの言葉）

2月19日

・ 来年度のバスハイクまたは合宿の希望者数 結果報告 現状
バスハイク33人 合宿12人

(3) 論点

司会は毎回、希望者を募るか、偏った場合は、担当者の方で指名してしました。

・ 積極的に発言するのが一人の青年であり、ともすれば一人の意見が班長会の総意となるケースが多くみられました。

・ 昨年度まではおこなわない日もありましたが、今年度は毎回、班長会をおこない、細かな事でも情報共有に努めました。

第3章 考察

1 今年度の活動について

16年度は、「音楽」、「スポーツ」、「ものづくり・料理」、「劇・ダンス」の4つのコースに分かれて活動に取り組みました。年間を通じた継続的な活動となるテーマについては、4月の「青年学級を語る会」での意見と事前アンケートにもとづいて編成しました。外出を希望する青年たちが半数以上に上がることを考慮し、各活動の中で、外出を取り入れての活動も視野に入れました。

今年度、ひかり学級では担当者不足等の理由から、4コースで活動をおこないました。また、新人学級生の募集をしませんでした。しかし、新たな仲間を学級に迎えることにより、刺激となり、活動の幅を広げることができるとは思いません。文章はわかりやすい表記で、活動時の様子が思い浮かぶような書き方を心がけました。また、青年の絵や作品の写真を一緒に載せることもありました。今年度の試みとして、班長会での決定事項をまとめた班長会ニュースを掲載しました。今年度は、ニュース送付日を例年よりも早めに設定するよう心掛けました。

ここ数年、ひかり学級の秋の行事を合宿かバスハイクかのアンケートを取り決定しています。2013年度からは、バスハイクがアンケート、また、学級日での話し合いで優勢です。今年度も、話し合いの結果、バスハイクになりました。行先は、藤野芸術の家になりました。現地で、陶芸や木工、ガラス細工づくりなどを行なうことにしました。また、全体交流会も行ない芝生の上で学級ソングを歌いました。終了後の感想では、「自分で作った作品をおかあさんにあげ喜んでもらえた」や「楽しかった。また行きたい」、「レストランでの食事がおいしかった」などの意見がたくさん挙がり、とても好評でした。

しかし、4年連続で合宿に行っていないこと、また、合宿に行きたいという意見もあることから、多数決だけで決定していくのではなく、少数意見にも耳を傾けていく、1年おきに合宿とバスハイクを組み入れていくなどの工夫も必要になってきそうです。

2 担当者の役割について

慢性的な担当者不足により、他学級の担当者や近隣大学のボランティア部の方に応援に来てもらいました。ただ、外出希望者が多いにもかかわらず、コース活動になかなか外出を組み込むことができなかった状況になりました。

担当者間での情報共有を重視し、活動後は応援担当者や当日担当者、ボランティアの方と振り返りの場を持つようにしました。担当者の役割として、青年の求めに応じた支援や、学級活動の環境づくりがあります。前記にありますが、「ともに活動をつくりあげていく人であること」が前提にあります。

また、青年が活動に参加しやすくなる工夫の一つとして、ニュース作りを行っています。毎回の活動報告と次回の活動予定を各コース1枚ずつ便りにして、活動日前に送ります。文章はわかりやすい表記で、活動時の様子が思い浮かぶような書き方を心がけました。また、青年の絵や作品の写真を一緒に載せることもありました。今年度の試みとして、班長会での決定事項をまとめた班長会ニュースを掲載しました。今年度は、ニュース送付日を例年よりも早めに設定するよう心掛けました。

青年の家族から、誰が同じコースの担当者かわからないので「ニュースに担当者の名前を載せてほしい」という要望を受けてから、原稿には必ず担当者の名前を記載するようにしました。こういったことから、様々な面で青年・家族・地域・担当者全体で青年学級がつけられていることを実感します。青年の家族と様々な意見を交換し、より良い学級づくりに向けて共に支え合える関係を築いていくことも大切です。

今年度は、新たに8人の担当者を迎えられることになりました。依然、厳しい担当者体制ではありますが、後半は少し活動に幅を持たせることが出来ました。

3 じゆん

活動の始まりと終わりに学級全体で行う「つどい」の司会進行は、例年同様、コースごとに順番で行いました。リクエストにより、活動の中で作られてきた学級ソングを数曲歌います。曲は90曲以上ののぼるのですが、曲のリクエストは当日その場で青年たちに聞き取りをしていくため、リクエストをする人と選曲に偏りが出てしまいました。

また、例年、新曲が生まれていますが、それを学級全体で共有できるタイミングを持っていないことから、8月に担当者会議で練習をし、また、それぞれの歌が作られた経緯を学びました。

リクエストをする人や選曲の偏りを改善するために、今年度は、帰りの「つどい」を担う、「つどい・歌係」を各コースから1名ずつ選出し、昼休みに、帰りの「つどい」で何を歌うかを決定しました。

そうすることで、各コースの中で担当者のフォローの元、普段、リクエストをしない青年の声にも耳を傾ける工夫をしました。

4 喫茶「のぞみ」

学級活動後の他コースのメンバー間の交流の場として、活動後にひかり療育園の調理室で行った喫茶活動です。2001年頃、開始ししばらく休止していましたが、2012年から再開しています。メンバーは有志の青年で構成され、今年度は2、3人の青年と担当者2名が定例的に参加していました。活動内容は、昼休みにお茶やお菓子の買い出しをし、活動後に喫茶の支度をし、一人50円の会費で開店しました。お茶出しが落ち着くと、お金の計算、出納帳に記録、状況報告などを共有しています。

ここ数年、同じ形態でおこなっていますが、以前、ひかり学級の今後を見据えて、一度話し合いをする必要性などの意見も挙がって

いますが実現できていなく、それが課題と言えます。

第4部 土曜学級

第1章 班活動

土曜学級 ひまわりサンバ班

活動の流れ

No.	学級日	主な取組み
1	6月11日	開級式 希望者14名
2	6月25日	2名が他のコースに異動して最終的な人数は12名 発声練習、好きなCDを持ち寄り内容を紹介をしてみんなで聴く 話し合いで「ひまわりサンバ班」に決定。他にも係決め、今年度の活動について話す。
3	7月9日	マツケンサンバ2の替え歌で「ひまわりサンバ」をつくる。 ひまわりのバトン製作。話し合い（帰りの集いの運営、11月の日帰り旅行）
4	7月23日	楽器作り（シェイカー、アゴゴ、たいこ、スルド、ブラジルの旗） 話し合い（日帰り旅行、土曜学級20周年）。ひまわりサンバ合奏。
5	9月10日	マグロカレーづくり、話し合い（夏休みの報告、生涯学習センターまつりで歌う歌、日帰り旅行、次回の活動）
6	9月24日	話し合い（日帰り旅行）、青年の発案によるこち亀実写版で使用された「365歩のマーチの体操」、「ひまわりサンバ」の練習
7	10月8日	秋祭りをテーマに神輿作り、チョコバナナ作り、次回の話し合い
8	10月29日	話し合い（日帰り旅行のグループ分け）、グループ旗の製作、しおりづくり
9	11月12日	日帰り旅行で横浜みなとみらい（三菱みなとみらい技術館、プロムナードコンサート、ふれあいショップみなと、ランドマークタワー）
10	11月26日	話し合い（横浜みなとみらい日帰り旅行の振り返り、来年度の合宿）、合唱、成果発表会に向けて練習開始、あいうえお作文、浄運寺へ散歩
11	12月10日	成果発表会の練習、話し合い（来年度の大地沢合宿、つどいの進行当番）、クリスマスパーティ
12	1月7日	午前中は近況報告、新年会の準備（おみくじ作り、七福神のポスター作り）、オリジナルソング作り（ひまわりの花咲くころ／祭りに行った二人で／わっしょいわっしょい疲れたけど／リンゴ食べれば元気）、午後は新年会
13	1月21日	オリジナルソング作りのつづき、名札作り、成果発表会台本の読み合わせ
14	2月4日	オリジナルソング練習、成果発表会に向けて練習
15	2月18日	成果発表会に向けて練習、オリジナルソング練習、めくり作り、ひまわりバトンの修理
16	3月4日	成果発表会。

1 集団の構成、特徴

男性 11名、女性 4名が参加、計 15名と、土曜学級の中では比較的大きめの集団。楽器演奏や歌、ダンスが好きな青年たちが集まりました。年齢は 30代、40代が中心で昨年度からの継続が大半。班活動の前提として食事やトイレでのサポートが必要な場面もある一方で、ドラム、ギターを演奏する青年もいて、多彩な顔ぶれとなりました。

また、母の入院とともに生活が不安定になり体調を崩すことが多く学級を休みがちな Nyさんもいて、学級活動のみならず生活面でも見守りが必要な青年もいました。

なお、担当者は 5名（内、当日担当者 2名）で、他学級などから応援に入っていたり方も毎回 1、2名いて、活動の大きな支えとなりました。

2 活動のねらい

ア 楽器演奏などの活動を通して、お互いに認め合い尊重し合える集団作りを目指す。

イ 歌作り、振り付けを作り上げる共同作業により、仲間意識を高める。

ウ 活動の中に青年たちの想いを取り入れ、自己表現の喜びを感じる。

3 活動の評価

ア 班名決め

青年たちに馴染みのある「マツケンサンバⅡ」のDVDを視聴したことで、班名決めの話し合いで出た「ひまわり」が結び付き、「ひまわりサンバ班」となりました。

イ ひまわりサンバ

班名にちなみ、サンバを活動に取り入れられました。本式のサンバではリズムが速すぎることから、「マツケンサンバⅡ」の「マツケン」の部分で「ひ

まわり」と替えて使用。踊るときの小道具として、扱いやすい花紙でひまわりのバトンを作成。その過程で多くの青年が関わることが出来ました。これを「帰りのつどい」で発表。その後も活動を盛り上げる素材として継続して取り組みました。

ウ 楽器作り

サンバの楽器であるシェイカー、アゴゴ、スルドを段ボールや空き缶、ペットボトルなどを使って作成し、演奏に使用しました。

Ahさんはブラジルの国旗を作成。細かなところまでデザインが再現され、色使いも的確なその出来映えが目されていました。

エ 調理（まぐるカレー）

まぐるとカレーが好きな青年たちの意見を取り入れて出来た創作メニュー。野菜を切る、炒める、盛りつけるなど役割を分担して、全員で作ることが出来ました。前年度の担当側との反省点であった後片付けについても、事前に担当者間で課題意識を共有し、青年たち全員で取り組むことが出来ました。

オ 三百六十五歩のマーチ体操

「こち亀」の実写版で使用された「三百六十五歩のマーチ」を体操にも取り組みました。聞き慣れた曲にユニークな振り付けで青年たちは盛り上がりましたが、そもそも「こち亀」を素材として取り入れるきっかけとなった Onさん自身が、その実写版に出演する俳優が漫画版の主人公に似ていないと拒否反応を示し不興なのは残念な結果でした。

カ 発声練習

昨年度も発声練習として使用した「やまびこっこ」を今年度もNkさんのリードで行いました。他の青年たちの声が聞き取りにくかったためマイクを使用したところ、ほぼ全員の青年が小さな声ではあったが、しっかりと山びこを返していました。今後も状況に応じてマイクを使用しながら、またリード役を交代することも考え、継続して取り組んでいきたい活動です。

また、もっと大きな声を！ということで、応援団風の発声練習も試みしました。名付けて「応援リレー」。「フレ！、フレ！」の跡に青年たちの名前を続けて発声します。他者を意識するきっかけ作りとする目的もありました。いざとなるとなかなか声の出ないSmさんは、Onさんを指名し、大きな声が出ました。一方、応援団の雰囲気を楽しんでいたAyさんは緊張で声が詰まってしまいました。今後も発声練習のひとつとして取り入れて活動の幅を広げていきたいものです。

キ 秋祭り

Irさんの発案により「秋祭り」をイメージした活動を行いました。

ひとつは神輿作りで、鳳凰はNkさんが、家紋はIrさんが描きました。紙を貼ったり、組み立てたりと工程に全員が参加。帰りのつどいや、生涯学習センターまつり、成果発表会でも披露しました。

もうひとつはお祭りの屋台をイメージしたチョコバナナ作り。バナナにポッキーを指し、チョコクリームをつけて食べました。お祭り気分を味わうというところまではいきませんが、食べやすく、見た目も楽しめるメニューで青年たちに好評を得ました。

ク 日帰り旅行

(ア) 計画

みなとみらい方面には何があるかと担当者から提示したところ、乗り物の体験ができる「三菱みなとみらい技術館」に行きたいという意見が出ました。展示がテーマ別のゾーンに分けられていることから、青年たちの希望に応じてグループを作り、それぞれの旗を作りました。「青い海グループ」は海洋ゾーン、「赤い鳥グループ」は航空宇宙ゾーン、「黄色い駅グループ」は交通・輸送ゾーンという、3つのグループになりました。

当日は参加できないNoさんにワープロでしおり作りをお願いしていたが、パソコンが他の班で使用されていたため、青年たちの描いたイラストや文字などを切り貼りし印刷する係を担ってもらいました。ワープロが使用できなくて残念そうな表情も見せていましたが、切り貼りやコピーなどの作業を通じてしおり作りに関わることができ満足そうでした。

(イ) 当日の様子

グループごとに行動したことで移動が円滑になりました。また、青年たちが掲げた旗も目立ち、見失うこともありませんでした。三菱みなとみらい技術館では、トラム(電車)の体験コーナーや、シーメカニマル(自分で作った深海生物メカがスクリーンに登場する)を作るコーナーなどで楽しむ青年がいた一方で、どう過ごしたらいいのか分からない青年もいて、全員が楽しむことの難しさがあらためて浮き彫りになりました。滞在時間を一時間に設定していましたが、ちょうど一時間くらいで見学終了しました。

当日は、「全日本高等学校吹奏楽大会 In 横浜プロムナードコンサート」が開催されていて、これを聴きに行きました。「宇宙戦艦ヤマト」や「銀河鉄道999」など青年たちにも馴染みのある曲が演奏され、身を乗り出して演奏を楽しんでいました。

続いて、横浜市が障がい者の就労の場の確保を目的として設置を進めている「ふれあいショップ」でランチ。事前に予約をしていたため混乱はなく、それぞれが希望の品を選ぶことが出来ました。昼食の前後には臨港パークでフリスビーをしたり、海を背景に写真を撮ってノンビリ過ごし、レジャー気分を満喫しました。

そのあとはランドマークタワーの展望台を目指しました。Nkさんは有料の望遠鏡で景色を楽しみ、他の青年たちは土産物を買ったり、椅子に座って遠景を望みながら休憩するなど、おもしろい時間を過ごしました。

最終目的地、桜木町駅では帰りの切符をそれぞれが購入していました。普段やりなれていない様子で、券売機のタッチパネルの操作で苦労している青年が多く、個別の支援が必要でした。

ケ オリジナルソング「ひまわりみたいあなたへ」

まず「ひまわり」の言葉を使って「あいうえお作文」を作ってもらいました。文章にするのが難しいようでしたが、「り」は「りんご」、「ま」は「まつり」、「わ」は「わっしょい」、「り」は「りんご」といった単語が出てきました。ここから展開をして「ひまわりの花咲く頃、祭りに行った二人で、わっしょいわっしょい疲れたけれど、りんご食べれば元気」とし、さらに応援担当者が歌詞の続きを書きメロディーをつけてオリジナルソングが完成しました。青年たちが歌うには難しい曲調でしたが、この応援担当者のギター演奏に引き込まれ、心に響く歌として浸透しました。

コ 成果発表会

11月15日にシナリオ第一稿を作成し、日頃の活動の場面を切り取って描写しながらまとめていきました。成果発表会の四か月前ですが、早

くからから練習に取り組むことで流れを青年たちにも担当者にも覚えてもらうことができました。また練習の中で出てきた青年たちの言葉や動きを台本へフィードバックし、改訂を繰り返しながら作り込んでいきました。青年と担当者に行方をわかりやすくするため、また観客にも流れを理解してもらうために歌詞やあらすじをプロジェクターで投影しました。

4 担当者の役割、集団活動の素材としての音楽

担当者の役割については、担当者会で話し合い、次のとおり確認をしました。

ア 青年たちの自発的な意志を引き出し、その意思を活動として広げるために創意工夫すること、

イ 青年の表情や行動を担当者の思い込みで判断せず、じっくり向き合って真意をくみ取る。

ウ 学級活動で青年たちが望んでいる仲間作りや学びの要求を、少しでも活かすことができるよう支援する。

なお、集団活動の素材として音楽をみたとき、次のような長所があることをあらためて確認しました。

ア 歌を歌い楽器を演奏すること自体が自己表現の喜びとなるだけでなく、その楽しさを合唱や合奏という形で仲間と共有し、それを見てくれる観客がいることで社会的な評価を伴うものにもなる。

イ 季節に合わせた歌を選ぶことで季節感を演出し生活実感に即した活動を組みやすい。また歌の内容に即した大道具小道具（例えば「赤とんぼ」の歌に取り組むとき、赤とんぼのモビールの工作にも取り組む）など活動の幅を広げ、多様な参加の仕方が生まれる。

ウ 毎回の活動の集大成が成果発表会になることで、一年間の振り返りとともに達成感を得ることができる。

5 今後の課題と展望

今後の課題と展望として次の点が挙げられます。

- ア ひとり一人が主役になれるような場面を作る。
- イ 言葉が出にくい青年たちに声かけをし、言葉を出す機会を増やす。
- ウ ひとり一人の思いから湧き上がるリズムや歌や言葉を集団としての活動に取り入れていく。
- エ 一年を通して取り組む素材と、その都度柔軟に青年たちの意思をくみ取る素材との2本立てで活動を行うことにより、活動に幅を持たせる。
- オ 今年度のオリジナルソング作りの経験を活かし、さらに青年たちの言葉を引き出す取組を目指す。

ひまわりみたいなあなたへ

♩=90

Original Key=F

2016 by 土曜学級 ひまわりサンバ班

(A.G.5=Capo.5 Play C)

F (C) C (G) Am (Em) Dm (Am) Gm (Dm) C7 (G7)

ひまわりのはな さくころ まつりにいった ふたりで

5 B \flat (F) F (C) E \flat (Bflat) C (G7)

わーっ しょい わーっ しょい つかれたけれど

9 B \flat (F) Am (Em) Dm (Am) Gm (Dm) G7 (D7) C (G) (Gsus4) (G) Csus4 C

リンゴを たべれば げんきがでるー ウー

14 F (C) C (G) Dm (Am) C (G)

ひまわりみたいなー あなたがすきだよーとーぼく

18 B \flat (F) F (C) Gm (Dm) C (G)

はー いえな があった けど ぼくは きみがすき

22 F (C) C (G) Dm (Am) C (G)

ひまわりのよう なー あなたがすきだよーとーつ

26 B \flat (F) F (C) Dm (Am) F (C)

たえたい このこえで つたえたい このきもち ○○

30 B \flat (F) F (C) B \flat (F) F (C)

○さん ありがとう ○○ ○○さん おつかれ なっ

34 B \flat (F) F (C) B \flat (F) F (C)

の おもいで この じかんを たの

38 Gm7 (Dm7) C (G) Fsus4 (Csus4) F (C)

しく のこした い

土曜学級 レインボーウルトラスポーツ班

活動の流れ

6月11日	開級式
6月25日	午前 班名決め、係り決め、年間活動の話し合い 午後 ペったんダーツ、ボックスゴルフ、キックベース
7月9日	午前 調理（冷やし中華、パフェ） 午後 話し合い
7月23日	午前 喫茶けやきで食事 午後 芹が谷公園でキックベース
9月10日	午前 なないろ祭り、スシローで食事 午後 話し合い
9月24日	午前 外食 午後 ボウリング
10月8日	午前 カレースパゲッティづくり 午後 大道芸観覧、新しいスポーツ
10月29日	午前 オブジェづくり 午後 替え歌づくり
11月12日	みなとみらい日帰り旅行
11月26日	午前 替え歌づくり 午後 合宿の思い出
12月10日	クリスマス会 午前 とり大根づくり 午後 ビンゴ大会
1月7日	午前 初詣 午後 新年会
1月21日	午前 名札づくり、話し合い 午後 スポーツ作成、成果発表会の練習、他己紹介
2月4日	午前 豆まきの準備 午後 成果発表会の練習
2月18日	午前 台本の読み合わせ 午後 リハーサル
3月4日	成果発表会

1 班の特徴と活動のねらい

男性10名、女性2名で構成され、スポーツと体を動かすことが好きな集団です。また、班として非常にまとまりがよく、仲が良いという特徴もあります。活動の中では、スポーツと健康を考えるとともに、新しいスポーツを考えるなど、チャレンジすることを目的としました。

2 活動の評価

(1) 素材

①話し合い

言葉で意見を出すことが難しい青年もいるため、意見を出せる青年の意見を、担当者がホワイトボードに書き、どちらがいいか選択してもらいながら全体の意見をまとめていた。

班長を決めるときに落選したものの、班全体の運営に参加したい思いが強い青年のために班長補佐が作られた。また、後期から活発に意見を出す青年もいた。

②調理

年間で調理は3回あり、健康や季節に合った調理活動を行った。

・冷やし中華とパフェ

何を作るかの話し合いではカレーかスパゲッティという強い要望があったが、暑い時期だったためか、大多数が冷やし中華という意見にまとまった。ヘルシーをテーマに掲げ鶏肉をゆでて使用した。当初は積極的に参加する青年と、そうでない青年に分かれたが、声掛けをして分担したことで各々調理に参加することができた。冷やし中華は好評でほとんどの青年が残さずに食べていた。

・カレースパゲッティ

2回目は以前の要望に応える形でカレースパゲッティを作った。みじん切りが難しいことが考えられたため、手動のみじん切り器を使用した。これによって全員がみじん切りをすることができた。カレースパゲッティは好評で、後日、青年が自宅でレシピをみながら調理したとの話を聞いた。

・とり大根

3回目は12月、クリスマスの時期だったためチキン料理を作る話になったが、健康を意識して和風料理の「とり大根」に決まった。ポリウムアップするためにウインナーやわかめスープを追加、全員が調理活動に参加でき、こちらも好評だった。

③外出

年間で外出は4回だったが、スポーツや健康を意識していたため、積極的な外出活動を行えた。

・喫茶けやき、芹が谷公園

芹が谷公園内の版画美術館の中にある「喫茶けやき」に勤めている青年の要望で職場見学を兼ねて訪問した。青年の「職場への想い」を強く感じた。けやきの店員さんが青年の名前、値段、メニューの書かれたカードを作ってくれたので、注文から食事まで非常にスムーズに行うことができた。

その後、芹が谷公園ではキックベースに挑戦して全員が楽しむことができた。ただ、相手が蹴ったボールを取って守ることや、味方がボールを蹴ったら目的地に走るといった流れは難しいように感じられた。

・なないろ祭り、回転寿司

この日は調理の予定だったが、ほかの班と調理活動が重なったので活動を変更して、作業所のないろがやっている「なないろ祭り」へ外出した。祭りでは好きなものを食べたり、出し物を見たりと全員が楽しんだ。

昼食は回転寿司。行く前に当日予約ができたので非常にスムーズに食事を終えることができた。11皿も食べる青年がいるなど、非常に好評であった。お寿司が食べられない青年はなないろ祭りに残り、屋台の食事を食べた。

急な決定だったのでバスでの移動や食事が不安だったが、移動の際の声掛け等を気を付けたので、最後まで事故なく外出活動を終えることができた。

・ボウリング

お昼は日高屋とすき家と富士そばと、各自好きな場所に分かれて

食べに行った。当日希望を聞いて行先を決定したため予約することができなかったが、担当者同士でうまく分担し、食事ができた。ボウリングではハイテンションな青年が多数おり、非常に好評だった。1ゲームのみだったので、センターに帰った後も話し合いの時間を作ることができた。

・初詣、新年会

話し合いで以前から決まっていたため、予定通り近くの神社まで初詣に行った。帰りにターミナルプラザで獅子舞いを見ることができた。神社まで歩くことで健康をテーマにした活動になった。午後の新年会では青年が所属する「和太鼓さらり」がステージを披露。太鼓体験では全員が参加していた。

④ スポーツ

昨年度作ったべったんダーツ、ボックスゴルフを今年度も活動に取り入れたら青年には非常に好評だった。芹が谷公園ではキックベイスも挑戦、青年全員で盛りあがったが、ルールは難しかった。前期は日帰り旅行の話し合いや外出活動が多く、新しいスポーツの話し合いがあまり取れていなかった。後期ではパラリンピックで行われていた「ボッチャ」をベースに全員でスポーツを考え、「ボッチャ」、「パターゴルフ」、昨年度考えた「ボックスゴルフ」の要素をミックスして「ボッチャゴルフ」というスポーツが完成した。ルールはボックスにボールを狙って投げ入れるもので、中央のボックスと周りのボックスでは得点が異なるというもの。ボックスゴルフと違い、一投で得点が分かるため単純でわかりやすく、好評だった。

⑤ 朝と帰りのつどい

つどい当番の際に、別の班の青年からつどいの内容（歌をうたわないこと）と時間（短いこと）について、大きな声でクレームを出された。この問題は班から班長会に提起され、つどいの内容は当番の班に一任することが再度確認され、該当の青年へ班長がその事を伝えた。この一件は事態を改善するための手段や、話をもつていく順番を皆で考える機会になった。

⑥ 替え歌づくり

昨年度の成果発表会での歌の発表を見た青年の要望から実現した。まずベースの曲を決めるためCDを自由に持ち寄り、話し合ったところ、全員が知っていて分かりやすい名曲「世界に一つだけの花」に決定した。歌詞を作る際には、「明るく楽しい曲にしよう」というテーマで意見・言葉を出し合い、文字数に合わせて歌詞を出てきた言葉に入れ替えていった。

これを繰り返し「世界に一つだけの花のマーチ」が完成した。マーチという単語は替え歌づくりを要望した青年の発案で、自身の名前に似た響きに強い思い入れがあつての希望だった。

⑦ どんぐりと木のオブジェづくり

担当者がどんぐりや木の枝などを持ってきて、季節に合わせたオブジェを製作した。青年には好評であったが、事前に担当者間で打ち合わせを行わずに進めたため、担当者間で困惑する場面が生まれ

⑧ 日帰り旅行、日帰り旅行の振り返り

日帰り旅行の行先を決めるため事前に担当者が下見し、話し合いで情報提供を行った。青年の意見は「カップヌードルミュージアム」「コスモワールド」が大多数だったが「カップヌードルミュージアム」は他の班の兼ね合いや料金の問題で断念した。

お昼は横浜市健康福祉総合センター内の「H×3」へ行った。料理の内容は良かったが、店が混んでおり料理の提供に予想以上に時間がかかったため、その後の活動時間が短くなってしまった。そのためコスモワールドには担当者が早めに移動して、観覧車などアトラクションに乗る誘導を行ったため、みんなが目的のものに乗ることができて満足した様子だった。振り返りは後日、思い出を形に残すためイラストや日記を描くことで行った。

⑨ クリスマス会

青年から調理をしたいという要望が多く、担当者からクリスマス会を出すために鶏肉料理を提案、健康をテーマに「とり大根」を作った。

食事のあとのクリスマス会ではプレゼント交換の一環としてビンゴ大会を行った。読み上げられた声や番号を把握するのが難しい青年もいたため、担当者が確認しながら行った。イベントとして非常に楽しんでいる様子だった。

⑩ 節分

青年の要望をもとに実施。恵方巻きは当初調理する予定だったが、調理工程が大変なため、完成したものを買うことになった。豆まきでは部屋が汚れないように、5〜6粒の小分けのパックに入った豆を購入してパックのまま投げるようにした。鬼役の職員や担当者に力いっぱいぶつけていた。

⑪ 成果発表会

成果発表会では発表したいものをまず話し合ったところ「替え歌」、「スポーツ」が挙がった。今年度の活動を紹介するために写真のスライド上映も取り入れた。話し合い中に青年達から「ピコ太郎」、「ピアノ」が意見として出てきたので採用。さらに一人ひとりに確実にスポットがあたるように全員のキャッチフレーズを考える「他己紹介」を行った。

台本作成は担当者が行ったが、話し合いで何度も何度も修正が入り発表会当日によりやく完成した。

当日の舞台発表は「他己紹介」から入ったが、一人一人にスポットがあたるのでわかりやすいと好評だった。続いてスライドと同時に「ピコ太郎」、「ピアノ」の順で発表した。ピアノを担当した青年は家での練習の成果か、圧巻の出来だった。スポーツは「ボッチャゴルフ」にチームで挑戦、結果は引き分けだったが、会場からは大きな拍手があった。最後に「替え歌」を披露。替え歌を作った青年自身の歌声で班全体を引っ張っていた。

(2) 集団・仲間

集団、仲間として大きなトラブルはなく、特に良好な関係を築く青年達もいた。仲の良い男女の青年がくつきすぎることがないよう、担当者も目を配るなど気を付けた。言葉での表現が難しい青年が多かったが、コミュニケーションに長けた青年がうまく引っ張っていた。

6 課題と展望

意思表示がうまくできない青年が退屈しないように、上手に巻き込めるような話し合いが必要である。また、前期は青年が希望した外出などスポーツ中心のイベントを行ったため、新しいスポーツを考える話し合いの時間が圧迫された。

また、話し合いのときに少数意見を取り上げ、意見を活性化させることも担当者に求められる支援方法として必要なことと考えた。

土曜学級 ゆめとイベント班

活動の流れ

6月11日	開級式、班分け後に話し合い・今年度はどんな活動をするか
6月25日	話し合い：去年の活動の振り返り、班名、係決め、今年の計画、つどいについて、名札をつくること
7月9日	雨天のため外出中止となり話し合い：班名、名札づくり、次回の活動について
7月23日	調理活動：のり巻き作り（まぐろ、サーモン、キュウリ、卵焼きなど） 話し合い：つどいについて、日帰り旅行について、20周年事業について
9月10日	話し合い：夏休みに何をしたか、秋の日帰り旅行、センターまつりでうたう歌
9月24日	話し合い：次回の外出（NHK見学）について、昼食は何にするか、秋の日帰り旅行の確認、冬のイベント開催日検討
10月8日	雨天のためNHK見学中止になり話し合いに。東急ストアに弁当を買いに行き、1/7に決まった冬のイベント（新年会）の内容を検討。
10月29日	話し合い：次回の日帰り旅行の日程、新年会の内容
11月12日	日帰り旅行（横浜みなとみらい） 横浜線で町田駅から桜木町駅へ。三菱みなとみらい技術館を見学して周辺散策、JICAのレストランで昼食。桜木町駅へ戻り学級全体で記念撮影を行い、桜木町駅から横浜線で町田駅へ。
11月26日	話し合い：新年会のタイムテーブル、ゲーム内容とルール検討、福袋交換のやり方、当日の係り決め
12月10日	話し合い：来年度の秋のイベントをどうするか、新年会でのゲーム内容とルール検討のつづき、ゲームに使うものを各班に制作依頼
1月7日	午前中は新年のあいさつと新年会の準備、午後は土曜学級全体で新年会を行い、司会やはじめのことば、ルール説明などを班の青年が担当。
1月21日	話し合い：新年会の振り返り、成果発表会について
2月4日	話し合い：今年わかそよについて、成果発表会について 何人かに分かれて、それぞれ希望の店で弁当の買い出し。
2月18日	成果発表会の準備：めくりやクス玉の製作、発表会の配役決め
3月4日	成果発表会

1 班の特徴と活動のねらい

班員の6割が前年度の楽しいイベント班を経験していた青年たちがメンバーになりました。女性3名、男性7名で、つどいの司会や学級でのイベントを企画することを通して、互いの主張を聞き、その後折り合いをつけることを経験し、学級全体のことを考え、集団の自治力を高めることを目的としました。

2 活動の評価

(1) 集団づくり

班長を中心に集団が形成されています。皆で話し合い中に部屋の外へ出ていくメンバーがいると、その様子は誰かが見ている「○○さん出て行ったよ」と、見つけた人が集団に注意を促すようになっており、これは、お互いが気にかけていることの表れだと考えています。

班を結成した当初は、出欠確認の時には名簿の名前を読み上げるだけでしたが、2月になると体制表を見ながらメンバーの名前を読み上げると同時に、相手の顔も見ながら出席していることを確認していました。

成果発表会では、全員の人形を作り、各人形を使って別の青年が演じる方法で、一年間の取り組みを発表しました。自分から演じる相手を希望した青年もいて、自分以外の青年の活動参加状況を見事に捉えていました。

(2) 他の班との連携

① つどいについて

昨年度は楽しいイベント班が朝と帰りのつどいを担当していたので、今年度もゆめとイベント班がつどいを担当するのか意見を出しました。

メンバーの意見は、マンネリ化している、盛り上がらない、関係ない話をしている人が多い、他人事のようだ・・マイナス面をとらえた意見が多数でした。

視点をかえて「どうすれば状況を変えられるか」について皆で考えた結果、つどいに関係ない話をしている人たちや、歌わない人

たちも自分たちの班がつどいを担当すれば、積極的にかわるのではないかとつどいに関われば、周りが盛り上がっていないことに気付くのではないかとそれを全ての班が経験すれば、学級全体として盛り上がるのではないかと。そんな願いを込めて、つどいの当番制を班長会へ提案しました。

② イベント準備の協力を依頼

10月末日、新年会の準備について話し合いを続けていましたが本番までの活動日を数えると、この班だけで十分な検討と準備を終えることが厳しい見通しとわかりました。

担当者から他の班に協力をお願いするのはどうかと、集団に投げかけてみました。それを受けて青年たちからは、どの班に何をお願いしたいと、具体的な協力依頼の内容が次々と提案されました。

その中から、神社作りとカルタづくりを「ひまわりサンバ班」と「はなよりだんご班」に協力依頼することが決まり、班長がそれぞれの班の活動場所へ行き協力を要請したところ引き受けてもらえませんでした。時間をかけて学級全体のイベントを考え、話し合い、開催する過程では、青年にも担当者にも色々な気づきと発見がありました。

(3) 班活動と生活の結びつき

班活動を行っていくうちに、学級の外でも青年たちが連絡を取って合っているという話を聞く機会が増えました。活動日の無い休日に、班長を含めた何人かの青年たちが、休日に働いている青年の職場を訪れてイベントの下打ち合わせをしたこともありました。

班の中には青年学級以外の活動で休みの多い青年もいます。でも学級日に出席したときには、以前欠席した日にどんな活動をしたか話してくれるので、他の青年たちは毎回興味深く聞いています。

また、活動の中で青年の生活が垣間見えることもあります。新年会で取り組んだゴロ卓球を提案した青年は、以前に職場の仲間とゴロ卓球をした事がとても楽しかったから、ぜひ土曜学級の仲間ともゴロ卓球をやりたい、と説明したことにより採用されました。

3 自治活動と文化創造

(1) つどいを盛り上げる」と

①参加者をふやすために

つどいの盛り上げ方について話し合いを行い、自分たちなりに分析も出来たと思います。その中で「つどいは活動へのスイッチ」との青年の発言から、もつとつどいを盛り上げるための施策を出し合いました。前述の「つどいの司会進行を各班で持ち回る」という案も参加意識を高めることを期待しての取り組みです。この意見の背景には、「つどいを最前列から見ている青年の目には「参加している人が少ない」と映っているようです。

②学級ソングを覚える

学級ソングをキレイに録音したCDを作りたいと希望がありました。学級歴の長い青年から「たくさん学級ソングがあるのに歌っていない」という意見や、学級歴の短い青年からも、10年以上前に作られた古い学級ソングを「若葉とそよかぜのコンサート」などで聞いたことがあるので、「知らない歌が沢山ある」、「覚えたい」、「学級以外の人にも聞いて欲しい」という意見が出ました。残念ながら今期の活動でCD作りは実現しませんが、学級ソングに対する青年たちの思いがわかった一面でした。

③伴奏のカラオケを作る

最近の土曜学級にはピアノの得意な担当者がいないため、伴奏なしで学級ソングを歌っていました。ピアノの得意な担当者の獲得や他学級の担当者の応援を打診していましたが、なかなか実現できずに時間が過ぎていました。10月ごろに既に引退した担当者の協力を得て、人気のある学級ソングなど10曲ほどのピアノ伴奏を収録したCDをつくることができました。以来、伴奏なしで学級ソングを歌うことは減りました。

そして後期の活動日には、公民館学級からギターの得意な担当者が応援に来てくれたので、生演奏で学級ソングを歌う機会が増えま

した。伴奏が無かった時のつどいに比べて、改めて雰囲気が変わり、楽器や伴奏の力を実感しました。

(2) 新年会の企画

新年会で取り上げた「パンとり競争」、「ゴロ卓球」、「カルタとり」は、いずれもオリジナルのルールを考えて実施したゲームです。

「パンとり競争」は、いわゆる「パン食い競争」のアレンジです。ルールを話し合っているとき、パン食い競争の問題点を青年たちが指摘しました。

口でパンの獲得を試みて失敗したときに、別のパンにチャレンジするかもしれない。別の青年が口をつけたパンを後のレース参加者が取ることになるので、それは嫌だという意見。また、パンが紐などに吊るされて高いところにあると、車いすの青年が届かない可能性がある。あるいは口をつかう事が難しい青年には楽しむことが出来ないなどです。

どうしたらみんなで楽しめるゲームになるか話し合った結果、テーブルの上に置いたパンを手で取る「パンとり競争」が生まれました。これなら失敗しているいろいろなパンに口を付けることができず、車いすの人、口をつかう事が難しい青年が楽しむことができる。ではという考えです。一見、ただパンをテーブルの上に置いただけに見えますが、そこにたどり着くまでには青年たちの色々な思いがありました。

つづけて「ゴロ卓球」、「カルタとり」もルールを変更しました。ゴロ卓球は元のルールに加えて、手の不自由な人のためにラケットを持つことなく素手のままでもオツケーにしました。カルタとりはカルタを見やすいようにA3サイズ大きな厚紙で作りました。車いすの人でも取れるように、床には置かず、ホルルの壁面に両面テープで貼りつけました。どれも「みんなで楽しめるゲーム」にするためのアイデアが詰まったものでした。

新年会後の振り返りでは、「学級の中だけのルールがあるから楽しめました。社会のルールを持つてきても難しい」という意見や、「ルールやゲームの内容を考えることが大変だった、来年だけ休み

たい」という意見もありました。何かを企画して取り組めるまで詳細を決めていく過程は、少々苦しかったようです。

4・課題と今後の展望

活動最終日、昨年度、今年度と続けて班の中心的存在であった青年から、疲れた、少し休みたい、外出したいという感想が出てきました。イベントを企画するという班の性格上、活動の主体は話し合いや議論を重ねることが大半でした。特にイベントの直前は一日の活動の全てが話し合いで終わることもありました。担当者の中では、青年の自治活動の支援と理解はしているつもりでしたが、各回の活動では先を急いだ感が否めません。そのことが、各青年にとつてはきつく感じられたのだと思います。

15年度は楽しいイベント班、16年度はゆめとイベント班、2年続けてイベント企画の班を土曜学級で作ったねらいは、イベント班で経験したことを、次の年に他の班へ展開して、学級全体の自治能力を高める所にあつたと思います。しかし土曜学級の班構成をみると、青年の8割が昨年と同じような活動を行う班に所属している状況でした。

次年度も、イベントを担当する班を編成するかは、学級全体の意見を踏まえて考える必要があると思います。

土曜学級 はなよりだんご班

活動の流れ

活 動 日	活 動 内 容
6月11日	開級式 やりたい事の話し合い
6月25日	班名決め 係決め 昼の外食 自己紹介 摸造紙に短冊の貼り付け
7月9日	デザート作り ペットボトル・ボウリング
7月23日	調理（サンドイッチ・焼きとうもろこし）をして食事 絵手紙を描く
9月10日	日帰り旅行の話し合い ハロウweenのお面作り おやつにドーナツを食べる
9月24日	打ち合わせ（日帰り旅行・次回の活動） シャロームにパンを買いに行く
10月8日	次回の活動の話し合い ハロウweenのお菓子の箱作り
10月29日	スイート・パンプキン うどん・すいとん作り お菓子は箱に入れてお土産に
11月12日	日帰り旅行（横浜） カップヌードルミュージアムを見学 シーバスに乗る
11月26日	日帰り旅行の感想 新年会のかるた作り クリスマス会の話し合い
12月10日	カラオケ大会で大いに歌う 好きなお弁当を買って食べる クリスマス会
1月7日	話し合い かるた作り 新年会（パン食い競争・卓球・かるた取り）
1月21日	成果発表会で何をするかの話し合い 節分のお面作り お面につけて写真撮影
2月4日	成果発表会の練習 名札作り 節分の豆まき おやつに豆を食べる
2月18日	成果発表会の練習（歌の練習・紙飛行機作り・全体練習） バレンタインでチョコを食べる
3月4日	成果発表会のリハーサルと本番 お菓子とジュースで乾杯 打ち上げ

1 班の特徴と活動のねらい

20代から40代の青年で構成されており、物作りの好きな青年や、食べる事が好きな青年が集まりました。

食に関する事（見る事、食べる事、学ぶ事）をテーマに、一年間取り組みました。それぞれの季節イベント（七夕・ハロウィン・節分）にあわせて物作りを行い、体験して楽しみました。

2 活動の評価

(1) 話し合い

① 班名

青年達からいろいろな意見が出て、多数決で「はなより男子（だんご）」に決まったが、他の人から男子よりひらがなが良いといったので「はなよりだんご班」に決まりました。

② 班長・係決め

班長は二人が立候補し、そのまま二人が班長になりました。係は、まずどんな係が必要か意見を出し合い、係りを決めました。

(2) 調理活動

① ゼリー作り

夏のデザートという事で、みんなの意見でコーヒー・ゼリーとフルーツ・ゼリーを作りました。フルーツは、缶詰のみかんと桃を入れました。コーヒーゼリーのほうが、みんなに人気がありました。冷やす時間が足りなかったためか、うまく固まりませんでした。

② サンドイッチと焼きとうもろこし作り

みんなの意見で、サンドイッチの具を決め、材料の卵、ハム、きゅうり、チーズ等を買ってきました。それぞれの具を切り、皿に並べ、バイキング形式で、自分の好きな具を選んでパンに挟んで、オリジナルのサンドイッチを作って食べました。その後、季節のじやがいもと、とうもろこしを焼いて食べました。

お祭りで買う焼きとうもろこしを思い出して季節を感じたように、皆に評判がよかったです。

③ すいとんとスイート・パンプキン作り

希望の多かったうどんの調理の際、手打ちうどん作りという意見も出ましたが、作るのに時間がかかり、難しい事もあり、手軽に出るゆで麺と、すいとんに変更しました。

それぞれ、小麦粉に水を加えて混ぜ、まるめてすいとんを作り、茹でたうどんにいれ、それに青年達のリクエストの具（天ぷら・わかめ・ねぎ・ゆで卵）を入れました。またハロウィンにあわせて、かぼちゃをゆがいて、スイート・パンプキンを作りました。これを前回作ったお菓子入れに入れて、家にお土産として持ち帰りました。

(3) 物作り

① 短冊作り

それぞれ短冊に、青年達が一年間どんな活動をしたいか、願い事は何か、などを書いて、絵の上手な青年の描いた笹の葉の絵の大きな模造紙に貼りました。短冊を貼った模造紙は、帰りの集いで発表しました。それぞれ希望の活動を書いて、今後の活動の参考にしました。（歌を歌いたい、散歩に行きたい、ホットケーキを作りたい、たこ焼きを作りたい）など。

② ペットボトル・ボウリングのピン作り

大小のペットボトルに、いろいろな色で絵を描きました。きらきらきれいな色に仕上がりが、みんな自分で描いたピンを並べ、ボウリングを楽しみました。

③ 絵手紙作り

いろいろな葉っぱの裏表に色をつけ、摸造紙に貼り付けました。いろいろな葉脈で形が出来、面白い絵が出来ました。完成した摸造紙は、帰りの集いで発表しました。

④ お面作り（ハロウィン・節分）

10月のハロウィンに向け、かぼちゃのお面を作りました。好きなかぼちゃの絵を切り抜いて画用紙に貼り、目と鼻と口に穴を開け、耳のところに輪ゴムを付け、エールや飾りをつけてオリジナルのお面を作りました。また節分の時にも鬼の絵を描いてお面を作り、豆まきのときに使いました。

⑤ お菓子入れ作り

牛乳パックを使い、色紙やシールを貼ったり、絵なども描いて、オリジナルのお菓子入れを作りました。スイート・パンプキンを中心に、お土産に持って帰りました。

⑥ ネームプレート作り

学級全体の取り組みとして、ネームプレート作りを行いました。それぞれのアンケート結果別に、名前を書いたり班名を書いたり、また団子の絵など、好きな絵を描いて、オリジナルのネームプレートを作りました。

⑦ かるた作り

ゆめとイベント班からの依頼で、新年会用の大型かるた作りをしました。ゆめとイベント班からかるたの絵柄のコピーが渡され、それに思い思いの色を塗り、台紙に貼り付けて完成させました。

（4）その他の活動

① カラオケ

クリスマス会に何をしたいか意見を聞いたら、カラオケの希望が多かったので、皆で近くのカラオケに行きました。最初はクリスマスソングを歌いました。あわてんぼうのサンタクロース、ジングルベル、きよしこの夜など。その後、自分たちの好きな歌を歌いました。アニメソング、Jポップ、AKBなど。普段はあまり言葉の出ない青年が、体を揺らしたり、ハミングしたり、とても楽しそうにしていました。青年達の普段の活動とは違う面を見せてくれました。評判の良かったAKBの「365日の紙飛行機」は、成果発表会で皆で歌って発表しました。

② 日帰り旅行（横浜）

話し合いの時間を多く設け、意見を出し合った結果、カップヌードル・ミュージアムの見学と、シーバスに乗りたいという希望が多く、その2箇所を中心に回るようになりました。

カップヌードル・ミュージアム

混んでいると予想されたため、予約を早めにとったので、時間どおりにオリジナルのカップヌードル作りが出来ました。容器に好きな絵を描き、好きな具を入れて、自分のオリジナルのカップヌードルが出来て、皆満足していました。後日、皆に聞いてみると、持ち帰ったカップヌードルは早めに食べてしまった青年が多かったよう

です。一番人気があり、成果発表会でも披露しました。

昼食（JICA）の食堂

事前に下見をして混雑の無い時間を選んでいたので、比較的人も少なく、スムーズに食事を終えることができました。天気が良かったので、海もよく見えて、きれいな景色を眺めながらの昼食でした。

シーバスと桜木町駅

赤レンガ倉庫前でシーバスの乗船時間まで待つ間、目の前に豪華客船の飛鳥Ⅱが停泊しており、その雄大な姿を見る事が出来ました。みんな写真を撮っていました。時間になり、シーバスに乗って山下公園までの間、みんなで海からの横浜の景色を楽しみました。

山下公園到着後、元町中華街駅まで歩き、そこから馬車道駅まで地下鉄に乗り、桜木町駅まで徒歩で向かいました。その行程では、青年達の歩く速度がまちまちだったので、先頭と後ろが離れてしまい、途中で、何度か先頭が立ち止まり時間調整をしました。

③ 成果発表会

発表順が最初だったため、集中力が切れずに良かったです。料理の発表の場面で、リハーサルでは一人ずつ一行程を演ずる予定でしたが、舞台上での移動に時間がかかり、わかり難くなるため、一人が一つの料理を担当してわかりやすくしました。

カップヌードルの絵を描くシーンでは、いつもは手本無しに絵を描く青年が、緊張のためか、ネームプレートに描いてあった絵を見ながらでしたが上手に描きました。カラオケである青年が歌ったのを聞いて、皆が気に入った「365日の紙飛行機」をみんなで歌い、同時に皆で作った紙飛行機を、ステージの上で一斉に飛ばしました。最後の自己紹介では、スポットライトをあてた青年の写真スクリーンにも写す事で、ひとり一人が注目されるようにしました。

・参考資料「成果発表会の台本」

これから、はなよりだんご班の料理教室を始めます。

ハロウィンにぴったりのスイート・パンプキンを紹介します。まず、かぼちゃを小さく切って、やわらかくなるまで煮ます。柔らかくなったらその中に、生クリーム、マーガリン、砂糖を入れて混ぜます。それをビニール袋にいれ、こねこねします。ビニール袋の端を少し切り、そこから少しずつこねこねしたかぼちゃをアルミのカップに入れます。その上に卵黄とみりんを混ぜたものを塗ります。そうすると、出来上がりにてかりが出ます。オーブンで10分、180度で焼きます。あっという間に出来上がりです。次はすいとんを作ります。

小麦粉1キロにぬるま湯500cc程度をいれ、かき混ぜ、団子のように丸めます。それをお湯にくぐらせ、昆布や鰹節でだしを取っただし汁に入れます。具材として野菜や肉を入れます。とても簡単に出来ます。素朴な味です。

すいとんの歴史は長く、第二次世界大戦のころ、食料の不足した時代に、主食の代わりに食べたそうです。そのころは野菜や肉が入る事は無く、サツマイモの葉やつるを入れていたそうです。この二つの料理は、はなよりだんご班で作った料理です。とても簡単に出来ます。皆さんも作ってみてください。はなよりだんご班は、食べる事が好きな青年が集まりました。日帰り旅行でも、みんなの一番印象が強かったのが、カップヌードル・ミュージアムです。58年に安藤百福さんが、一日平均4時間しか寝ないで一年間研究を続け、お湯があれば家庭ですぐに食べられる、ラーメン「チキンラーメン」を作りました。その後カップヌードルも発明しました。食べる事が大好きな私たちですが、食べ物の大切さをとても感じたカップヌードル・ミュージアムの見学でした。

最後にみんなで行ったカラオケで一番人気だったAKB48の「365日の紙飛行機」を歌います。途中でみんなの自己紹介、最後に

みんなで紙飛行機を飛ばして幕を閉じる。

3 担当者の役割

電話をかけ、出欠を確認します。青年の言葉に耳を傾け、引き出します。ニュースを作成しに、担当者で話し合い、青年の様子を家族に伝えます。活動を振り返って、次回の活動の見通しを立てます。青年達の要求に答えられるように、担当者で話し合い、活動に繋がるように、話し合いを行います。

4 今後の課題と展望

はつきりと要求を聞き取る事が難しい青年も多いため、担当者と家族との連携を図り、青年の様子や希望、その他対応を把握するよう努めました。各自、作品を作ると青年同士のつながりが深いため、みんなの興味のある素材を提供し、全員で作り上げる活動を模索しました。

活動に支障のある行動をする青年がいたので、家族とも相談して色々な対応をしましたが解決には至りませんでした。今後の課題です。





第2章 自治運営

1 班長会

(1) 班長会とは

班の代表者である班長、副班長が各班の意見を持ち寄って、学級全体に関わることについて話し合う場です。20代から50代のまでの幅広い年齢層の青年が集まりました。昨年同様、成果発表会以外の土曜学級全体のイベント企画・運営を行うゆめとイベント班ができたため、班長会では、活動の反省会を行うのが主な活動になりました。

(2) 討議内容

- 6月25日 自己紹介、ゆめとイベント班からの提案(つどいを各班持ち回りで行うこと)、今年度の予定確認
- 7月9日 日帰り旅行の下見について、20周年記念イベントについて
- 7月23日 名札を作るかどうかの話し合い、日帰り旅行の下見に行く人の確認
- 9月10日 日帰り旅行の下見の報告、センターまつりで歌う曲の決定、つどいについて(担当の班に任せる・口出ししないことの確認)
- 9月24日 名札についての話し合い、20周年記念イベントについて
- 10月8日 名札のアンケートについて、20周年記念イベントについて
- 10月29日 20周年記念イベントについて
- 11月26日 来年度、日帰り旅行か合宿どちらかにするかについて、20周年記念イベントについて

12月11日 来年度、日帰り旅行か合宿どちらかにするか決定、20周年記念イベントについて、名札のアンケート結果報告

1月7日 成果発表会について(何をするか、決めることは何か、の確認)※16時30分以降は20周年記念イベント実行委員会を開催

1月23日 成果発表会の発表順決定、招待状の内容について※16時30分以降は20周年記念イベント実行委員会を開催

2月4日 成果発表会の各班テーマの報告、招待状の作成、20周年記念式典の進め方について(次回、班長会と有志で16時30分から打ち合わせを行うことを決定)

2月18日 成果発表会の役割分担、歌う曲の決定、成果発表会で班長会を行うかどうかについて

3月4日 成果発表会の反省と1年間の振り返り

(3) 新たな取り組みと評価・今後の展望

①ゆめとイベント班からの提案より、朝と帰りのつどいの司会を各班が順番に行うのはどうかと提案がありました。つどいを盛り上げるにはどうしたらいいか話し合い、みんなの参加意識を高めるための提案とのことでした。班長全員が賛成してつどいの順番制がきまりました。これは自治活動としての大きな成果でした。

②来年度(17年度)の秋のイベントは日帰り旅行か、宿泊合宿かを初めて班長会で決定しました。今までは青年全員にアンケート用紙を送付し、希望の多数決で決めていましたが、今年度は各班からの意見を元に班長会の話し合いで決定しました。土曜学級にとって大きな決断を班長会で行いました。

その後、班長会で旅行の下見を実施。交通機関の確認、トイレやエレベータの有無などバリアフリー対応についての事前確認を行いました。班長会で下見に行くようになって今年で3年目になりました。今後も継続してくつもりです。

③ 来年度の土曜学級 20 周年に向けて記念イベントを開催するか話し合いが始まりました。昨年から引き続きイベント班が結成されているので、班長会でイベントに関する話し合い時間が減ったので、その分 20 周年記念イベントについての話し合いを増やすことができました。しかし新しい企画の取り組みには今までの経験が生かせないせいも、いつもの日帰り旅行や新年会と時の話し合いと違って、班長たちも言葉が少なくなり、積極的な意見が出ない場面も多かったように感じます。職員や担当者からの話しやすい雰囲気づくりや、会議の進め方の工夫が必要でした。

④ 班長になるメンバーが固定化してきました。班が変わっても、班長になる人は変わらないことが多いです。また立候補して班長になったはずなのに班長会でまったく発言しない青年がいます。学級での班長会の役割について、来年度は初回の班長会で確認を行い、「参加」ではなく「運営」するという意識を作れるようにしたいと考えています。

第3章 考察

1 土曜学級の概要

97年度より、第2・第4土曜日に町田第二小学校の開放教室を利用して土曜学級がスタートしました。

土曜学級は開級当初30名という規模の集団でスタートしましたが、30名で一つの集団として活動するには、自治活動の視点から見て規模が大き過ぎ、活動が行いにくいという点から3グループに分けることにしました。

また、新たな学級ということで、活動に対する要求をお互いに出し合うことから活動が始まり、そこからひとつの活動をつくっていききました。

素材を定めたコース制の良いところは、同じ要求を持った青年での集団が作りやすい点です。公民館学級、ひかり学級に続く3番目となる土曜学級では、新たな取り組みとしてコース制ではなく、あらかじめ素材を定めないで活動の中で出される青年の様々な要求を取り上げていく班活動の形態を取り入れました。

4年目の01年度には青年が47人となり、班の規模が大きくなったことにより3班から4班に再編成することになりました。また02年度からはアンケートから抽出した活動の要素を開級式に提示し、希望の活動ごとに班を構成するというように、コース制に近いグループづくりに取り組んでいます。青年の人数も05年度には60名となり、この人数では4班体制で活動しにくい規模になったために、5班体制にして活動を行うこととなりました。しかし、この数年は担当者会に出席できる担当者の減少が続き、15年度からは4班体制での活動になっていきます。

今年度は学級生51人で活動が始まりました。昨年度に引き続き4班体制で活動を行うことになりました。活動は6月の開級式から2月の成果発表会まで（8月は除く）、毎月原則第2・第4土曜日に行

われました。タイムテーブルは、以下のとおりです。

午前	9時20分	会場準備、担当者打ち合わせ、送迎
	10時00分	朝のつどい
	10時30分	班活動
		(昼食)
午後	3時30分	帰りのつどい
	4時00分	班長会

規模の拡大に伴い、開級当初から利用してきた町田第二小学校は活動場所として利用できなくなったため、03年度から生涯学習センター（まちだ中央公民館）を利用しています。今年度の主な班活動は、プレイルーム、音楽室、美術工芸室、調理実習室、ホール、学習室を使用して行いました。

2 今年度行われた行事について

(1) 日帰り旅行

土曜学級では、04年度まで都内にいくつかあった「青年の家」を使って合宿を行っていましたが、全て閉鎖してしまつたため、05年度から公民館学級やひかり学級と同じく大地沢青少年センターで合宿を行っていました。

しかし、13年度にひかり学級が合宿の代わりにバスハイクを行ったことをうけて、14年度はアンケートと話し合いの結果、土曜学級も合宿の代わりに江ノ島への日帰り旅行を行いました。

初めての日帰り旅行を終えて、青年からは楽しかったという意見が多く、合宿に比べて多くの青年が参加できた反面、活動する時間が短いこと、そして各班ばらばらの活動のため、学級全体で活動する時間が取れなかったことなど問題点もありました。このため、14年度中に再度アンケートを取り話し合いを行った結果、15年度は合

宿、16年度は日帰り旅行を行うことに決まりました。昨年中に行き先をみなどみらい方面にすること自体は班長会を中心とした話し合いで決めていたため、今年度は最初から「日帰り旅行で何を行うか」に焦点を当てて話し合う事ができました。

旅行当日の11月12日は天候に恵まれ、快晴のなか各班は目的地に合わせたそれぞれの集合時間で横浜に出発しました。目的地は「三菱みなどみらい技術館」、「カップヌードルミュージアム」、「山下公園」、「コスモワールド」などです。昼食場所も車いすが入れる場所などかなど各班が事前に調べて決めた場所に行きました。見学や体験を終え、午後に桜木町駅に全班集合して記念撮影をして生涯学習センターに帰りました。

(2) 新年会

1月7日、新年最初の活動日の午後、ホールで新年会を行いました。内容は、太鼓団体「きらり」を呼んで太鼓演奏と体験、プレゼント交換、パン取り競争、カルタ、ゴロ卓球でした。これらはゆめとイベント班が10月ごろから話し合いを行って企画しました。いずれのゲームも、青年たちみんなが楽しめるようにルールのアレンジがしてあり、みんな楽しんでゲームに参加できました。とくにホールの壁面全てを使ったカルタは、終盤になると、青年たちが走り回ってカルタを取りに行く熱中した姿をみるのが出来ました。

プレゼント交換の方法も新年会に合わせたアレンジがしてありました。神社に見立てた手作りの鳥居を作り、そこにお参りと願い事を言ったらプレゼントが貰えるというものでした。いずれの企画も大成功で終わりました。

昨年から新年会は班長会ではなくイベント担当の班が企画をしています。班長会の短い時間では企画できないような、凝ったイベントを創りあげて皆を楽しませています。反面、ゆめとイベント班は新年会当日の午前中まで打ち合わせを続けているなど、負担も大き

かったようで振り返りでは楽しかったという意見の中にルール決めが大変だったという意見も出ていました。

(3) 成果発表会

1年間の成果の発表の場として成果発表会があります。午前中は各クラスハールを行い、午後からホールで発表会が行われ、各班20分の発表をしました。

ひまわりサンバ班は手作りのお神輿を使った劇を発表しました。お神輿を盛り上げるための発声練習から合唱に繋げる劇中では、公民館学級の担当者に協力を依頼してできた「ひまわりみたいなあなただけ」を歌いました。最後にマツケンサンバの替え歌である「ひまわりサンバ」を、ひまわりの花を付けたバトンを全員で持ちながら歌いました。

レインボーウルトラスポーツ班は今年度の活動の紹介と青年ひとりひとりのキャッチフレーズを別の青年が紹介する他己紹介からスタート。活動のなかで作ったスポーツ「ボッチャゴルフ」を披露、最後に替え歌「世界に一つだけの花のマーチ」を全員で歌いました。

ゆめとイベント班は人形劇で一年の活動を発表しました。それぞれの青年の写真を団扇に貼り付けて、それを写真の青年とは別の青年が持つて台詞や動きで演じました。また成果発表会の閉会式で使うクス玉も作りました。みんなの投げた玉で見事クス玉が割れて会場を盛り上げました。

はなよりだんご班は今年の活動で行った調理活動をレシピと共に紹介しました。スイートパンキンと、すいとんを紹介しました。続けて日帰り旅行で行ったカップヌードルミュージアムで学んだカップヌードルの製造方法を絵と共に説明しました。最後に「365日の紙飛行機」を歌って、客席に向かって紙飛行機を飛ばして終了しました。

1年間行ってきた活動内容を成果発表会という舞台上で発表し、多

くの人に見てもらおうことで満足感や達成感を味わうことができる成果発表会になりました。

3 担当者の役割

(1) 青年への電話かけを行います

学級日前の木曜日に各班で電話かけを行い、出欠席の確認を行います。また、言葉で自分の意思を表現するのが難しい青年については、家族に自宅での様子や休み期間中（正月、夏休み）の様子などの確認を行います。青年のトイレ・食事介助方法や服薬状況、体調などを確認することができ、保護者と担当者で情報の共有を行える貴重な時間です。

(2) 外出などで行く場所の下見を行います

青年学級の活動では外出することがあり、活動日に外出する前に下見をする必要があります。エレベーターやトイレの場所の確認、電車の乗継の時間・移動時間の確認、昼食場所の確認などが挙げられます。当日と同じような時間帯ルートで下見を行うことで、担当者が頭の中で当日の流れをイメージすることができ、予測されるトラブルなどを予防することやスムーズに活動を行うことができます。今年度は楽しいイベント班のメンバーと一緒に合宿の下見も行いました。

(3) 青年に寄りそう

活動中、青年がどんな表情で参加をしていたか、どんな発言をしていたか、どんな様子だったのか、など青年に寄り添い、しっかりと見て聴いて感じる必要があります。言葉でのコミュニケーションが難しい青年も多いなか、青年の思いを知り、どのようにしたらそ

の思いを皆へ伝えることができるか、どのようにしたら学級の活動などにつながるかを一緒に考えなければいけません。

青年学級は青年が主体です。活動の準備などで青年が携われることは一緒に行い、活動を一緒に作り上げていくことが大事です。

(4) 担当者同士で情報の共有

担当者会で活動日の様子や青年の様子、次回の活動がスムーズに行えるよう準備や情報の共有をします。

(5) 当日担当者との情報の共有

当日担当者は木曜日の担当者会に参加せず、当日の活動日のみ参加します。

どのような活動を行うか、タイムテーブルなど事前にメールや電話などで伝え、班の担当者が同じ方向を向き、活動を行うことが必要です。また、活動後に当日の青年の様子などを担当者間で話し合い、共有することも必要になります。

(6) ニュースづくり

ニュースは、当日の活動の内容を青年と振り返るとともに、家族にも活動の様子を伝えるものです。また、特定の担当者が書くのではなく、班の担当者が持ち回りで書くことや編集作業などニュースづくりは協力して行うことが必要です。ニュースを作ることで、青年のことをよりしっかりと見る力、考える力が付きます。

4 課題と展望

(1) 朝と帰りのつどいの当番制への変更

昨年から学級のイベントを担当する班が生まれたことにより、朝と帰りのつどいもその班が司会を行っていました。司会が固定化されることで運営がスムーズになる反面、司会以外の班の青年たちのつどいへの参加の意思が薄くなってきたように見えました。青年たち自身も危機感を感じていたようで、班長会につどいの司会を各班での当番制に変更するという提案が班長会上がってきました。この提案に班長会が賛同しつどいの当番制が始まりました。青年たちが自分たちの意見を元に話し合って自分たちの活動を変えたことは自治活動としての大きな成果でした。

(2) 20周年に向けて

97年度にスタートした土曜学級は、次の17年度で20周年を迎えます。まずは班長会を中心に、何か記念イベントをやるかどうかを話し合いました。10周年のときにはイベントをやっているとの意見から、20周年の際にもイベントをやるうということに決まりました。

その後も話し合いは続き、歌や発表の時間を取るため学級日とは別日におこなうこと、二部制にして一部は成果発表会のような式典にして学級外の人を呼んで土曜学級の今までを紹介すること、二部はパーティー形式にして土曜学級の青年と父母、担当者、お世話になった方、年や担当者のOBを呼ぶことなど、概要が決まりました。

イベントの規模が大きくなるにつれて班長会だけで全て決っていくのは難しいと意見が出たため実行委員会をつくることになりました。「土曜学級20周年記念イベント実行委員会」として青年、担当者、父母会役員、職員が集まりました。今後も班長会と実行委員会とで土曜学級の20周年を盛大にお祝いできるよう、来年度も引き続き話し合いを進めていきます。

第5部 地域への広がり

第1章 サークル活動

1 おなべの会

(1) おなべの会の歩み

おなべの会は、80年度の青年学級の成人班で調理を経験したメンバーからの「青年学級以外でも調理をしたい」「調理を続けたい」という思いがきっかけになって81年にはじまった料理サークルです。ほぼ月に1回のペースで青年学級のない日曜日を中心に生涯学習センター6階の調理実習室で活動しています。

(2) 活動の流れ

午前中の活動を例にとると、9時30分に6階に集まり受付で利用料(午前中は1500円、午後1700円)を支払い、鍵を受け取り調理実習室に向かいます。部屋に入るとまず、メンバーの一人が当日の会費300円を集めます。別のメンバーが「これからおなべの会を始めます」とあいさつ。そして、ホワイトボードにその日のメニューそして必要な食材や調味料をみんな確認しながら書き出していきます。メンバーの一人がボードを見ながら熱心に手帳にメモを取ります。

次に買い物に行く人と残って食器や調理用具の準備や、飯を炊く人に分かれます。買い物は、生涯学習センター隣の東急デパート地下のスーパーへ、10時の開店に合わせて出かけています。

店ではあらかじめ必要なものをメモした青年が、買う予定のものを一つひとつ丹念にチェックしていきます。予算オーバーしないようにと「こっちはほうが安い」などの言葉が飛び交うこともあります。レジで会計を済ませると、手分けして食材運びます。買い物帰りには東急1階のカルディアコーヒー試飲コーナーに立ち寄るのがひそかな楽しみになっています。

調理実習室に戻るとまず食材を、洗う、切る、を手分けして行っていきます。ごはんが炊き上がるまでの間など作業が一段落した際には、再びホワイトボードに向かって、今後の活動日の確認と、作りたいものを出し合い、書き出していきます。メニューを提案した人は、なぜこのメニューを作りたいか他のメンバーに説明したりします。最終的なメニューの絞り込みは挙手による多数決で決めていきます。

(3) 2016年度の活動

4月16日(土)	PM	中華そば
5月15日(日)	PM	クレープ
6月26日(日)	AM	生姜焼き
7月31日(日)	AM	冷やし中華
8月27日(土)	PM	ひかりセンター祭り出店、ジャガイモのバター焼き
9月22日(月・祝)	AM	すいとん
10月23日(日)		生涯学習センターまつり出店、ホットケーキ、コーヒーなど
11月13日(日)	PM	ホットドッグ
12月24日(土)	PM	シチュー
1月28日(土)	PM	スパゲッティ
2月12日(日)	PM	お茶会
3月19日(日)	AM	豆ご飯、豆腐ハンバーグ

(4) 行事への参加

行事は、8月後半のセンター祭り(ひかり療育園まつり)、10月後半の生涯学習センターまつりでの模擬店出店を継続しています。

ひかり療育園のお祭りは、80年ごろから25年ほど参加。忠生中央町内会や福祉団体などいくつかの団体も出店しており、それぞれの団体が、ほぼ決まったメ

ニューを出していて、それらと重ならないことや調理のしやすさから、毎回「じゃがバター」をメニューに加えています。

生涯学習センターまつりについては、旧中央公民館の時代の85年ごろから30年ほど参加しています。ホットケーキ、コーヒーをメニューに加えていますが、今回のまつりでは、震災ボランティア団体の「NPOたまりば」の方が震災食づくりで参加、同じ部屋でコラボという形になり、当日は交流しながらの活動となりました。まつり実行委員会への参加や準備、片付けの負担が年々大きくなっていますが現在かかっているスタッフ間で、手分けして参加することができました。

(5) 活動予定のはがき送付

04年1月の活動から活動日前に案内はがきをメンバー一人ひとりに送っています。郵送料は、サークルでたくわえたお金をあてていますが、案内はがきが送られることで前もって予定が確認できるので、その日の活動に見通しを持って参加できるようにになりました。

現在、30通近く発送していますが、はがき代が、1回に1500円ちかくかかることから、2、3か月の予定をまとめてお知らせするようにしています。

(6) 会場の確保と日程

このところ日曜日の公民館学級とひかり学級が別々の予定になることがあり、日曜日だけでは、学級日と重なってしまったり、抽選に外れてしまい、月1回の活動が確保できないことがあり、土曜日も含め活動日としています。また、活動場所を変える行き先がわからなくなってしまうたり、送迎が必要になる人もいることから基本的に生涯学習センター調理実習室が確保できる日を活動日としています。



生涯学習センターまつりの様子

今年度の2月は抽選漏れで調理実習室を借りることができなかったので、学習室1を使ってお茶菓子で新年会を行い、近況報告や、抱負を語るなど話し合い中心の活動をしました。

(7) メンバーの入れ替わり

現在案内はがきを24名のメンバーに出していて、うち15〜20名が参加しています。

メンバー構成については、「青年学級」か「とびたつ会」に入っているメンバーが大半を占め、20年以上参加している人が中心です。

ほかに青年学級元担当者が4名、ロコミで加わった人、最近青年学級に入り介助者と参加している方、また青年学級への入級が抽選で外れた方などが新たに加わっています。

一方、ここ数年グループホームでの生活を始める人も増え、そこでの行事や人とのつながりができることから、おなべの会を卒業していく人もいます。

(8) 活動の経費の確保

メンバーが参加しやすいよう35年前のサークル発足当初より参加費(材料費)300円を維持してきましたが、実際にはこれまでもメニューによっては材料費をまかないきれない場合があります。またさらに、10年前からののがき代のほか、5年前から導入された公民館施設有料化により毎回少なくとも1500円の施設利用料がかかることになり、その分がほぼ毎回赤字となっています。

こうした問題に対して、なかなか議論を深めることはできていませんが、スタッフやメンバーからのがきやコーヒー粉、お茶などのカンパにより運営経費の確保を図っている現状にあります。

2 とびたつ会

とびたつ会は、04年にはじまった本人活動の会です。当時、青年学級の体制と規模の問題で、新人学級生が入れなかったことから、青年学級に入ることを希望する若い人が青年学級に入れるように青年学級を卒業すること、その頃各地で出来はじめていた本人活動を町田でもはじめようということ、有志が集まりつくった会です。

(1) 参加者の推移

04年度	8人(女性2・男性6)
05年度	12人(女性3・男性9)
06年度	15人(女性5・男性10) 学級外2
07年度	24人(女性8・男性16) 学級外7
08年度	25人(女性8・男性17) 学級外7
09年度	31人(女性12・男性19) 学級外11
10年度	32人(女性12・男性20) 学級外11
11年度	33人(女性12・男性17) 学級外11
12年度	29人(女性12・男性17) 学級生11 新人2人
13年度	30人(女性11・男性19) 学級外13 新人2人
14年度	27人(女性9・男性18) 学級外10 新人1人
15年度	23人(女性8・男性15) 学級外9 新人1人
16年度	23人(女性8・男性15) 学級外9

(2) 活動日

毎月第2、第4日曜日 午前10時〜16時

会場は、主にコメント会館5階を有料で借用しています。

(3) 運営の体制

- ① 運営会議を毎週木曜日 夜6時～9時 生涯学習センターの学習室で開催し、青年学級と活動内容を共有しています。
- ② 支援者は女性6人（内2人は青年学級担当者）男性4人です。活動によっては青年学級の担当者に支援をお願いして取り組みました。

(4) 16年度のおもな活動一覧

- ① きんこんの会参加（4月30日・国学院大学）
- ② グラウス山の会交流ハイキング（5月22日・弘法山）
- ③ 愛のほほえみコンサート（6月12日・ポプリホール鶴川）
- ④ 国立市公民館コンサート&交流会（7月2日・国立市公民館）
- ⑤ 東京の障がい児教育を充実発展させる会コンサート（7月10日・中野区教育会館）
- ⑥ 調理実習・お好み焼き（7月24日・公民館）
- ⑦ 津久井やまゆり園事件の話（8月7日）
- ⑧ 社会教育研究全国集会・分科会参加（8月28日・明治大学）
- ⑨ 生活創造空間にしコンサート（9月24日・西横浜）
- ⑩ 生涯学習センターまつり参加（10月23日）
- ⑪ 第18回若葉とそよ風のハーモニー実行委員会（10月13日～3月 毎月1回）
- ⑫ 津久井やまゆり園事件学習会（11月27日・新井田恵子さん）
- ⑬ 麻生市民館学習会（1月8日・麻生市民館）

(5) 活動の特徴

- ① メンバーについて

15年度から変化はありませんでした。車イスを利用するメンバーがヘルパーさんと参加するようになり、にぎやかにになりました。食事やトイレの介助もその分、支援者の関わりが少なくなりました。関りの面で一長一短はありものの、参加の仕方の新たな展開と感じています。

② 発表の場

16年度は、発表の回数に恵まれた年でした。4月①きんこんの会への参加を皮切りに、6月には鶴川でおこなわれた③愛のほほえみコンサート。7月には④国立市公民館での発表と交流会、⑤中野区での東京の障がい児教育を充実発展させる会との交流。8月の⑧社会教育研究全国集会分科会。9月は前年度に引き続き⑨生活創造空間にしにお声がけいただき発表しました。

さらに、1月には、川崎市麻生市民館での市民エンパワーメント研修「障がい者とともに私たちにできること」で青年学級について報告したのちとびたつ会の紹介を歌を交えて行ないました。

③ 学習会

7月26日津久井やまゆり園でおきた凄惨な事件については、8月にも話題となりましたが、大きく取り上げることはありませんでした。その後、6月に交流した東京の障がい児教育を充実発展させる会の永田三枝子さんから、事件についての当事者の声を寄稿してもらいたいの依頼。さらに、10月25日に開かれた第1回若葉とそよ風のハーモニー実行委員会で、公民館学級の多くの人からコンサートでやまゆり園事件について取り上げたいという意見が出されました。そこで、まずはこの事件が何であったか、何であるのかをみんなで共有しようと学習会を企画しました。話題提供は、永田さんにも相談して、全国障害者問題研究会・出版部の新井田恵子さんをお願いしました。学習会は、この事件についてのアンケ

ト用紙3枚に答える形で、参加者の意見を聞き取り、みんなで理解し、共有していくという方法で行なわれました。この学習会が若葉とそよ風のハーモニーの活動につながりました。

④歌

歌は「ガッツ&ビート」と「ピッカピカのこころ」の2曲ができました。「ガッツ&ビート」は、生活創造空間にしを構成する作業所ガッツ・ビートにちなんで、メンバーの平井さんと稲村さんの生活の様子を基に作りました。「ピッカピカのこころ」は若葉とそよ風のハーモニーを準備する中で津久井やまゆり園事件のことが話されましたが、それを意識しながらいのちの輝きについて表現しようと考えだされた歌です。

(6) 今後の展望

とびたつ会の当初の目的である「青年学級を卒業して、新人を青年学級に入れていよう」ということに関していえば、そのような人が昨年度からいないので達成されていません。そこから、とびたつ会の存在が青年学級の中で理解されていないのではないかとこの危惧を感じます。なんらかの方法で青年学級と交流してとびたつ会をアピールし、とびたつ会の活動の魅力を発信していきたいと思えます。



生活創造空間にライブ (西横浜)

とびたつ会活動経過(2016年4月～2017年3月)

	月日	内容	参加人数	場所
1	4月10日	2016年の活動について	17人	コメット会館
2	4月24日	4月30日のきんこんの会での発表について	19人	コメット会館
3	4月30日	きんこんの会に参加 発表「わたしぬきにきめないで」「生きてゆこう」	13人	国学院大学たまプラーザキャンパス
4	5月8日	愛のほほえみコンサート準備 池田公生さんと歌の練習	18人	コメット会館
5	5月22日	グラウス山の会交流ハイキング・弘法山	18人	弘法山
6	6月12日	愛のほほえみコンサートin町田	21人	ポプリホール
7	6月26日	コンサート振り返り。国立・中野コンサート準備	18人	コメット会館
8	7月2日	国立市公民館でのコンサート&交流会	19人	国立市公民館
9	7月10日	東京の障がい児教育を充実発展させる会コンサート	15人	中野教育センター
10	7月24日	調理実習・お好み焼き	18人	公民館
11	8月7日	やまゆり園事件の話、コンサートの映像、社会教育研究集会準備	18人	コメット会館
12	8月28日	社会教育研究全国集会 分科会参加	18人	明治大学
13	9月11日	生活創造空間にしコンサート準備	14人	公民館
14	9月24日	生活創造空間にしコンサート	20人	生活創造空間にし
15	10月9日	生活創造空間にしコンサート振り返り 映像を見る	18人	コメット会館
16	10月23日	午前＝公民館まつり、午後＝若そよ実行委員会①	25人	コメット会館
17	11月13日	コンサート振り返り、芹が谷公園散策	17人	コメット会館
18	11月27日	午後＝若そよ実行委員会②「やまゆり園事件」学習会	30人	コメット会館
19	12月11日	午後＝若そよ実行委員会③	28人	コメット会館
20	12月25日	麻生市民館学習会準備 望年会	19人	コメット会館
21	1月8日	麻生市民館学習会 発表	20人	麻生市民館
22	1月22日	麻生市民館での発表の振りかえり 若そよについて	24人	コメット会館
23	1月29日	午後 若葉とそよ風のハーモニー実行委員会	12人	コメット会館
24	2月12日	若そよコンサート準備 午後：実行委員会	24人	コメット会館
25	2月26日	若そよコンサート準備 午後：ひかり学級成果発表会	26人	コメット会館
26	3月12日	若そよコンサート準備 午後：実行委員会	26人	コメット会館
27	3月26日	若そよコンサート準備 午後：実行委員会	20人	コメット会館
		合計	535人	

ガッツ & ビート

2016年8月
とびだっ会

F C F C
 ビートを きざんで (ハイハイハイ) ビートを きざんで (ハイハイハイ)
 F C G G
 ビートを きざんで (ハイハイハイ) ビートを きざんで (ハイハイハイ)
 C Am Dm7 G
 わたしの 8 時 10 分 じゃいあさ いえをでて
 C Am F G C
 うちゅう まえで きついし いつもの ハイタツチ
 C Am F C
 しごとちも きついし やすみも ばらばら
 F C G G
 サツカ しごとに いきなさに いろ
 F C Am Dm7 G
 とまたちさせって おちまけろ
 やさしいしせつちやう わらって る
 C Am Dm7 G
 カラオケうたって きもちすっきり
 C Am G
 しごとに おおきな たいのしい まいにち
 だけど おおきな いてる

ガッツ & ビート

C Am F G C
 やすりか け おおで にくら せい かけ てる
 F C F G C
 ビートを きざんで (ハイハイハイ) ビートを きざんで (ハイハイハイ)
 F C G G
 ビートを きざんで (ハイハイハイ) ビートを きざんで (ハイハイハイ)
 F C F G C
 こえを あわせて (ハイハイハイ) こえを あわせて (ハイハイハイ)
 F C G G
 こえを あわせて (ハイハイハイ) こえを あわせて (ハイハイハイ)
 G
 ビートを きざんで (ハイハイハイ) ビートを きざんで (ハイハイハイ)

ピッカピカのころ

2017年3月 どびたつ会
橋村 宏美・青木 礼

Musical score for 'ピッカピカのころ' (Pikka-pika no Korokoro). The score is written in treble clef with a key signature of one flat (B-flat major). It consists of seven staves of music with lyrics in Japanese. The lyrics are:
 ピッカピッカのころは キッタキッタのわたしのもと
 ピッカピッカのころが キッタキッタのあしたをつく
 る いのちがやか そう(いま)
 世界にたえよう(いま) わたしはいきて いる(いま)
 みんなとてをっ ないで ゆめをかたりあ おう(あすへ)

ピッカピカのころ

Musical score for 'ピッカピカのころ' (Pikka-pika no Korokoro). The score is written in treble clef with a key signature of one flat (B-flat major). It consists of seven staves of music with lyrics in Japanese. The lyrics are:
 きぼうをみいだそう(あすへ) 平和をうたおう(あすへ)
 つばさをひろげよう きのうのつらさ
 のりこえて わたしはわたし
 をいきてゆくう みんなのえがお
 をしんじて えわたしはわたし
 をいきてゆく

3 スケッチ・ルーム

(1) 会の成り立ちとメンバー構成

絵の好きな人たちが集まり、12年4月から活動を始めました。現在メンバーは、土曜学級の学級生2名、青年学級担当者、元担当者、その他で会員は10名です。生涯学習センターまつりで障がい者青年学級を見学し、学級に入りたいと申し込んだHhさん一家に職員がスケッチ・ルームを紹介したことからHhさんと父親が活動に参加しています。

(2) 活動の様子

活動日は、就労している人が参加できる、土曜、日曜、祝日の午前か午後の半日で行い、16年度は20回の活動日で延86人の参加でした。

そのうち、文学館で15回、生涯学習センターで3回、それぞれ好きな絵を描いています。芹が谷公園で写生もしました。Ssさんは粘土で愛犬を作りました。

(3) 活動のながれ

15年度の活動

- ・4、5月には若葉とそよ風のハーモニーコンサートへの出演のため、Ssさんは練習に2回参加、本番と打ち上げにも参加しました。
- ・4月27日から5月10日まで、図書館にて「スケッチ・ルーム」展を開催、作品を展示しました。
- ・7月からは絵画制作を14回行いました。

16年度の活動

- ・10月23日から25日まで、「生涯学習センターまつり」に参加し、絵などを展示しました。
- ・大江戸博物館へ「大妖怪展」を見学し、ちゃんこ鍋を食べました。
- ・上野の美術館で「クラナツハ展」と「世界遺産ラスコー展」を見学し、文化会館で食事をしました。
- ・「生涯学習センターまつり」に参加し、作品を展示しました。

(4) 会の運営

会場費として一人1回100円を徴収しています。また、町田市社会福祉協議会の地域福祉活動費が来年度よりもらえることになりました。

(5) その他

活動を初めて5年が経ちましたが、なかなかメンバーは増えません。しかし、SsさんHhさんの他、80代の男性も加わり、のんびりと活動しています。Hhさんは生涯学習センターまつりで、絵を展示されるのを楽しみにしています。

第2章 第18回若葉とそよ風のハーモニー

17年5月27日(土)に町田市民ホールにて、第18回若葉とそよ風のハーモニーコンサートを開催しました。今回のコンサートは総勢200人が参加しました。

特徴的な取り組みとしては、第2部の合唱を、とびたつ会、土曜学級、ひかり学級、公民館学級、フィナーレの5部構成にしましたことでした。

実行委員会

16年10月27日の生涯学習センターまつりの午後、コメット会館で第1回実行委員会を開催しました。各学級から28人が参加し、取り組みたい内容について意見を申しあげました。特に、7月26日に起きた津久井やまゆり園での事件について思っていること感じたことを発表したいという意見が多く出されました。そこで、学習会を開催してこの事件がどういうものであったかを考えることにしました。11月27日に全国障害者問題研究会出版部の新井田恵子さんをゲストに迎え、コメット会館で開催しました。まず、事件の様子を聞き、用意されたアンケートに答える形で、参加者が感じたことを話しあい、理解を深めました。

実行委員会は、学習会も含め6回行いました。その中で全体のテーマや実行委員長を決めました。テーマ案は、いくつか提案されましたが、最終的に「この私できゆく大切ないのち、きずつけないで」に決まりました。実行委員長に立候補したのは、公民館学級の阿部健太郎さん、とびたつ会の佐藤和洋さんで、選挙の結果果佐藤和洋さんに決まりました。

演出・照明・伴奏など

演出は第17回に引き続き青木礼さんをお願いしました。ミュージカルの台本も担当いただきました。照明は、タケスタジオ。伴奏は、なかなか決まらず、ピアノ(奥

居美穂さん)、ドラム(藤村達樹さん)、シンセサイザー(向山恵美さん)というシンプルな構成になりました。

全体練習

結団式は、4月16日 生涯学習センターホールで行いました。その後の全体練習は次のとおりでした。

4月23日(日) 町田福祉園

4月30日(日) 町田福祉園

5月7日(日) 町田福祉園

5月14日(日) 町田福祉園

5月21日(日) 生涯学習センター

ミュージカル練習

ミュージカル練習は、コメット会館で、3月から始めました。内容を当初は津久井やまゆり園事件に関連したものを考えましたが難しく、みんなで生活のようすなど経験など話し合いながら決めていきました。

台本 (以下、第1部、第2部の台本を掲載します)

第1部ミュージカル「二歩踏み出そう」

第1場 (ダンス)

♪ M1 「ピッカピカのこころ」

第2場

友人「彼女が欲しいなら積極的になれよ。」

♪ M2 「今のままでは今のまま」

友人「じゃあ、合コンに行こう！」

第3場(合コン会場)

コーラス1「自己紹介タイム！」

男1「ぼくの名前は〇〇です。

(自己紹介がつづく)

コーラス2「質問タイム！」

女2「お仕事は？」

男3「紙すきの仕事をしています。

♪M3「ひまわり(1番)」

女4「私はウエイトレス」

♪M4「拍手(1番)」

男5「夢工房で働いています。

♪M5「ガッツ&ビート」

第4場(公園)

♪M6「月明かりの下」

女2「帰り道が一緒ね。

男1「@うん(うなづく)

女2「楽しかったね。

男1「うん。」

女2「月がきれい！」

男1「うん。」

女2「ねえ、ライン交換する？」

男1「うん。(大きな声で)」

女2「でもすごいわね。IT企業で働いているなんて

男1「うん(小さな声で)」。

コーラス「IT企業？IT企業？IT企業？IT企業？」

第5場(職場)

コーラス「チャッ、チャッ、ツッ。チャッ、チャッ、ツッ。(繰り返し)

コーラス「うそをついた。どうしよう？うそをついた。どうしよう？(繰り返し)

同僚「本当のことを言えよ。」

コーラス「彼女にきられる。彼女にきられる。」

同僚「今の仕事、きらいなの？」

男1「(首を横にふる)」

同僚「じゃあ、ぶつかってこいよ！俺だって昔は…。」

♪M7「ぶつかって つながって ひろがって」

第6場(公園)

♪M8「ひまわり」

女2「メールありがとう。」

男1「うん。あー。」

女2「あーっ、お花がキレイ！」

男1「あつ、まつて。」

♪M9「うそをつきました」

女2「正直にいつてくれてありがとう。実は私も23歳じゃなくて、33歳の

コーラス「エーッ！」

♪M10「メドレー」「二歩みだそう」「拍手」「ピッカピカのころ」

第2部(70分)

【とびたつ会】

♪M1「キレイな空」

Fs「みなさん、こんにちは。私たちはとびたつ会です。2004年に青年学級から卒業してつくった会です。今のうたは、「キレイな空」でした。いのちや性について

学習会をひらいて、その時の感想文をもとにつくりました。

Hs 〓 平井秀一です。ゆめ工房で働いています。次のうたはぼくのうたです。ぼくが「ビートをききさんで」とうたったら「ハイ！ハイ！ハイ！」と大きな声で返してください。では練習します。「ビートをききさんで」(お客さん「ハイハイハイ！」)

「ビートをききさんで」(お客さん「ハイハイハイ！」)「ビートをききさんで」(お客さん「ハイハイハイ！」)ありがとうございます。ではうたいます。

♪M2 「ガッツ&ビート」

Sk 〓 僕は紙漉きの仕事をしています。紙漉きの仕事はグループでやっているのですが、ケンカが起ると大変です。僕は今、エイサーの踊りとピアノを楽しんでいます。エイサーはフェスタ町田で踊る新曲に挑戦、ピアノは始めたばかりで、指づかいの練習をしています。グループホームで、世話人さんに助けってもらいながら、少しずつ、一人暮らしをがんばっています。

Ih 〓 未来倶楽部で働き始めてから今年で10年になります。10年間、うまく出来ない事もあり焦りを感じたり、大切にしてきた「とびたつ会」の活動になかなか参加出来ない事にいらだちや苦しさを感じる事もあります。でも辛い時、答えがわからなくなった時を乗り越えてこられたのは仲間が存在があつたからだと思います。私は青年学級に入った頃、人に心を開くことに怖さを感じていました。学級の活動時間の中では、みんなと一緒に歌ったり1つのものを作り上げたりすることを楽しいと感じていましたが、心の中では「ボランティアだから、暖かく優しく接してくれているのではないか」と思っているところがありました。今から思えば、とても失礼な事をしてしまっていたのですが、その頃の私は警戒して壁を作ってしまったところがありました。そんな私の心を溶かしてくれたのは青年学級の皆でした。ある時一人のボランティアさんと活動日以外に遊びに行く機会がありました。その時に青年学級の活動をする中で思っていたことを伝えました。するとその人は「私は好きでもない人とプラ

イベートと一緒に出かけたりしない」と言いました。この言葉が自分を変えるキッカケになりました。その事があつて冷たかった心に暖かい風がふいた気がして、もう少し人を信じてみようと思えました。長い時間がかかりましたが今の私の周りには同じ時間を楽しみ、1つの物を作り上げたり話し合える人達があります。一緒に好きなアイドルの話が出来る。一緒にご飯を食べられる。大好きなデイズニerlandに遊びに行ける。笑顔で同じ時間を過ごせる。そんな仲間がいる。それを当たり前の事だと思ってしまうましたが、自分自身が病気をしたこと、テレビから流れてくる事件のニュースを見たことで、人は一人では生きてはいけないし、当たり前の日常だと思っていた事は幸せな事だと改めて感じました。そして、今、同じ時間を過ごせて辛い時も楽しい時も側にいてくれる人たち、みんなに感謝の気持ちを伝えたいです。

♪M3 「ひまわり」

【土曜学級】

♪M4 「はくしゅ」

In 〓 私たちは土曜学級です。今の歌ができたとき、メンバーの一人が喫茶ケヤキでウェイトレスをしていました。

Ft 〓 彼女、こんなこと言っていましたね

Kh 〓 お客さんがいっぱい来ると頭がパニックになりそうなんです。

In 〓 同じ班のひとが、僕はクリーニングの仕事で一日中立ちっぱなしだから、働く人の大変な気持ちわかるなって言っていましたね。

Kh 〓 こんな話もありましたよ。その人は、生活寮に入って自立に向けて頑張っている話をしていました。給料やお金のことを勉強していたそうですね。

Kt 〓 お小遣い帳をつけているとも言っていましたね。

Ky 〓 曲のタイトルは、なんで拍手なんですか？

In Ⅱメンバーの提案で拍手〜!になったんでしたよね?

Kt Ⅱそして、次の歌は、途中にみみみみ〜んって出てきますよね。あれは、どんな意味があるんですか?

Ft Ⅱ女性メンバーの何気ない「みみみみ〜ん」という言葉が中心になってできた歌なんです。

Kt Ⅱあの頃は、夏でしたね。そういえば、みみみみ〜んって蝉の声みたいで夏っぽいすね。曲のリズムも散歩に丁度良いですね。

Ft Ⅱ軽快なリズムを目指したそうですよ。

Kh Ⅱ歌詞に出てくるピアノカッて、どんな楽器ですか?

Kt Ⅱあれは僕が仕事を変えた時、新しい仕事でもらった給料で念願のピアノを買って、一生けん命練習をした話なんです。

Ut Ⅱ「おーハッピーバンドはみみみみ〜ん」です。聞いて下さい。

♪M5 「オー!ハッピーバンドはみみみみ〜ん」

In Ⅱ今年、土曜学級は20周年を迎えます。8月26日に「祝う会」とパーティーを行います。次の歌は、大地沢合宿でキャンプファイヤーをやった時の歌です。ペンライト振って歌いました。初めてのフォークダンスが楽しかったです。フォークダンスは盛り上がりました。

Kt Ⅱその時は、友達って何かな?て話しましたね。

Ky Ⅱ職場の仲間、学級の仲間かな、ケンカした友達とも仲良くなれたよ。

Kt Ⅱ友達って大切かなあ。

Ft Ⅱでも、僕は一人も好きですよ。

Kh Ⅱそんな話し合いの後、キーボードのチャチャチャというリズムに乗せて出来た曲ですね。

Ut Ⅱ「みんなと拍手」です。聞いて下さい。

♪M6 「みんなとはくしゅ(チャチャチャ)」

【ひかり学級】

(ボールから出ている7本のモールの端を車いす付きスタッフが持ち、ひかりのテーマのイントロにあわせて、車いすメンバーが舞台後方から前方へ移動。歌が始まると同時に、車いす以外のメンバーが下手より歌いながら車いすメンバーの後ろに登場。)

♪M7 「ひかりのテーマ」

Am Ⅱ私たちは「ひかり学級」です。

Tk Ⅱ私達は毎日がんばっています。共働学舎で、朝当番の日は、みんなの準備を手伝っています。仕事では、クッキーを袋につめて、売っています。

Tr Ⅱ朝起きたら、犬にご飯をあげています。仕事でトラックに乗ってダンボールの回収をしています。家では、日記を書いています。

Kn Ⅱ共働学舎で朝6時に起こす人が来るけど、眠いから布団にくるまってます。仕事ではペットボトルのラベルはがしをしています。寒い日は手がかじかんでしまいます。

Kt Ⅱ朝6時に起きて、洗濯をしています。日曜日は掃除機もかけています。デイサービスに行かない日は買い物に行きます。かわいい洋服を買うのが楽しみです。

Am Ⅱ仕事でコーヒード豆の選別をしています。お店の手さげ袋もつくっています。お客さんから「かわいい袋ね」と、ほめられることもあります。みんな、毎日毎日大切に生きています。こんな毎日の様子を歌にしました。聞いてください。

♪M8 「わたしたちのうたをつくっていきたい」

(背景にハートの照明。全員にハートの棒を配る。ハートの棒を振りながら歌う。)

Kh Ⅱかくれた弱いこころ

Ty Ⅱよわいものいじめる

Ni Ⅱ大切ないのち はずつけないで

Mt Ⅱかなしみ のりこえて

Yn Ⅱつらさのりこえて

Wm Ⅱありのままみとめ 明るくいきる

Ht Ⅱみんなで力をあわせて いきていこう

Mt Ⅱハートでふれあつて

全員 Ⅱハートでつながろう

Mt Ⅱハートでふれあつて

全員 Ⅱハートでありがとう

Om Ⅱせーの

全員 Ⅱ人生 すてたもんじゃない

♪M9 「ぼくらの気持ち」

Tr Ⅱ (ホイッスル) ピー・ピ・ピ・ピー

♪M10 「ぼくらの応援歌」

【公民館学級】

(19 個のあかりをもつ)

Ns Ⅱ私たち公民館学級では、昨年起こった、あの津久井やまゆり園の事件について
くり返しみんなで語り合い、考えてきました。大地沢合宿の夜、キャンプファイヤーの時間に、19 個のろうそくに火をともし、亡くなった仲間たちに追悼の祈りをささげました。大地沢から山一つへだてたところにあるやまゆり園が、とても近く感じられました。

Am Ⅱ私はミサンガを編んでいます。私の思いが届くように、心を込めて編んでいきます。やまゆり園に健康コースが訪ねると聞いて、私はミサンガを託しました。

19 人の仲間に、大切な命だったよ、と伝えたいと思います。

Ak Ⅱやまゆり園の事件で私たちが強く感じたのは、怒りの気持ちというより、当た

り前のことさえ理解されていない、ということでした。このコンサートを見ていただいたとおり、私たちにはいろいろな考えや、くらしがあるし、人とのつながりがあります。私たち一人ひとりが、かけがえのない命です。仕事を頑張っていたり、いつでも笑いあえる友達や大切な家族がいます。やまゆりの人たちもきつとそうだったように・・・。そんな「当たり前」だけど、見過ごされてしまった、大切なこと」を歌にしました。これからも私たちは笑顔を大切に生きていきます。聞いてください。たいせつなこと。

♪M11 「たいせつなこと」

(1 番 A メロ「空はく」から、長い布を 3 本垂らし、ミサンガのように編んでいく。編んだミサンガを持って歌う。2 番サビから背景を色とりどりに照明)

Tt Ⅱ私は、次の 2 曲は わたしたちのコースが「永遠のやまゆり」という劇を作る中で生まれた歌です。歌詞もメロディーも自分たちで作ったものです。亡くなった 19 人の方々をおもいながらつくりました。

♪M12 「やまゆりにささげるうた」(白い布を後ろで上げていく。厳かで神聖なイメージ)

♪M13 「永遠のやまゆり」(空をイメージした青い背景。やまゆりの花の絵を投影) (歌が終わって、ひかり学級は上手から、土曜学級、とびたつ会は下手から入場する。車いすの人が先)

Sn Ⅱ今年の 1 月、ずっと一緒に学級で過ごしてきた仲間が、病気で亡くなりました。いつも、はつらつとして、みんなのことを気づかい、引っ張っていく人でした。私たちは、彼女の死をいたみ、命の大切さを身近にまなびました。

Am Ⅱくらしを考えるコースで、命のことを学びました。出生前診断により生まれてくることができない命があることを知りました。私は両親や家族に育てられ、仕事をしたり、青年学級で仲間とたくさんさんのことを経験しています。生まれてこなければできないことです。両親に感謝しています。

♪ M 14 「みんなのいのち」
 ♪ M 15 「このちのこは」

フィナーレ

MC Ⅱいよいよフィナーレです。障害者権利条約のスローガン「私たち抜きに私たちのことをきめないで」を歌にしました。「わたしぬきにきめないで」です。きいてください。

♪ M 15 「わたしぬきにきめないで」

MC Ⅱいよいよ最後の曲になりました。町田に住む被ばく者の神戸美和子さんから聞いたお話を元に作った歌です。「いきてゆうこう」を最後にうたいます。ご来場ありがとうございます。

♪ M 16 「いきてゆうこう」

MC Ⅱありがとうございます。

♪ M 17 「ピッカピカのこころ」(曲のはじまりの前にダンサーズが通路にでて踊る)
 (曲が繰り返し演奏される中、客席をとって、ロビーに移動。両脇に分かれて送り出し)

「メロデータウン」



町田明
 若菜とそよ風のハーモニー
 2017年5月27日(土)
 13:30~15:30 町田市民ホール
主催：町田市民ホール、町田市民ホール運営委員会
 後援：町田市民ホール、町田市民ホール運営委員会
 協賛：町田市民ホール、町田市民ホール運営委員会
 チケット：前売1000円 当日1200円
 申込先：090-8312-4237(受付まで)

いっぽふみだそう

2017年わかそよ

♪ C Dm7 G C

いまのままでは いまのまま せまいせけんは もう ごめん

♪ C Dm7 G F G7 C

いまのままでは いまのまま ひろいせかいに とびだ ぞ

♪ C F G C

いっほ ふみだ そう であ わなければ はじまらない

♪ C F G G7 C

いっほ ふみだ ぞ いろんなひと しりあおう

月明かりの公園で

2017わかそよ

C Am Dm G C Am Dm G
つきあ かりの こうえんに かぐや ひめが まいおりた つき
F G C C7 F G C
が てらす あなた にぼく は こいをし た
C Am Dm G C Am Dm G
ねても さめても おもうのは すてきなあなたの おもかげまた
F G C C7 F G C
あ える日が まちどおいしい あこ が れの ひ と

うそをつきました

Dm G Gdim Dm
う そをつきました きらわれたくなくて
5 Dm G Gdim Dm D E F G
う そをつきました きみが好きだから
10 C Dm G C
まいにちこうじょうで かたぬきさぎょうをしています
14 F C D G7
だいすきなしごとだから きみとほんきで つきあいたいから
19 C Em F G7 C
ありのままの ぼくを み て ーく だ さ い

第6部 学級を支える体制

第1章 担当者会・調整会・学習会

1 担当者会の概要

町田市障がい者青年学級では、学級活動に参加し支援する人を「担当者」と呼んでいます。16年度は公民館学級26名、ひかり学級20名、土曜学級18名、合わせて64名、そこに公民館職員6名が加わり、合計70名が「担当者」として学級活動に参加しました。担当者は（8月と年末年始を除く）毎週木曜日の夜に生涯学習センターに集まり、学級ごとに「担当者会」と呼ばれる会議を行っています。

担当者会では青年の活動を支援し、学級活動を充実したものにするために話し合いが行われています。学級日前の担当者会では、活動内容やそれに向けて準備すべき点などを確認し、学級日後の担当者会では、活動全体や青年一人ひとりの様子を振り返ります。学級日に外出する際には、担当者が事前に下見を行い、車いす用トイレやエレベーターの有無、昼食場所の確認なども行っています。

また、青年がどのようなことを求めているか、その要求の実現に向けてどのような取り組みをしていけば良いか、学級での経験を本人の生活に即したものにしていけるかはどうかという話も話合っています。活動におけるコースや班での話し合いをいかに支援していくかということも担当者会で度々話されている議題のひとつで、自分の言葉で表現することが難しい青年の思いを活動に生かしていくために、家族とコミュニケーションを取り合うことも担当者の重要な役割となっています。そういった学級活動以外の場面での取り組みについても、その内容を担当者会で共有し、「全体で取り組む体制」をつくっています。

(1) 公民館学級

今年度の公民館学級は、担当者20名、当日担当者5名の計25名の支援体制でした。年々、担当者会に参加できる担当者が減少しているのに加え、開始時刻の19時から参加できる担当者は数名と、以前から課題としていた開始時刻の遅れは今年度も変わらずの状況でした。人数が揃い、やっと話し合いを始めてもゆっくりコースで話し合う時間が持たず、活動の振り返りや計画を十分に行うことができませんでした。そのため、普段の活動の振り返りはコースの代表者が活動の様子を話し、全体で共有し、合宿やクリスマス会などのイベントの計画、青年の様子など気付いたことも全体で話し合っていました。学級日に向けては、送迎、コースの体制を確認し、共有しました。また生活環境に大きな変化があった青年もいたので、その都度報告していき

ました。その他、前年度に引き続きメッセージアプリを活用し、担当者会に欠席した担当者への情報共有を行っていきました。会議の議事録や学級日の出欠席の確認、送迎の変更があった際などにも利用され、主事から議事録を発信するだけでなく、担当者間で相互的に活用することができました。

今後の課題としては、限られた時間の中でいかに効率よく、話し合わなければならぬことをもらさず話すかという点において、毎回の議題の精査が不可欠です。定刻から会議が始められるように努力することも必要ですが、活動の振り返りや計画はもとより、行事については見通しをもって議題に挙げ、検討していくことが重要です。

またコースごとに話し合う時間が持ちづらい状況の中では、コースの垣根を越えてサポートし合う体制が必要になります。活動していく中で感じる課題や気になる青年の様子などはその都度共有し、皆で考え見守っていくことが大切です。

最後に送迎や電話連絡、ニュース作成、総括などの役割について、担当者会に参加している担当者に偏ってしまうことが課題として挙げられます。担

当者会に参加できる人も、できない人も「担当者」であることに変わりはありません。「担当者の役割」を今一度確認し、皆で協力し合って活動に取り組むことが求められています。

(2) ひかり学級

今年度のひかり学級は、第1回目の当者会に出席できた担当者は、3名でした。活動が成立するかどうか不安なスタートとなりました。最初の活動日は、職員2名、担当者9名、そして他学級等の応援で、全体で16名で活動が始まりました。徐々に増えてはきましたが、昨年までの様に5コースは厳しいと判断、4コース制をしくことになりました。

職員の担当募集の地道な努力が実って、桜美林大学のボランティア部の学生の参加がはじめとなり、他大学の学生の担当者も増えて、ようやく10月ごろより、各コース複数人で当者会議を開くことが出来るようになりました。年度終わりには、職員、応援等を除き19名の担当者体制でおこなうことが出来ました。後半は、学生から新鮮な意見や提案があり、活気あるものになっていきました。学生は、当者会にも積極的に参加しています。

当者会では、主に各コースの活動の思い起こしや次回の活動予定を全体で確認することを中心に話し合います。思い起こしでは、各コースの1日の流れや当日の青年の様子や発言、気づいたことなどを全体で共有しました。全体で共有することで青年の様子を知ることができ、また、問題点の解決策を話し合ったりして、コース活動での参考として学んだり、より良い活動をつくっていくための担当者間の大切な情報共有の場となりました。次の活動の予定では、当日の担当者体制や、部屋割り、用意する備品、送迎などを詳細に確認していきました。この確認によって当日はスムーズに活動に入ることが出来ました。そして、職員からの連絡事項やニュース作業について、全体で確認、共有していきました。

各コースの担当は、社会人と学生が担当するコースと、学生のみが担当するコースがありました。

当者会に参加できない当日担当者も多く、当者会だけでは十分な振り返りができないので、その日の活動の後、振り返りを行いました。活動終了後の集まりは、経験豊富な当日担当者から、貴重な意見を聞くことができ、コミュニケーションも取りあえる大切な時間になっています。しかし、ひかり療育園の退室時間の制約もあり、十分な話し合いは出来ない状況です。当者会で話された内容や次回の予定などを、当日担当者と情報共有することができませんでした。

当者会は、19時からほぼ閉館までですが、実話し合いは、20時ごろから始める状況でした。特に遠方から参加している担当者は、帰宅時間が夜遅くなります。安全の面からも、なるべく早く終われるように、当者会の進行、内容面での工夫が必要ではないかと思われれます。

(3) 土曜学級

今年度の土曜学級は当日担当者含めると18名という厳しい状況からスタートしました。そのため昨年度に引き続き4班体制が継続しています。幸いにも年度途中に新たな担当者を数名得ることができたため、無事成果発表会まで活動することができましたが、担当者ひとりひとりの負担は増えています。

活動直前の当者会では出欠確認や活動内容、持ち物の連絡のため青年への電話かけを行います。この電話かけは、活動中に言葉で自分の意思を表現するのが難しい青年の自宅での様子や、長期の休み期間（正月、夏休み）の様子などを確認することができ、また家族や青年と信頼関係を築くために重要なものだと考えています。

そのほか学級日前の担当者会では、次回の活動内容を班ごとに発表して送迎や部屋割り、応援者についてなど学級日当日の詳細を決めます。それ以外には生涯学習センターからの報告、青年の様子、連絡事項について全体で話し合いました。

学級日後の担当者会では、学級日当日の活動の振り返り、班長会やつどい委員会の様子を話しました。担当者会の中では、さまざまな話をしていきました。内容によっては一度の担当者会では決まらない時もあります。その時は次週の担当者会に持ち越しをして継続して話し合いました。

ここ数年担当者の入れ替わりが多く、ベテラン担当者が引退したり、当日担当者に異動するなどの変化がありました。担当者会では事務的な確認のほかにも青年との関わり方や学級活動の意義といった活動を行ううえで重要なことが話し合われ、ベテランの担当者からその経験を伝える重要な場所でもあります。新人担当者で、担当者会に出席せず当日担当者になる人もいますが、今後は新しい人にも数回は担当者会に出席してもらってから、当日だけの参加にするかどうか、検討してもらおうよう提案していく必要があります。

また、当日担当者と情報共有が難しい点についても課題となっています。開級式直前や合宿直前、成果発表会直前など、情報共有や話し合いが特に重要になる会議には当日担当者にも出席していただけるように呼びかけを行っています。今後、さらに情報共有と担当者の方向性を合わせることを目的として、学級日当日に振り返りの時間を設ける、また担当者会での議論の内容をニュースに記載し、当日担当者にも知ってもらおうといったことを検討し、より充実した学級活動が行えるように努めていきたいと思えます。

2 学習会

(1) 今年度の開催実績

(はじめに)

① 青年学級担当者の自主学習会として、2017年1月26日、担当者の皆さんと生涯学習センターのご協力を得て、担当者会の後半の時間を使って津久井やまゆり園事件(2016年7月26日)をテーマとして三学級合同の学習会を行いました。資料は当事者の声をまとめたもの。参加者は約40名で、「青い芝の運動」を担っている車いす当事者の飛び入り参加もありました。このほかに、

② 生涯学習センター主催による公式の学習会として、3月25日、社会福祉法人ウイズ町田理事長小野浩氏を講師として「障害者権利条約と施策、町田市の現状について」の講演会、

③ また父母会主催の学習会として、3月14日、社会福祉法人悠々会理事長陶山慎治氏による「知的障害をもつ方の高齢期の住まいについて」の講演会がありました。

本稿では、①自主学習会について振り返ります。

(学習会の意義)

何をするにも学ぶことが大切で、それが他人の人生に関わることであればなおさらといえます。朝に道を聞かば夕べに死すとも可なり(『論語』里仁篇)。

何を学ぶかといえば、知識や技術だけでなく、人間観や社会観、生きる姿勢といった無形の価値も含まれると考えられます。青年学級担当者にとって学びの場とはまず学級活動と担当者会ですが、その普段の場から少し離れて考え議論することで学びをより深めることができます。それが学習会といえます。

(青年学級らしさ)

津久井やまゆり園の事件のあと、全日本育成会がいち早くメッセージを発

するなど様々な立場での取り組みがありました。その中で、青年学級での話し合い、とびたつ会の学習会など、日頃の活動の中で青年たちが事件を受け止めたことは格別の意義があったと思われまます。

青年たちが「自分も殺される側に立たされている」という危機意識をもち、自分たちの言葉でそれを表現したことが、主体性や自主性といった青年学級がこれまで育んできた価値観を体現していました。今回の自主学習会で青年たちの言葉を手がかりに議論を深めることができたのも、こうした日頃の活動があつてのことだと思われまます。

また学習会では、津久井やまゆり園事件の背景にある優生思想と新型出生前診断との関連を指摘する意見が多く出ました。事件を巡ってマスコミなどで多く取り上げられたのはナチ政権下でのT4作戦による障害者の大量虐殺ですが、青年学級では青年と担当者にはまず新型出生前診断が想起されました。

もとより、生むか生まないかの判断は親にとつてプライベートで繊細な問題であり、そのことを他人が論評することには慎重であるべきですが、人命を選別するという点で、やはり一線を越えたものとして受け止めざるを得ないのではないのでしょうか。こうした根源的な問題に向き合うことも学習会の意義といえます。

(今後に向けて)

職業ではなくボランティアとして青年たちの社会教育に関わる青年学級担当者には、さらに別の観点があると思われまます。

ここで、参考までに社会福祉家の阿部志郎(1997)は、ボランティア活動をjして直面するいろいろな問題として、実践に対する挫折感、自己嫌悪、自己満足などに加えて、二つの懐疑があるといひまます。

「ボランティア活動は、社会福祉の後進性を温存したり、安上がり行政に荷担しているのではないかという、社会志向型から発せられる疑問と、自分

自身の人間形成が目的となり、相手を自己啓発の手段化していかないかという、自己志向型の反省である。」

津久井やまゆり園の事件について考えることは、この問題意識にも重なるのではないのでしょうか。

ひとつ目の「社会志向型の疑問」の疑問としては、施設での二四時間三六五日の生活から月に二回でも地域の青年学級に参加していれば、その人たちの生活がより豊かになるだけでなく地域の人たちの考え方も変わつていったのではないか。このことは家族や施設職員だけではなく社会全体が考えるべきなのではないか。ひるがえつて私たちの生涯学習センターの建物の中の活動は施設の延長になつていないか。青年学級は本当に地域の中にあるのか等々。

もうひとつの「自己志向型の反省」としては、青年学級において私たち担当者は青年たちを興味関心の対象としていないか、さらに彼らを子ども扱したり一段下に見ていないかと本当にいいのか等々の視点があり得まます。

こうしてみると難しそうですが学級担当者には必要な視点だと思われまます。賃金労働であれば自分がやつてゐることについて「これも仕事だ」「生活のためだ」と割り切ることも可能ですが、しかしボランティアでは「なぜ自分がこれをしてゐるのか」を考へてしまふことがあります。自分がまづ楽しむということが基本ですが、こうした答えの出にくい点も頭の片隅において今後実践に取り組んでいきます。

(参考文献)

阿部志郎『福祉の哲学』1997年、誠信書房

(2) 課題と展望

今年度は学習会委員主催の学習会を開催することができませんでしたが、担当者の提案による自主学習会を開催することができました。

が求められます。

このことは、近年、学習会委員が組織的に活動できていない中、社会教育の場として、担当者は青年に対する支援者であると同時に主体的な学習者でもあることを示す嬉しい誤算でした。しかしながら、このまま一人の担当者に頼り切ってしまうことなく、担当者間、そして職員と学習会の意義の再確認と、安定的に学習会を開催する仕組み作りが必要となつていきます。

3 調整会

調整会は職員5名と担当者会の代表の学級主事（各学級2名）とで構成され、青年学級を実施するにあたり、全体的な条件整備や調整を行い、担当者会に提示していく役割を持っています。学級全体のことや、これからのことを考える会議でもあります。

今年度は、6月16日、9月8日、10月20日の3回開催しました。

初回は年度当初のため、各学級の職員と主事の紹介、各学級の人数やコース、今年度の予定について報告を行いました。2回目は各学級の近況報告と、3学級全体で参加する生涯学習センターまつりについての話し合いを行いました。また、合宿と日帰り旅行の直前だったため、情報共有と応援依頼も行いました。3回目は生涯学習センターまつりの最終調整を行いました。

しかし、1時間程度の時間では議論を深めることは難しく、目の前の行事について調整することだけで精一杯でした。

現在、学級生の高齢化や担当者不足や入級待機者の存在など、青年学級には様々な問題があります。現在休止中の障がい者青年学級将来検討委員会を再開するなど、父母会等と一緒に青年学級の中長期的な問題を早急に考えていく必要があります。そのパイプ役を調整会が担っていくことができれば、解決の糸口が見えてくると思われまます。

今後の青年学級をより良いものとするため、調整会の役割、運営の仕方、議論していく内容について職員とともに深く考え、検討していくこと

第2章 送迎検討委員会

1 これまでの経過

青年学級では学級開設以来、一人で学級に通ってくるのが難しい青年の通級をどう保障するかについて、大きな問題となっていました。送迎の必要な青年の通級は、現在特定の青年への自主通級へ向けての援助を除いて、ほとんど家族の送迎に頼っているのが現状です。

担当者会では81年度に、公的な送迎保障を求めて町田市長への要望書や市議会請願書（本会議で否決）を提出し、この問題をアピールしてきました。92年度からは「青年の生活における送迎の意味や、今、青年学級でできることは何かを考えた送迎保障をめざす」ことをねらいとして、『送迎検討委員会』を組織し、担当者会メンバーに父母会の役員も加わって検討を始めました。何回かの話し合いと青年及び家族への計2回の調査を経て、95年度より一時送迎を実施することになりました。

この一時送迎をはじめるとあたり、ねらいを「送迎する家族の事情で学級を休むことにならないよう」、しかもそれは「送迎を必要とする青年や家族と担当者個人との関係で送迎を行なうのではなく、『青年学級全体の取り組み』として送迎を行なう」とし、確認しました。

2 現在取り組んでいる一時送迎の内容

① 一時送迎が必要な人は原則として、学級日前の担当者会のある木曜日までに公民館へ連絡し、担当者会で送迎を行なう担当者を調整する。（当日の送迎の要請にもできるだけ対応していく。）

② 送迎方法については、自家用車では事故があった場合の保障が十分でないため、できるだけ公共の交通機関を利用する。

③ 送迎に要した費用のうち電車代・バス代については、青年本人の交通費は全額本人負担、送迎を行なう担当者の要したバス代、電車代は送迎運営費から支出する。タクシーを利用した場合は、かかった費用の2割（端数は四捨五入し、100円単位で支払う）を青年が負担し、残りを送迎運営費から支出する。自家用車を利用した場合は、送迎運営費より送迎を行なった担当者に片道200円を支払う。

④ 担当者と父母で一人年間300円を負担し、これを送迎運営費とする。

⑤ 送迎中に事故があった場合の保障として、町田市の「全市民加入型 ボランティア活動災害補償保険」を活用する。

3 現在行なわれている送迎の状況

青年学級で行なわれている送迎には一時送迎も含め以下のようなものがあります。

（1）自主通級を目指して行なう送迎

自主通級する力はあるのですが、道順をなかなか覚えることができなかったり、ちよつとしたことで混乱してしまったり、安全に通級することが難しいといった青年に対して、将来的に自主通級できるようになることを目指し、援助をしています。

家まで迎えに行く、通級途中で待ち合わせるなど青年の状況に応じて行なっています。

(2) 家族の都合で送迎ができなくなった場合の「一時送迎」

家族の体調不良などの利用により、いつも送迎をしている家族が送迎できない場合に一時的に担当者が送迎していただきます。その他に慶弔や、送迎を行なう車の故障、施設の一時利用のため等の理由があります。

一時送迎の制度が広まってきたことにより、送迎者の都合などで、学級に参加できないということが減っています。

しかし、親の高齢化や本人の施設やグループホームへの入居により、継続的な送迎保障がないと学級に参加できないという青年が年々増え、実態として「一時送迎」にとどまらない現実も出ています。

(3) 普段とは違う場所で活動が行なわれる場合の送迎

ひかり学級の成果発表会は、いつもの活動場所であるひかり療育園ではなく、町田市生涯学習センターで行なっています。

このように活動場所が変わる場合、「行ったことがない」「普段行き慣れないところ」などの理由で、直接その会場へ行けない青年が多くなります。そこで一旦通い慣れた場所（町田市生涯学習センター・ひかり療育園）に集まってから会場に向かうといった送迎体制をとっています。普段は送迎を必要としない青年にとっても、送迎は共通する問題であると言えます。

4 今年度の検討内容

今年度の送迎検討委員会は、昨年に引き続き時間的な都合で担当者が集まることができず、一昨年開催して以来、年度内に一度も開催することができませんでした。そのため、各学級の送迎の実態や送迎費用の確認ができない状況となつてしまいました。また、定期的に開催していた父母会との意見交換の場も持つことができませんでした。

5 今後の課題

(1) 担当者の費用負担軽減

送迎に対応した担当者は費用を立て替え、後日送迎検討委員会です。で精算をするのですが、担当者として送迎委員が会えない日が続くと時に数千円の立て替えの累積が発生し、担当者の経済的負担にもなります。担当者の負担を軽減する意味でも、迅速に費用精算できる仕組みの検討が必要です。また、学級によっては、送迎の記録がしっかり記載できていない状況もあり、送迎検討委員会の立て直しが急務となっています。

(2) 送迎についての情報共有

ここ数年は当日のみの担当者が送迎を行うことが多くなくなってきましたが、当日送迎する担当者が担当者会に出席していない等の理由で、送迎の話をする機会をあまりつくれていないのが現状です。

「なぜ一時送迎を行っているのか」といった送迎についての意義や、送迎検討委員会が組織されるまでの経緯等について担当者間で共有していくとともに、比較的経験年数の少ない担当者や担当者会に出席していない担当者についても、送

迎運営費を集める理由や送迎検討委員会の存在意義を伝えていく必要があります。

(3) 一時送迎の周知

今後、青年の高齢化・家庭環境の変化により、グループホームや施設等に生活の場を移す青年が増え、送迎の必要性も高まってくるのが考えられます。

その一方で、一時送迎のことを知らない家族や、送迎を遠慮している家族もいるようなので、「送迎のしおり」を作成したり、父母交流会やニュース等を通じて送迎委員会の活動を伝えることが求められています。

(4) 制度の活用

最近ではガイドヘルパー制度を利用して学級に参加する青年も増えてきました。ガイドヘルパー制度も「障害者自立支援法（現「障害者総合支援法」）の施行以降、大きく変わってきており、今後ガイドヘルパー制度の利用について、その制度の内容や利用方法等を確認するとともに、一時送迎とガイドヘルパー制度の利用について、その利用の可能性を探っていくことも課題として挙げられています。

第3章 父母会

父母会長

町田市障がい者青年学級が開設され、2016年11月で42年を迎えました。42年の歩みの中で青年たちが置かれている環境は目まぐるしく変化し、決して生やさしいものではありません。そんな中で青年たちが本来の自分らしさを存分に発揮できる場所として青年学級は存在していると思います。仲間たちとともに創り上げていく楽しさ、歌あり、ダンスあり、時には白熱した意見交換：

それらの一つひとつが青年たちの生きる「力」となっているのだと実感しています。青年たちが心穏やかに学級の活動ができるのも、青年たちに寄り添う担当者の方々の姿があります。

前号でも書きましたが、近年父母会の絆（コミュニケーション）が薄れてきていると危惧しています。父母会の目的は、青年学級の運営が円滑に行われることを支援するとあります。学級の活動に参加支援することで絆が強くなればと思います。ここ数年支援のあり方も変わってきています。そのひとつとして、合宿の夕食を外部団体にお願いすることにより、今までより支援しやすくなったと感じます。そして青年たちの時間も余裕ができて、それぞれの活動が充実したように思います。我が子を託すばかりでなく、できるところで支援の輪が広がってほしいと願います。

最後に青年学級に携わって下さっているすべての皆様に、心からのお礼を申し上げます。

第7部 青年学級によせて

◇青年学級によせて

公民館学級

長野 希織

私が青年学級を知ったのは大学一年の頃のことです、授業がきつかけでした。100名近い学生を前にたったひとりで前に立ち、うたを披露してくれた青年がいました。その姿は少し戸惑っているようにも見えましたが、歌い始めると別人のように堂々としていて、とても驚いたのを今でも覚えています。うたは知らない曲でした。それでも、歌詞やメロディがすつと心の中に入ってくるような不思議な感覚がありました。担当者を募集していることもその時に知りましたが声をかける勇気が出ず、機会を逃してしまい、とても後悔していました。しかし、その後すぐに別の授業で知り合った先輩が担当者として関わっていることを知り「これはきつと縁があるにちがいない」と思い、活動に参加させてもらうようになりました。

青年学級に参加し始めてから離れるまで、わからないこと、上手くできないことばかりの私でしたが、学級ソングを歌っている時が何より楽しく、大好きな時間でした。集まっている人は年齢も性別も職業もバラバラで、悩みや嫌なこともあるけれど、この瞬間は「そんなことは置いといて」とでも言うかのように笑顔で歌っている。そんな時間にいつも励まされてきました。

ここでなければ気づかなかったこと、考えなかつたこと、そして出会えなかつた人がたくさんいます。様々な経験をさせてもらったこと、みなさんと出会えたご縁に感謝しています。本当にありがとうございました。

◇新人担当者として関わって

公民館学級

木元 祥平

私は人と関わる事があまり得意ではありません。自分の事を話すのも苦手ですし、聞くのもどこか上の空。そもそもコミュニケーションが苦手です。人と関わりを持つ事に大切さを感じなかつたように思います。ですので、いい人間関係を築けませんでした。本音で話せる人って今まで出会っていないと思います。いや、向き合おうとしなかつたんですね。

青年学級は、一人ひとりの言葉や思いを尊重し、大切に向き合う場だと二年間の関わりを通じ感じました。こんな人間なので、自分の考え、意見を迷いなく言い合い共有している、また、そんな一人ひとりの思いを大切にしている雰囲気を感じているのだと思います。

長く青年学級へ携わられている方がこんな事をおっしゃっていました。「人との信頼関係は、経験を共有したその先にあるもの」と。私のような弱い人間にはなかなか自分で自分を変える事は出来ません。ですが、ここで生き生きと自分の想いを表現している方々と、そんな一人ひとりを大切にしている空間で経験を共有した先に、なんでしょう、豊かな価値観に出会えるように思えてなりません。

職員の方が「ここは共に学び合う場」とおっしゃっていました。「ほんとはだな」と思いました。私にとって青年学級は、貴重な学びの場です。

関わらせていただいている事へ感謝の気持ちを忘れず、少しずつ自分のできる事を見つけていきたいと思っております。微力ではありますが、今後ともよろしく願いをいたします。

牧野 恵里香

私が青年学級の存在を知ったのは、私の通う大学にて公民館学級担当者の方との関わりがあった為です。もともとボランティアに興味があり、やってみたいなと思っていたところに声を掛けていただきました。

私自身、障がいのある方との関わりをあまり経験してきませんでした。ゆえに最初は、コミュニケーションがとれるのかとても心配していました。しかし、学級活動に参加してみると名前を覚えてくださる方、話しかけてくださる方が多く、たくさん話をする事ができました。学級活動を重ねていくにつれて私から話しかける事ができるようにもなりました。また、何を伝えようとしているのか（すべてではありませんが）少しづつ分かるようになってきました。このことから、信頼関係を築くことが大切であることが分かりました。

まだ担当者になって日が浅く、分からないことも多いですが、元気に学級活動に参加し、みなさんとかけがえのない思い出を作ってあげたいなと思っております。これからもどうぞよろしくお願ひいたします。

ひかり学級

館井 直

町田市障がい者青年学級を知ったきっかけは、青年学級に関する文献でした。他市の青年学級の活動に携わる中で、青年学級の成り立ちについて知りたいと思い、文献に目を通す中で町田市の取り組みに関心を持ちました。

まずは実践報告集を読みたいと思い、公民館を訪れました。そこで青年学級担当の職員の方のお話を聞き、さらに関心を持ったので、活動への参加を決めました。町田市では特に、障がいの程度に関わらず、個々の要望に応じた活動をしているところが特徴的だと感じました。そして、青年だけでなく担当者も主体的に活動に取り組んでいる点も新鮮に感じました。

私にとっては、青年たちとの関わりで学ぶことも多かったです。担当者同士の関わりから学ぶ事も非常に多かったです。異なる年齢層、バックグラウンドを持った人たちが青年たちの活動を支えることの難しさやそれを達成したときの思いは、何にも代えがたいものです。青年学級の活動は、青年たちだけでも、担当者だけでも、また保護者の方々だけでも成り立つものではなく、それぞれが互いに作用しあって創られていくものだと感じました。既存の枠組みに囚われず、皆が創り出す活動は、やりがいを感じる反面、自分の力不足も感じます。今日は何が生まれるだろう、そんな気持ちを持ちながら、今後も楽しんで取り組んでいきたいです。

五十嵐 端記

私がひかり学級に参加したのは、同じボランティア部の先輩に誘われたからでした。将来、福祉の仕事に就きたいと考えていて、ここでボランティアをすることによって学べることがあるだろう、そんな軽い気持ちで参加を決めました。

当時の私はボランティア経験がほとんどありませんでした。そのため、いざ参加してみたいものはいいものの何をすればいいのかわからず、ただただ立ち尽くしていました。そんな私に青年のほうから「おはよう」と挨拶をしてくれたり、「お名前は何かですか？」と話しかけてきてくれ、おかげで徐々に緊張もほどけていきました。その後の活動でもなかなか話しかけにくいけない私に代わり、青年のほうから声をかけてくれ、活動の手伝いに来たはずの私が助けられてばかりでした。そんな青年たちに惹きつけられ、もっと知りたい、もっと関わってみたいと思うようになりました。

私はスポーツコースに参加していましたが、青年たちが自分たちで決めたことを楽しみなから、パワフルに活動を行っている姿を見て、そしてふれあっている姿から、そのあたたかな雰囲気にも魅了され、これからも継続して活動に参加することを決めました。

活動に参加する回数を重ねていくごとに、青年たちとも少しずつ親しくなり私のほうから話しかけることも多くなりました。先輩担

当者や職員の方のアドバイスも得ながら、無事担当者になることもできました。この一年間ひかり学級での活動に参加することで本当に大きく成長できたなど実感していて、周りの方々には感謝の気持ちでいっぱいです。これからも一緒に活動を通して喜びを分かち合い、そして少しでも皆さんのお役に立てればと思っておりますので、ぜひ今後ともよろしくお願い致します。

山本 佳奈

私が青年学級の活動に参加したきっかけは、大学の先輩からこの活動の話を聞いて興味を持ったからです。それまで障がいのある方と関わるボランティアはまったく経験がなかったため、初めてひかり療育園に行ったときは活動への期待と不安の両方の気持ちがありました。しかし、実際に活動が始まると、青年の方から私に積極的に声をかけてくださり、あたたかく受け入れてもらえたことが嬉しかったのを今でも覚えています。

初めて青年学級でボランティアをして以来、私が学級の活動に参加し続けている最大の理由は、青年学級では担当者が活動をサポートするだけではなく、担当者も楽しみながら活動に参加することができるからです。共に考え、共に作り、共に歌う。真っ直ぐな気持ちで私たちに接してくれる青年と、それに応える担当者の姿。そんな活動の風景に心を打たれ、私自身ももっとここで様々なことをやってみたいと思うようになりました。

この一年間の活動は、今までしたことのない体験や発見の連続で、とても楽しかったです。担当者としての経験はまだ浅いですが、自分なりに青年学級のことを考え、青年と学級に携わる皆さまと一緒に、これからも活動させていただきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

石井 紗希

私が青年学級に参加した理由は、職員の方にボランティアを紹介していただき、学生のうちに様々なことに挑戦しようと思ったから

です。障がいを持っている方とは、関わったことがなかったので、どう接していいのかを話したらいいのか全く分かりませんでした。何度か参加をして、ひかり学級で主に演劇と一緒にやっていたうちに、青年の方とお話をしたり、担当者の方から色々教えていただいたおかげで、慣れることができました。初めて青年から話をかけてくれた時はとても嬉しかったです。

活動をしてきて、青年が困っていることに気が付けないことが沢山ありました。他の担当者の方を見習い、しっかりと周りを見られるよう、青年も私自身も互いに学び合っていけたらと思っています。青年学級に関わる皆様、今後ともよろしくお願い致します。

朝比奈 康太

ひかり学級に行き始めたきっかけは私が所属しているボランティア部の先輩の紹介でした。私はそれまでボランティアの経験がほとんどなくて、少し緊張していましたが、スポーツコースを選択していたので一緒にスポーツをすることが楽しみでもありました。

初めてひかり療育園の中に入ったら私が挨拶する前に青年から声をかけてくれました。初対面の方との会話が苦手な私にとって何てフrendリーな人達だなと思いました。コースに分かれて活動を開始すると密接に青年と関わり始めました。そうすることで、初めの頃は大きく青年としてしか捉えていなかったのが、次第に〇〇さんというように、人対人としての関係が生まれました。初日は顔と名前を覚えることで精いっぱいでしたし、何も出来ずに終わりました。しかし、青年個人の間味や温かさに触れることが出来て次回も参加してみたいと思いました。

2回目以降は出来るだけ周りを見て今、自分は何が出来たのかを見つけてそれを実行しようと思っていました。言語コミュニケーションが苦手な方や勝手にあちこち移動してしまう方もいて苦勞しました。それでも、私が顔と名前を覚えていくたびに青年も私の顔と名前を覚えてきて関係性が強くなっていきました。他人の関係ではなく親しみが出てきました。だから、継続的に参加した

いと思えるようになりました。

ひかり学級の活動を振り返ってみて気付いたことがあります。私は最初、自分が楽しもうと思っていました。しかし、周りを見始めるときに全員が全員、活動に参加していかないことが見えてきました。積極的な人は目立ちますが隅に座ってただ見ている人も意外にいました。その人たちと向き合うことでコース全体が楽しむことが大切だと考えるようになりました。みんなが参加し、みんなで楽しむことのできるコース作りが求められていて、私はそのお手伝いをするべきと今は思っています。今後もしひかり学級に参加して青年とともに活動を楽しんでいきたいです。

田中 駿佑

私は2016年12月から、コスマリップ劇ダンスコースで活動を開始しました。このコースでは「ももすけ」という桃太郎をアレンジした劇を発表しました。

「ももすけ」を準備する作業は、楽なものではありませんでした。劇の配役やセリフ合わせ、衣装・小道具づくりを学級生の皆さんと行っていたのですが、作業がなかなか進まないこともよくありました。ですが、学級生の方々は常に一生懸命に取り組んでいたため、日を迫うにつれて徐々に形になっていきました。

成果発表会では、どのリハーサルよりも上手く劇をすることができました。私が担当者としてかかわった時間は多くはありませんが、それでも学級生の皆さんとひとつのものを作り上げた達成感がありました。このような気持ちになれたのは、青年学級で学級生の方々と一緒に活動できたからだだと思います。

資料

年 表

町田市障がい者青年学級の歩み

1973年
(S. 48)

- 親の要求 → 障がい者のための青年学級
 ～非行に走らないように～
 ＊育成会 ＊福祉事務所ケースワーカー
 ＊社会教育課長 ＊精薄指導員
 ＊社会教育主事

- 準備期間 (社会教育主事)
 ◇ゆたか作業所 (名古屋) 訪
 ◇宮津青年学級 (京 都) 問

町田市障がい者青年学級準備会

- * 青年心理研究者 (1名)
- * 人形劇研究者 (1名)
- * 社会教育主事 (2名)
- * 社会教育関係者 (1名)

- ◇参加者募集
- ◇説明会
- ◇要領作成
- ◇映画上映
- ◇スタッフ募集

ねらい
障がい者青年が豊かな生活を築くため、仲間たちと話し合ったり、学習したり、思いきり遊ぶなかで、生きる力や働く力を獲得することをめざす。

1974年
(S. 49.11)

20名

一
年
目

時 間 割		
<各自の課題>	<人形劇作り>	<話し合い>
各自が学校卒業後の生活の中で「学びたいこと」	集団芸術活動を通しての集団化	青年自身のものとして、生きる力、働く力、自立心
数 学 国 語 技術工作 美 術 音 楽 手 芸	ねらい ①仲間づくり ②創造する喜びを集団で ③生活の見つめ直しと表現力育成	

<担 当 者>

- *市内の教師 (5名)
- *福祉施設作業職員・児童学園職員 (3名)
- <行政職員>
- *ケースワーカー (2名)
- *社会教育主事 (1名)
- 計11名

父母会誕生

月2回の青年学級予算が決まる

1975年
(S. 50)

32名

二
年
目
学
級
生
の
高
齢
化

時 間 割		
<各自の課題>	<人形劇作り>	<話し合い>
数 学 国 語 技術工作 美 術 音 楽 手 芸	ねらい 思いきり体を動かす。	ねらい 自分の思っている事をはっきり言う。
☆ 小集団編成	生活班	
☆ 全員が役割	「よくばりこぐま」上演	
☆ 運営委員会		

<担 当 者>

- *学生・市民 (12名)
- <行政職員>
- *社会教育主事 (1名)
- *社会教育職員 (1名)
- *ケースワーカー (2名)
- 計16名
- ・健全者青年学級演劇コースに初めて2名参加
(障がい者青年学級・健全者青年学級に両方参加)
- ・障がい者に対する差別観念のたたかい
- ・K・Yさんの家出
- ・テレビ出演問題 (76年2月)
↓
- ・文集づくり→ 文集委員 ↓

障がい
歳の
多様化

1976年 (S. 51) 37名	時 間 割			<ul style="list-style-type: none"> ・「通級可能な者」をとりはずす ・二学級制検討 <ul style="list-style-type: none"> ①数的増大 ②要求多様化 ③担当者の能力限界 父母との話し合い、青年の要求をふまえて
	<各自の課題> 数 学 美 術 国 語 技術工作 サイクリング 音 楽 手 芸 ↓ 手芸サークル化 (あみもの)	<人形劇作り> ねらい どうやって青年 を劇づくりの主 役にするか。 ☆要求別劇班 ①人間劇班 一言いたい事を読み合った ②オペレッタ班 一へっこき嫁さん→体を動かす ③かげえ班 一あわて床屋	<話し合い>	
三年 目	☆ 運営委員会 (土曜午後) ☆ 実行委員会 (フェスティバル・クリスマス)			<担 当 者> *学生・市民 (15名) <行政職員> *社会教育主事 (1名) *社会教育職員 (1名) *ケースワーカー (3名) 計20名
				・フェスティバル→学級として参加 ・生きがいコース・料理コースの検討
1977年 (S. 52) 42名	二 学 級 生 実 施			<担 当 者> *学生・市民 (15名) *地域青年 (2名) *人形劇団員 (1名) <行政職員> *社会教育主事 (1名) *社会教育職員 (1名) *ケースワーカー (3名) 計23名
	☆ ねらいはくずさず、二学級別々に運営する。 ☆ 午後 (文化活動・話し合い) →生活班 四つの基礎集団 (一学級二班)			
四年 目	時 間 割			<担 当 者> ・担当者の移行 ①任務分担 ・文化活動担当 ・条件整備担当 ・生活担当 ②かかわり方の明確化 ③学級主事 代表者会 } 設置 ・学習会 (月1回) 行なう ・土曜学級生きがいコース } 開催 ・料理教室 ・地域へ ①盆踊り大会→土曜学級実施 ②ゲーム大会→ゴボーの会と ・送迎 — 教育としての送迎 職員の負担 ・父母会 — 通勤寮構想 ・公運審 — 父母等が参加
	<各自の課題> ① 手 芸 班 →サークル ② 手 芸 班 ① } 学 習 班 ② } ① } スポーツ班 ② } 音 楽 班	<人形劇作り> ねらい 集団としての自 治の高まり	<話し合い>	
改 築 の た め ↓ 町 田 第 一 中 学 校 へ 青年の 多様化 (年齢障害)	☆ 生活班としての劇づくり ①かしの木班「泣いた赤鬼」 — 友情 — 「人形劇」 ②ラーメン屋班「むぎひとつぶ」 — 青年の気持ちをひきだす — ③くりご班「ももたろう」 — 重たい人をどうまきこむか — ④ごろね班 — 感想をつづらせる — ○素材として劇は妥当かどうか ☆運営委員会 (やりたいもの学級運営にたずさわる) ☆実行委員会 (クリスマス会) 劇会ベース (担当者) では自治活動が積みあげられない。			

1978年
(S. 53)
49名

五年目

町田第一中学校
↓
公民館へ

3つに分かれた時間割りを2つに減らす

各自の課題・劇づくり・話し合い
↓
青年の自治活動に重点移行
↓
班活動・各自の課題
(話し合いは班活動・各自の課題に随時入れる)

①集团的文化活動 劇づくり→行事を節に
②班→四つの基礎集団 (一学級二班)
③運営委員会 劇会→ **班長会・実行委員会へ**

時間割	
<班活動>午前	<各自の課題>午後
前半—キャンプ	手芸班 工作班 美術班 スポーツ班 国語班 算数班 音楽班
後半—班ごとの活動	
①ペンペン草班 ・楽しみ仲間を意識し話し合いを成立させる ・お料理	A・B学級の枠を超えて編成
②デン助班 ・仲間を意識し、班活動を青年の手ですすめる	
③トマト班 ・援助し合い、自治活動を高めよう ・ソフトボール	
④ひやかか店班 ・班員を知り、青年の手ですすめ、青年間で助け合う ・ソフトボール	
☆ 班長の役割の不明確、青年の手で →担当者の援助方法・班のみの行動	

☆青年たちの要求

- ・自分たちの力でやりたい
- ・ゆったりとした学級をやりたい
- ・学習時間を長くしてほしい

積極的に受けとめ、ゆったりとした学級へ

担当者 → 学生増
(新旧交代)
代表者会 → 調整委員会へ
(担当者会で話しきれないもの)

- <担当者>
- *在宅訪問事業 (2名)
 - *地域青年 (2名)
 - *人形劇団員 (1名)
 - *学生・市民 (14名)
- <行政職員>
- *社会教育主事 (1名)
 - *社会教育職員 (1名)
 - *ケースワーカー (3名)
- 計24名
- **地域へ**
- ・キャンプ → ゴボーの会
 - ・フェスティバル → 日曜実行委員会
 - ・クリスマス会 → 実行委員会
 - ・ソフトボール → 健全者青年学級
ゴボーの会
 - ・スケート → 希望者
 - ・料理教室
- **送迎問題** → 運動方針出す
- **学級卒業** → 夜間中学へ1名

1979年
(S. 54)
54名

六年目

☆ A・B学級でまとまろう
☆ 青年の手による自主的な運営をめざす

時間割	
<班活動>午前	<各自の課題>午後
○A学級 { フレンド班 バラ班	・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班
○B学級 { ピンクレディ班 たんぼぼ班	
<前期>	
<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプを通して仲間意識、班意識、学級意識を高める ・キャンプの準備 (班内係・メニュー決め・調理実習) 	

- <担当者>
- *地域の専門家 (2名)
 - *訪問事業担当者 (2名)
 - *青年心理研究者 (1名)
 - *学生 (14名)
- <行政職員>
- *ケースワーカー (2名)
 - *社会教育主事 (1名)
 - *社会教育職員 (1名)
- 計23名
- 地域の専門家に広がる

	<p><後期> 学級単位の活動 A タコづくり B レク・料理等班長会主導 ↓ 各班単位へ ・ピンクレディ班 — 野外活動・ゲーム ・たんぽぽ班 — 劇づくり ☆ 自治活動をすすめる上での共通体験、生活の広がりが必要 ☆ 重度の青年の発達過程をどう保障するか ☆ 成人（30代以上）にとっての課題は何か</p>	<p>○地域への広がり→クリスマス会 日曜学級、地域のサークル、金曜教室、 「交流会の意義を考える」 ○送迎問題→運動の視点から考える</p>										
<p>1980年 (S. 55) 50名</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">七 年 目</p>	<p>☆ ゆとりある活動の中で、生活経験を広げ、その上で自主的に活動する力を獲得する ☆ 重度の青年、成人たちへの課題を考え、独自のグループをつくる</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">時 間 割</th> </tr> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;"><班 活 動>午前</th> <th style="width: 50%; text-align: center;"><各自の課題>午後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p><前期> A学級 コスモス班 成人班 B学級 ハ班 ニ班 喫茶店学習・ウォークラリー・薬師池ハイキング ・映画 9月合宿</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;"> <p>生活と共にし、ゆったりした中で生活を語り合う 重度の青年と共に活動する</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="vertical-align: top;"> <p><後期> ☆ 重度の青年をどうするか、青年たちの投げかけ、その結論より、自主的な活動を展開していく ○ 重度の青年と共に活動していくか ↓ 「いっしょにやっぺいこう！」(全班一致) ※ 重度者グループの解体 活動内容 コスモス班 — 劇 ハ班 — はり絵 ニ班 — 劇とはり絵 ※ 成人班は独自の活動を行なう ・重度の青年に対する班、独自の課題での取り組みにおいて、課題が不明確だった ・班で中心となる青年の位置づけと、担当者の援助の問題 ・成人、重度者グループ編成の際、メンバー選定の問題</p> </td> </tr> </tbody> </table>	時 間 割		<班 活 動>午前	<各自の課題>午後	<p><前期> A学級 コスモス班 成人班 B学級 ハ班 ニ班 喫茶店学習・ウォークラリー・薬師池ハイキング ・映画 9月合宿</p>	<p>・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班</p>	<p>生活と共にし、ゆったりした中で生活を語り合う 重度の青年と共に活動する</p>		<p><後期> ☆ 重度の青年をどうするか、青年たちの投げかけ、その結論より、自主的な活動を展開していく ○ 重度の青年と共に活動していくか ↓ 「いっしょにやっぺいこう！」(全班一致) ※ 重度者グループの解体 活動内容 コスモス班 — 劇 ハ班 — はり絵 ニ班 — 劇とはり絵 ※ 成人班は独自の活動を行なう ・重度の青年に対する班、独自の課題での取り組みにおいて、課題が不明確だった ・班で中心となる青年の位置づけと、担当者の援助の問題 ・成人、重度者グループ編成の際、メンバー選定の問題</p>		<p><担 当 者> *地域の専門家 (3名) *学生 (16名) <行政職員> *ケースワーカー(2名) *社会教育主事(1名) *社会教育職員(1名) *ひかり療育園指導員(1名) 計24名</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">父母会 (学習会)</p> <p>福祉事務所ケースワーカー近藤氏を招いての講演「障がい者の足の保障」</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">クリスマス会</p> <p>公民館事業からクリスマス会実行委員会主催に移行</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">文集づくり</p> <p>文集委員会を中心 文集の表題に「障害者青年学級」を入れることにより問題が起こった</p>
時 間 割												
<班 活 動>午前	<各自の課題>午後											
<p><前期> A学級 コスモス班 成人班 B学級 ハ班 ニ班 喫茶店学習・ウォークラリー・薬師池ハイキング ・映画 9月合宿</p>	<p>・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班</p>											
<p>生活と共にし、ゆったりした中で生活を語り合う 重度の青年と共に活動する</p>												
<p><後期> ☆ 重度の青年をどうするか、青年たちの投げかけ、その結論より、自主的な活動を展開していく ○ 重度の青年と共に活動していくか ↓ 「いっしょにやっぺいこう！」(全班一致) ※ 重度者グループの解体 活動内容 コスモス班 — 劇 ハ班 — はり絵 ニ班 — 劇とはり絵 ※ 成人班は独自の活動を行なう ・重度の青年に対する班、独自の課題での取り組みにおいて、課題が不明確だった ・班で中心となる青年の位置づけと、担当者の援助の問題 ・成人、重度者グループ編成の際、メンバー選定の問題</p>												
<p>1981年 (S. 56) 54人</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">八 年 目</p>	<p>☆ 生活の見つめ直し(1年目) ☆ 表現活動(劇活動)への取り組み</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">時 間 割</th> </tr> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;"><班 活 動>午前</th> <th style="width: 50%; text-align: center;"><各自の課題>午後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>A学級(班替え) ・ひまわり班 ・シクラメン班 ※成人班の解体</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班</p> </td> </tr> </tbody> </table>	時 間 割		<班 活 動>午前	<各自の課題>午後	<p>A学級(班替え) ・ひまわり班 ・シクラメン班 ※成人班の解体</p>	<p>・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班</p>	<p><担 当 者> *教育心理学の専門家(1名) *学生 (16名) *市民 (5名) <行政職員> *公民館職員(2名) *ケースワーカー(2名) *ひかり療育園職員(1名) 計27名</p>				
時 間 割												
<班 活 動>午前	<各自の課題>午後											
<p>A学級(班替え) ・ひまわり班 ・シクラメン班 ※成人班の解体</p>	<p>・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班</p>											

<p>B学級（班替えなし）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハ班 ・二班 <p><前期></p> <p>話し合い 仕事の悩み 家族の様子等</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観劇 ・プール <p><後期></p> <p>↓</p> <p>劇づくり 台本委員 (自主的な劇づくり)</p> <p>○ 生活上の抱えている問題を出し合う ○ 否定的側面が強調されすぎた ↓ 広く生活をとらえ直すことの必要性</p> <p>(注1) のびのび班—障がいの重い青年に必要な課題を特に設定したグループ。これは前年度班活動の中で取り組まれた重度者（からだほぐし）グループが発展的に解消されたもの。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・美術班 ・スポーツ班 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">重度者グループ</div> <p>→</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のびのび班（注1） <p>班長会</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・学級日 ・第4日曜日 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">地域へ</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい広場クリスマス会へ参加 ・自主的な学習サークル「すぎの子」誕生 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">送迎問題</div> <p>送迎委員会の再建</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者の公民館利用を考える ・公民館利用者懇談会参加 「送迎を考える会」誕生
---	--	---

<p>1982年 (S. 57) 52名</p>	<p>☆ 生活の見つめ直し（2年目）</p> <p>☆ 表現活動への取り組み</p> <p style="text-align: right;">※ 班替えなし（班名の変更）</p>	<p><担当者></p> <ul style="list-style-type: none"> *教育心理学の専門家（1名） *学生（11名） *市民（4名） <p><行政職員></p> <ul style="list-style-type: none"> *公民館職員（2名） *ケースワーカー（2名） *ひかり療育園職員（1名） 計21名
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">九 年 目</div>	<p>時 間 割</p>	
	<p><班 活 動>午前</p>	<p><各自の課題>午後</p>
	<p>A学級</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すみれ班 「～できる」という心 劇づくり（すみれヶ丘） ・さくら班 生活を広い領域でとらえ カードを文章化していく ことで、生活の自覚化・ 共有化をはかる <p>B学級</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハ班 「夢」を通して生活を見 つめる 劇づくり（ハ班の夢） ・スイートピー班 生活場面を表現する 劇づくり（13名の同窓会） <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・プール ・合宿 ・狛江との交流 </div> <p style="margin-top: 10px;">・班長会、実行委員会の役割が不明確</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班 ・のびのび班 <p>・班長会</p> <p>・実行委員会 (合宿、狛江との交流)</p>

十 年 目	1983年 (S. 58) 53名 ☆ 生活の見つめ直し(3年目) ☆ 青年の手による自主的な運営をめざす ☆ 新しい班で仲間を知り合う ☆ 表現活動への取り組み	<担当者> *教育心理学の専門家(1名) *学生(9名) *市民(8名) <行政職員> *公民館職員(3名) *ケースワーカー(2名) *ひかり療育園職員(1名) 計24名 <サークル活動> ・さなえサークル ・モンチッチ ・おなべの会 ・土曜学級 <送迎問題> 学級活動の一環としてとりくむ 担当者間で位置づけにバラつきがあった
	時 間 割	
	<班活動>午前 (班替え) <前期> ↓ 話し合い [お互いに知り合う 仕事のこと 生活の悩み など] ↓ ・狛江との交流 ・プール <後期> ↓ ・合宿 ↓ ・もちつき大会 <表現活動> ・ガチャガチャ班(15名) — 人形劇づくり — 人形をとおして、自分を語り 自分の想いをアピールする ・チューリップ班(13名) — 歌づくり — 歌によって自分の意見や、思 いを表現する ・レモン班(13名) — 劇づくり — 自分たちの職場を紹介しあい お互いの理解を深める ・考える班(12名) — 劇づくり — 職場の実態や生活、そして 「仲間とは何か」を考える	<各自の課題>午後 ・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班 ・のびのび班 <班長会> ・各班活動の情報交換 ・学級全体のことについて 話し合う ・行事の企画運営を行なう <実行委員会> ・狛江との交流会 ・合宿 ・もちつき大会
十 一 年 目	1984年 (S. 59) 63名 ☆ 青年の自主的運営 ☆ 2年目の班で活動内容を深める ☆ 10周年行事、「とびたとう」発行を中心活動とする	<担当者> *教育心理学の専門家(1名) *学生(10名) *市民(6名) <行政職員> *公民館職員(2名) *ケースワーカー(2名) *ひかり療育園職員(1名) 計22名 <サークル活動> ・さなえサークル ・モンチッチ ・おなべの会
	時 間 割	
	<班活動>午前 <前期> ↓ ・2年目の班としての活動 ・狛江との交流 ・合宿 ・プール ↓ <後期> ↓ ・10周年記念行事 パーティー ・クリスマス会 ・もちつき大会 ↓ ・とびたとう ↓ ・ガチャガチャ班(17名) ガチャガチャ新聞	<各自の課題>午後 ・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班 ・のびのび班 ・サイクリング班 <班長会> ・実行委員会と合同で行事の 進行をする

	<ul style="list-style-type: none"> ・チューリップ班（14名） うた作り、絵 ・レモン班（14名） 文集「レモンの友だち」 ・考える班 自己表現—思ったことを を大声でいう 	<p><実行委員会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・狛江との交流会 ・合宿 ・10周年 ・クリスマス会 ・とびたとう 	<p><送迎問題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動の一環とする ・ハンディキャップの利用はじまる
<p>1985年 (S. 60) 57名</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; width: 30px; margin: 10px auto;"> 十二 年 目 </div>	<p>☆ 生活づくり (コース制 1年目)</p> <p><コース別活動>全日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽コース ・文化芸術コース ・体づくりコース ・ものづくりコース ・生活コース ・自然コース <p>・班長会</p> <p>・狛江交流実行委員会</p> <p>(行事)</p> <p>プール</p> <p>狛江との交流会</p> <p>合宿 (水元青年の家)</p> <p>公民館まつり</p>	<p><担当者></p> <ul style="list-style-type: none"> *教育心理学の専門家 (1名) *学生 (15名) *市民 (6名) <p><行政職員></p> <ul style="list-style-type: none"> *公民館職員 (2名) *ケースワーカー (2名) *ひかり療育園職員 (1名) <p style="text-align: right;">計27名</p> <p><サークル活動 ~地域へ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・さなえサークル ・モンチッチ ・おなべの会 ・ふれあいクリスマス会参加 ・公民館まつり 	
<p>1986年 (S. 61) 64名</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; width: 30px; margin: 10px auto;"> 十三 年 目 </div>	<p>☆ 生活づくり・文化創造 (コース制 2年目)</p> <p><コース別活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽Aコース ・音楽Bコース ・文化・芸術コース ・健康・体づくりコース ・ものづくりコース ・生活コース ・自然コース <p><班長会></p> <p>実行委員会と同時進行</p> <p><実行委員会></p> <p>狛江との交流会 クリスマス会 とびたとう</p> <p><行事></p> <p>スポーツ大会 狛江交流会 合宿 (山中湖)</p> <p>公民館まつり クリスマス会</p>	<p><担当者></p> <ul style="list-style-type: none"> *教育心理学の専門家 (1名) *学生 (15名) *市民 (6名) <p><行政職員></p> <ul style="list-style-type: none"> *公民館職員 (2名) *ケースワーカー (2名) *ひかり療育園職員 (1名) <p style="text-align: right;">計27名</p> <p><サークル活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・さなえサークル ・おなべの会 ・らくだバンド <p><地域へ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館まつり参加 ・ひまわり号参加 	
<p>1987年 (S. 62) 77名</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; width: 30px; margin: 10px auto;"> 十四 年 目 </div>	<p>☆ 生活づくり・文化創造 (コース制 3年目)</p> <p><コース別活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽コース ・劇ミュージカルコース ・ものづくりコース ・健康・体づくりコース ・生活コース ・自然コース 	<p><担当者></p> <ul style="list-style-type: none"> *教育心理学の専門家 (1名) *学生 (16名) *市民 (3名) <p><行政職員></p> <ul style="list-style-type: none"> *公民館職員 (2名) *ケースワーカー (1名) *ひかり療育園職員 (1名) <p style="text-align: right;">計24名</p>	

	<p><班長会> 実行委員会と並行</p> <p><実行委員会> 狛江交流会（クリスマス会）</p> <p><行事> 合宿（山中湖）、公民館まつり 狛江交流会（クリスマス会） ※若葉とそよ風のハーモニーコンサート（町田）</p>	<p><地域へ> ・公民館まつり参加 ・ひまわり号参加</p> <p>※きらきら笑顔のメッセージコンサート参加 （国立） ※若葉とそよ風のハーモニーコンサート参加 （町田）</p>
<p>1988年 (S. 63) 83名</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">十五年目</p>	<p>☆ 生活づくり・文化創造（コース制 4年目）</p> <p><コース別活動> ・音楽コース ・劇ミュージカルコース ・ものづくりコース ・健康からだづくりコース ・生活コース ・自然コース</p> <p><班長会> <新聞委員会> <狛江実行委員会></p> <p>（行事） 合宿（府中青年の家） 公民館まつり 狛江市青年学級との交流会 ※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加</p>	<p><担当者> *教育心理学の専門家（1名） *作業所指導員（7名） *学生（9名） *市民（3名）</p> <p><行政職員> *公民館職員（2名） *ケースワーカー（1名） *ひかり療育園職員（1名） 計24名</p> <p><地域へ> ・公民館まつり参加 ・ひまわり号参加 ※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加</p>
<p>1989年 (H. 1) 91名</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">十六年目</p>	<p>☆ 生活づくり・文化創造（コース制 5年目）</p> <p><コース別活動> ・音楽①コース ・音楽②コース ・劇ミュージカルコース ・ものづくりコース ・健康からだづくりコース ・自然コース ※各コースで生活について考えていく</p> <p><班長会> クリスマス会実行委員会と並行</p> <p><新聞委員会> <とびたとう編集委員会></p> <p><行事> 合宿（府中青年の家） 公民館まつり ※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加</p>	<p><担当者> *教育心理学の専門家（1名） *作業所指導員（10名） *学生（9名） *市民（2名）</p> <p><行政職員> *公民館職員（2名） *ケースワーカー（1名） *ひかり療育園指導員（1名） 計26名</p> <p><地域へ> 公民館まつり参加 ※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加</p> <p><サークル活動> ・さなえサークル ・おなべの会</p>

1990年
(H. 2)
99名

十七
年
目

☆ 生活づくり・文化創造 (コース制 6年目)

<コース別活動>

- ・音楽①コース
- ・音楽②コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・ものづくりコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<班長会>

<クリスマス会実行委員会>

<新聞委員会>

<行事>

合宿 (水元青年の家)

公民館まつり

※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加

<担当者>

- *教育心理学の専門家 (1名)
- *作業所指導員 (9名)
- *学生 (7名)
- *市民 (5名)

<行政職員>

- *公民館職員 (3名)
 - *ケースワーカー (1名)
 - *ひかり療育園職員 (1名)
- 計27名

<地域へ>

公民館まつり参加

※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<会場>

1～3月、公民館改修工事のため、町田第2小学校で通常学級活動を、成果発表会を地域センター (成瀬) でおこなう

1991年
(H. 3)
105名

十八
年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 二学級制 (公民館学級・ひかり学級)

*公民館学級 (コース制7年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

合宿 (大地沢青少年センター)

公民館まつり

<班長会>

*ひかり学級

<班別活動>

- ・コスモス班
- ・ハチ公班
- ・コンドル班
- ・JR班

<行事>

合宿 (府中青年の家)

公民館まつり

<班長会>

<行事委員会>

<合同実行委員会>

- ・クリスマス会実行委員会
- ・とびたとう編集委員会

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<担当者>

- *教育心理学の専門家 (1名)
- *作業所指導員 (9名)
- *学生 (15名)
- *市民 (6名)

<行政職員>

- *公民館職員 (3名)
- *ひかり療育園指導員 (1名)

計35名

1992年
(H. 4)
118名

十
九
年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 二学級制 (公民館学級・ひかり学級)

*公民館学級 (コース制8年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

- 合宿 (山中湖)
- 公民館まつり

<班長会>

*ひかり学級 (コース制1年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

- 合宿 (山中湖)
- 公民館まつり

<班長会>

<合同実行委員会>

- ・クリスマス会実行委員会
- ・とびたとう編集委員会

<担当者>

- *教育心理学の専門家 (1名)
- *作業所指導員 (9名)
- *学生 (18名)
- *市民 (6名)

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会
- ・音楽サークル

<行政職員>

<地域へ>

※共作連全国大会「うたごえ東京」(ペイNKホール)に参加

※若葉とそよ風のハーモニー合唱団「芸術祭

おまつり広場」(都庁ホール)に参加

*公民館職員 (3名)

*ひかり療育園指導員 (1名)

計38名

1993年
(H. 5)
131名

二
十
年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 二学級制 (公民館学級・ひかり学級)

*公民館学級 (コース制9年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

- 合宿 (長野県川上村)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

*ひかり学級 (コース制2年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・ものづくりコース

<行事>

- 合宿 (長野県川上村)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<担当者>

- *教育心理学の専門家 (1名)
- *作業所指導員 (9名)
- *学生 (14名)
- *市民 (23名)

<地域へ>

※第5回若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加

<行政職員>

*公民館職員 (3名)

*ひかり療育園指導員 (1名)

計51名

1994年
(H. 6)
141名

二十一年目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 二学級制 (公民館学級・ひかり学級)

*公民館学級 (コース制10年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

- 合宿 (水元青年の家)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

*ひかり学級 (コース制3年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活ものづくりコース

<行事>

- 合宿 (水元青年の家)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

<喫茶のぞみ>

20周年記念行事 (昼) 健康福祉会館…20周年記念行事実行委員会

20周年記念パーティ (夜) ホテル・ザ・エルシー…20周年記念パーティ実行委員会

<担当者>

*教育心理学の専門家 (1名)

*作業所指導員 (9名)

*大学院生 (1名)

*学生 (12名)

*市民 (24名)

<行政職員>

*公民館職員 (3名)

*公民館嘱託職員 (1名)

計51名

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<地域へ>

※第6回若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加

1995年
(H. 7)
152名

二十二年目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 二学級制 (公民館学級・ひかり学級)

*公民館学級 (コース制11年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

- 合宿 (大地沢青少年センター)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

*ひかり学級 (コース制4年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

- 合宿 (大地沢青少年センター)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

<喫茶のぞみ>

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<担当者>

*教育心理学の専門家 (1名)

*施設職員 (8名)

*学生 (18名)

*市民 (27名)

<行政職員>

*公民館職員 (4名)

計58名

<地域へ>

※第7回若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加

1996年
(H. 8)
162名

二十三年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 二学級制 (公民館学級・ひかり学級)

*公民館学級 (コース制12年目)

<コース別活動>

- ・音楽ハッピーコース
- ・音楽トマトバナナコース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース
- ・新聞づくりコース

<行事>

- 合宿 (大地沢青少年センター)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

*ひかり学級 (コース制5年目)

<コース別活動>

- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース
- ・人形劇づくりコース

<行事>

- 合宿 (大地沢青少年センター)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>
<喫茶のぞみ>

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<担当者>

*教育心理学の専門家 (1名)
*施設職員 (8名)
*学生 (14名)
*市民 (39名)
<行政職員>
*公民館職員 (4名)

計66名

1997年
(H. 9)
169名

二十四年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

*公民館学級 (コース制13年目)

<コース別活動>

- ・うさぎミュージカルコース
- ・チャンピオンバンドコース
- ・抱きしめたいコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

- 合宿 (大地沢青少年センター)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<つどい委員会>

*ひかり学級 (コース制6年目)

<コース別活動>

- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース
- ・人形劇づくりコース

<行事>

- 合宿 (大地沢青少年センター)
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>
<喫茶のぞみ>

*土曜学級 (班制1年目)

<班別活動>

- ・あじさい班
- ・コスモス班
- ・スピッツ班

<行事>

- 合宿 (青梅青年の家)
- 公民館まつり
- 新年会

<班長会>

<新年会実行委員会>

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<地域へ>

※第8回若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加

<担 当 者>
 *教育心理学の専門家 (1名)
 *社会教育職員 (1名)
 *施設職員 (8名)
 *学生 (20名)
 *市民 (38名)
 <行 政 職 員>
 *公民館職員 (4名)
 計72名

1998年
 (H. 10)
 182名

二
 十
 五
 年
 目

☆ 生活づくり・文化創造
 ☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)
 *公民館学級 (コース制14年目)
 <コース別活動> <行事> <班長会>
 ・ものづくりコース 合宿 (大地沢青少年
 ・Jバンドコース センター)
 ・ブロード・スマイルコース 公民館まつり
 ・健康からだづくりコース クリスマス会
 ・自然コース
 ・生活コース
 *ひかり学級 (コース制7年目)
 <コース別活動> <行事> <班長会>
 ・劇ミュージカルコース 合宿 (大地沢青少年
 ・健からオールスターズコース センター)
 ・さんぽでけんからコース 公民館まつり
 ・生活コース クリスマス会
 ・自然コース
 *土曜学級 (班制2年目)
 <班別活動> <行事> <班長会>
 ・ひまわり班 合宿 (青梅青年の家)
 ・トマト班 公民館まつり
 ・トトロ班 新年会
 <サークル活動> <担 当 者>
 ・さなえサークル *教育心理学の専門家 (1名)
 ・おなべの会 *施設職員 (14名)
 *学生 (21名)
 *市民 (38名)
 <地域へ> <行 政 職 員>
 ※第9回若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加 *公民館職員 (4名)
 計78名

1999年
 (H. 11)
 192名

二
 十
 六
 年
 目

☆ 生活づくり・文化創造
 ☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)
 *公民館学級 (コース制15年目)
 <コース別活動> <行事> <班長会>
 ・パフィーコース 合宿 (大地沢青少年
 ・ミッキーコース センター)
 ・ラビッツコース (バンド) 公民館まつり
 ・ひまわりコース クリスマス会
 ・自然オレンジーズコース
 ・生活コース

*ひかり学級（コース制8年目）

<コース別活動>

- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・ものづくりコース
- ・生活コース
- ・自然コース

<行事>

- 合宿（大地沢青少年センター）
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

- <新聞委員会>
- <喫茶のぞみ>
- <とびたとう編集委員会>
- <行事委員会>

*土曜学級（班制3年目）

<班別活動>

- ・スイートピー班
- ・スマップ班
- ・ミッキーコースター班

<行事>

- 合宿（青梅青年の家）
- 公民館まつり
- 新年会

<班長会>

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<担当者>

- *教育心理学の専門家（1名）
 - *施設職員（14名）
 - *学生（21名）
 - *市民（30名）
 - <行政職員>
 - *公民館職員（4名）
- 計70名

2000年

(H. 12)

188名

二
十
七
年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

*公民館学級（コース制16年目）

<コース別活動>

- ・ストロベリーコース
- ・健康からだづくりコース
- ・キッカーズコース（バンド）
- ・ものづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

- 合宿（大地沢青少年センター）
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

- <つどい委員会>

*ひかり学級（コース制9年目）

<コース別活動>

- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・ものづくりコース
- ・生活コース
- ・自然コース

<行事>

- 合宿（大地沢青少年センター）
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

- <新聞委員会>
- <喫茶のぞみ>
- <とびたとう編集委員会>
- <行事委員会>

*土曜学級（班制4年目）

<班別活動>

- ・ひまわり班
- ・のぞみ班
- ・すずらん班
- ・さくらんぼ班

<行事>

- 合宿（狭山青年の家）
- 公民館まつり
- 年忘れ大運動会&
- クリスマス会

<班長会>

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<担当者>

- *教育心理学の専門家（1名）
- *施設職員（14名）
- *学生（21名）
- *市民（28名）
- <行政職員>
- *公民館職員（4名）

計68名

2001年
(H. 13)
185名

二十八年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

*公民館学級 (コース制17年目)

<コース別活動>	<行事>	<班長会>
・はいくキングコース	合宿 (大地沢青少年センター)	<つどい委員会>
・健康からだづくりコース		
・うたダンスミュージカルコース	公民館まつり	
・ものづくりコース	クリスマス会	
・町田たんけんコース		
・生活コース		

*ひかり学級 (コース制10年目)

<コース別活動>	<行事>	<班長会>
・劇ミュージカルコース	合宿 (大地沢青少年センター)	<新聞委員会>
・健康からだづくりコース		<喫茶のぞみ>
・ものづくりコース	公民館まつり	<行事委員会>
・生活コース	クリスマス会	
・自然コース		

*土曜学級 (班制5年目)

<班別活動>	<行事>	<班長会>
・うたとゆめ班	合宿 (狭山青年の家)	<つどい委員会>
・つばさ班	公民館まつり	
・あさぎり班	新年会	
・うさぎ班		

<サークル活動>	<担当者>
・さなえサークル	*学生・市民 (60名)
・おなべの会	<行政職員>
	*公民館職員 (4名)
	計64名

2002年
(H. 14)
183名

二十九年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

*公民館学級 (コース制18年目)

<コース別活動>	<行事>	<班長会>
・健康からだづくりコース	合宿 (大地沢青少年センター)	<つどい委員会>
・あさがおコース		
・ももコース	公民館まつり	
・ものづくりコース	クリスマス会	
・自然コース		
・生活コース		

*ひかり学級 (コース制11年目)

<コース別活動>	<行事>	<班長会>
・劇ミュージカルコース	合宿 (大地沢青少年センター)	<新聞委員会>
・健康からだづくりコース		<喫茶のぞみ>
・ものづくりコース	公民館まつり	<行事委員会>
・生活コース	クリスマス会	
・自然コース		

*土曜学級 (班制6年目)

- <班別活動>
- ・あるき班
 - ・らくだものづくり班
 - ・ブギウギ班
 - ・ブルースカイ班

- <行事>
- 合宿（狭山青年の家）
 - 公民館まつり
 - 新年会

- <班長会>
- <つどい委員会>

- <サークル活動>
- ・さなえサークル
 - ・おなべの会

- <担当者>
- *学生・市民 (61名)
- <行政職員>
- *公民館職員 (4名)
- 計65名

2003年
(H. 15)
181名

三十年目

- ☆ 生活づくり・文化創造
- ☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

*公民館学級（コース制19年目）

<コース別活動>

- ・健康からだづくりコース
- ・トマバナミュージカルコース
- ・ニコニコバンドコース
- ・ものづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

- 合宿（大地沢青少年センター）
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

- <つどい委員会>

*ひかり学級（コース制12年目）

<コース別活動>

- ・劇・ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・企画づくりコース
- ・生活コース
- ・自然コース

<行事>

- 日帰りハイキング（府中郷土の森）
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

- <新聞委員会>
- <つどい>

*土曜学級（班制7年目）

<班別活動>

- ・ストロベリージャンプ班
- ・にじ班
- ・生活をつくる班
- ・ひまわり班

<行事>

- 合宿（水元青年の家）
- 公民館まつり
- 冬のイベント

<班長会>

- <つどい委員会>

<サークル活動>

- ・おなべの会
- ・（仮称）共同学習識字の会

<担当者>

- *学生・市民 (61名)
- <行政職員>
- *公民館職員 (4名)
- 計65名

2004年
(H. 16)
193名

三十一年目

- ☆ 生活づくり・文化創造
- ☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

*公民館学級（コース制20年目）

<コース別活動>

- ・健康からだづくりコース
- ・スマイルコース
- ・ジャニーズコース
- ・ピンクガーデンコース
- ・ものづくりコース
- ・コスモス人生コース

<行事>

- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

- <つどい委員会>

*ひかり学級（コース制13年目）

<コース別活動>

<行事>

<班長会>

- ・スポーツ&ハイキングコース 合宿（大地沢青少年センター） <新聞委員会>
- ・ハイキングするコース 公民館まつり <つどい委員会>
- ・企画づくりコース クリスマス会
- ・音舞団
- ・さつまいも南アルプスハイジコース

*土曜学級（班制8年目）

- | | | |
|-----------------|------------|----------|
| <班別活動> | <行事> | <班長会> |
| ・そら班 | 合宿（水元青年の家） | <つどい委員会> |
| ・ズームイン班 | 公民館まつり | |
| ・ハートおんぷ班 | 新年会 | |
| ・Shooting Star班 | | |

- | | |
|----------------|--------------|
| <サークル活動> | <担当者> |
| ・おなべの会 | *学生・市民 (60名) |
| ・(仮称) 共同学習識字の会 | <行政職員> |
| ・とびたつ会 | *公民館職員 (4名) |
| | 計64名 |

2005年

(H.17)

☆ 生活づくり・文化創造

196名

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

三
十
二
年
目

◇全体行事

- ・東京都障がい者スポーツ大会
- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・公民館まつり
- ・秋合宿（大地沢青少年センター）

◇学級別活動

*公民館学級（コース制21年目）

- | | | |
|--------------------|-----------|---------|
| <コース別活動> | <学級内代表活動> | <行事> |
| ・イルカさかなコース | ・班長会 | ・クリスマス会 |
| ・ものコース | ・新聞委員会 | ・忘年会 |
| ・やりたいことと暮らしを考えるコース | | |
| ・ジャーニーオレンジコース | | |
| ・さくらコース | | |
| ・すまいるミュージカルコース | | |

*ひかり学級（コース制14年目）

- | | | |
|----------------|-----------|---------|
| <コース別活動> | <学級内代表活動> | <行事> |
| ・おいしいたべものコース | ・班長会 | ・クリスマス会 |
| ・みんなでGO!!コース | ・つどい委員会 | |
| ・ダンス&ミュージックコース | | |
| ・歩くんです。コース | | |
| ・ザ・家庭と暮らしコース | | |

*土曜学級（班制9年目）

- | | | |
|------------|-----------|------|
| <班別活動> | <学級内代表活動> | <行事> |
| ・ハッスル班 | ・班長会 | ・忘年会 |
| ・キネマゴーゴー班 | ・つどい委員会 | ・新年会 |
| ・のりものでゴー!班 | | |

- ・ F 班
- ・ ちっちゃいお店班

◇学級外のサークル活動

- ・ おなべの会
- ・ とびたつ会

担当者	63名
公民館職員	4名

2006年

(H. 18)

☆ 生活づくり・文化創造

188名

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

三
十
三
年
目

◇全体行事

- ・ 東京都障がい者スポーツ大会
- ・ 町田市障がい者スポーツ大会
- ・ 公民館まつり
- ・ 秋合宿 (大地沢青少年センター)

◇学級別活動

*公民館学級 (コース制22年目)

<コース別活動>

- ・ イルカキラキラソナタミュージカルコース
- ・ ものぷーさんコース
- ・ やりたいことと暮らしを考えるコース
- ・ 自然まんきつコース
- ・ みんなでGOコース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ クリスマス会

*ひかり学級 (コース制15年目)

<コース別活動>

- ・ ライブクリップコース
- ・ みんなのものづくり隊コース
- ・ 自分で自分コース
- ・ レッツゴーハイキングコース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ 新年会

*土曜学級 (班制10年目)

<班別活動>

- ・ ねこバス班
- ・ ドレミ班
- ・ グルメハイキング班
- ・ 夢新聞班
- ・ イルカ班

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ 新年会

◇学級外のサークル活動

- ・ おなべの会
- ・ とびたつ会

担当者	63名
公民館職員	4名

2007年

(H. 19)

☆ 生活づくり・文化創造

176名

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

◇全体行事

- ・東京都障がい者スポーツ大会
- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・公民館まつり
- ・秋合宿（大地沢青少年センター）
- ・バスハイク（こどもの国）

◇学級別活動

*公民館学級（コース制23年目）

- <コース別活動>
 生活とやりたいことを考えるコース
 ポンタコース
 劇団キャッツアイ
 みんなでチャレンジコース
 つばめコース

- <学級内代表活動>
 ・班長会
 ・つどい委員会

- <行事>
 ・クリスマス会

*ひかり学級（コース制16年目）

- <コース別活動>
 GO!GO!チャレンジコース
 富士山コース
 ひまわり・コスモスコース
 ミュージックコース

- <学級内代表活動>
 ・班長会
 ・つどい委員会

- <行事>
 ・クリスマス会

*土曜学級（班制11年目）

- <班別活動>
 ハッピー班
 空色美術班
 ホットなごみ班
 キラキラ班
 レインボー班

- <学級内代表活動>
 ・班長会
 ・つどい委員会

- <行事>
 ・新年会

◇学級外のサークル活動

- ・おなべの会
- ・とびたつ会

担当者	63名
（学級日当日担当者）	13名
公民館職員	4名

※ 学級日当日担当者の制度を
新設しました

2008年

(H. 20)

☆ 生活づくり・文化創造

173名

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

◇全体行事

- ・東京都障がい者スポーツ大会
- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・公民館まつり
- ・秋合宿（大地沢青少年センター）

◇学級別活動

*公民館学級（コース制24年目）

- <コース別活動>
 生活とやりたいことを考えるコース

- <学級内代表活動>
 ・班長会

- <行事>
 ・クリスマス会

パンダコース
ブルースコース
フレンズドリームコース
ものピカソコース

・つどい委員会

*ひかり学級（コース制17年目）

<コース別活動>
スポガイGO!GO!コース
にじいろ・たいようコース
GO!GO!ハイキングコース
音楽&とびたとうコース
ひまわりコース

<学級内代表活動>
・班長会
・つどい委員会

<行事>
・クリスマス会

*土曜学級（班制12年目）

<班別活動>
ドンドン班
アドベンチャー班
アリス班
ほしとひまわり班
うんどうすぼ一つ班

<学級内代表活動>
・班長会
・つどい委員会

<行事>
・新年会

◇学級外のサークル活動

・おなべの会
・とびたつ会

担当者	67名
(学級日当日担当者)	19名
公民館職員	3名

2009年

(H. 21) ☆ 生活づくり・文化創造

169名 ☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

三十六年目

◇全体行事

・東京都障がい者スポーツ大会
・公民館まつり
・秋合宿（大地沢青少年センター）

◇学級別活動

*公民館学級（コース制25年目）

<コース別活動>
ROBOTコース
作品づくりコース
ドリームレインボーコース
生活とやりたいことを考えるコース
ルーキーズコース

<学級内代表活動>
・班長会
・つどい委員会

<行事>
・クリスマス会

*ひかり学級（コース制18年目）

<コース別活動>
みんなの手コース
元気あいじょうコース
ステージJコース
フラワー・ヤッホーコース
企画チャレンジコース

<学級内代表活動>
・班長会
・つどい委員会

<行事>
・クリスマス会

*土曜学級（班制13年目）

<班別活動>

- ラッキー班
- あるくものづくり班
- ピッピスポーツ班
- チャレンジ班
- キラキラげんき班

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・新年会

担当者	81名
(学級日当日担当者)	13名
公民館職員	3名

◇学級外のサークル活動

- ・おなべの会
- ・とびたつ会

2010年

(H. 22)

☆ 生活づくり・文化創造

178名

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

三十七年目

◇全体行事

- ・ 東京都障がい者スポーツ大会
- ・ 町田市障がい者スポーツ大会
- ・ 公民館まつり
- ・ 秋合宿（大地沢青少年センター）

◇学級別活動

* 公民館学級（コース制26年目）

<コース別活動>

- ・ スターウォーズコース
- ・ ひまわりコース
- ・ オールスターコース
- ・ ゆめをみようコース
- ・ ミュージカルインストルメンツコース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ クリスマス会

* ひかり学級（コース制19年目）

<コース別活動>

- ・ スポーツドリームコース
- ・ 冒険散歩コース
- ・ 星のつばさコース
- ・ ラベンダーのかなたへコース
- ・ あじさいコース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会

<行事>

- ・ 20周年記念イベント

* 土曜学級（班制14年目）

<班別活動>

- ・ ビクトリー班
- ・ ステップでどん班
- ・ ニコニコお祭り班
- ・ ぞうさんのあくび班

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ 新年会

◇学級外のサークル活動

- ・ とびたつ会
- ・ おなべの会

担当者	73名
(学級日当日担当者)	21名
公民館職員	3名

2011年

(H. 23)

186名

三十八年目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

◇全体行事

- ・ 町田市障がい者スポーツ大会
- ・ 公民館まつり
- ・ 秋合宿 (大地沢青少年センター)

◇学級別活動

* 公民館学級 (コース制27年目)

<コース別活動>

- ・ ハピネスクローバー コース
- ・ ダンシングミュージカル コース
- ・ 銀河鉄道999 コース
- ・ みんなのあかり コース
- ・ きずな コース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ クリスマス会

* ひかり学級 (コース制20年目)

<コース別活動>

- ・ 探検ハト コース
- ・ 健康スポーツ コース
- ・ レッドビッキーズ
- ・ パンダ コース
- ・ パフォーマンスアカデミー コース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会

<行事>

- ・ クリスマス会

* 土曜学級 (班制15年目)

<班別活動>

- ・ ひまわり 班
- ・ げきだんランランロック 班
- ・ ハッピーミュージック 班
- ・ ワクワク体験 班
- ・ お陽さまごっつんこ 班

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ 新年会

◇学級外のサークル活動

- ・ とびたつ会
- ・ おなべの会

担当者	82名
(学級日当日担当者)	23名)
公民館職員	3名

2012年

(H. 24)

183名

三十九年目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

◇ 全体行事

- ・ 東京都障がい者スポーツ大会
- ・ 町田市障がい者スポーツ大会
- ・ 生涯学習センターまつり
- ・ 秋合宿 (大地沢青少年センター)

◇ 学級別活動

* 公民館学級（コース制28年目）

<コース別活動>

- ・ コンサート♪ コース
- ・ みんなのあかり コース
- ・ 健康・体力づくり コース
- ・ 劇団 宇宙のかがやき コース
- ・ ギブア・ハピネスクローバー・トゥ・ビーナス コース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ クリスマス会

* ひかり学級（コース制活動21年目）

<コース別活動>

- ・ 笑顔&ミュージカル コース
- ・ スマイル コース
- ・ ひまわりものづくり コース
- ・ 愛情料理 コース
- ・ さんぼ コース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会

<行事>

- ・ クリスマス会

* 土曜学級（班制16年目）

<班別活動>

- ・ はくちょうで野球しようぜ 班
- ・ ラビットグルメ 班
- ・ なんでもチャレンジ 班
- ・ やったねストライク 班
- ・ ムーンランド♥ドラエモンバンド 班

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ 新年会

◇ 学級外のサークル活動

- ・ とびたつ会
- ・ おなべの会
- ・ スケッチルーム

担当者	77名
(学級日当日担当者)	32名)
生涯学習センター職員	3名

2013年
(H.25)
183名

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

◇全体行事

- ・ 東京都障害者スポーツ大会（フットベースボール）
- ・ 町田市障がい者スポーツ大会
- ・ 生涯学習センターまつり（展示・舞台）

◇学級別活動

※ 公民館学級（コース制29年目）

<コース別活動>

- ・ みんなのゆめ コース
- ・ みんなのあかりコース 2013
- ・ ヘルス・パワーアップ コース
- ・ 夢よびたい コース
- ・ ものづくり コース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ 合宿
(大地沢青少年センター)
- ・ クリスマス会

※ ひかり学級（コース制活動22年目）

<コース別活動>

- ・ みんなのいのち コース
- ・ ハッピースポーツ探検さんぼ コース
- ・ メニーハンズ コース
- ・ うさぎのダンス コース
- ・ ふれあいのぞみ コース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会

<行事>

- ・ バスハイク
(こどもの国)
- ・ クリスマス会

※ 土曜学級（班制17年目）

<班制活動>

- ・みどりのはっぱとたんぼぼ 班
- ・じぇじぇじぇ！あじさいだー 班
- ・ラビット・ミッフィー・ドルフィン 班
- ・ひまわり 班
- ・住・行（考） 班

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・合宿
（大地沢青少年センター）
- ・新年会

◇ 学級外のサークル活動

- ・ とびたつ会
- ・ おなべの会
- ・ スケッチルーム

担当者	73名
（うち学級日当日担当者	26名）
生涯学習センター職員	4名

2014年

(H.26)
182名

四十一年目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

◇全体行事

- ・東京都障害者スポーツ大会（フットベースボール）
- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・生涯学習センターまつり（展示・舞台）
- ・青年学級40周年記念式典

◇学級別活動

※ 公民館学級（コース制30年目）

<コース別活動>

- ・こころ夢 コース
- ・はれの日 コース
- ・わたしたちのみらい コース
- ・スマイルヘルスアップ コース
- ・カリビアン コース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・合宿
（大地沢青少年センター）
- ・クリスマス会

※ ひかり学級（コース制23年目）

<コース別活動>

- ・世界にひとつだけの花 コース
- ・江ノ島かもがわ水族館 コース
- ・元気はつらつ夏椿 コース
- ・トトロミュージック コース
- ・イベント・ドリーム コース

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・バスハイク
（よこはま動物園ズーラシア）
- ・新年会

※ 土曜学級（班制18年目）

<班制活動>

- ・青空クローバー 班
- ・ギターとラップと夢とともだち 班
- ・健康グルメ 班
- ・あまちゃん 班
- ・生活まじめ 班

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・日帰り旅行
（江ノ島）
- ・新年会

◇ 学級外のサークル活動

- ・ とびたつ会
- ・ おなべの会
- ・ スケッチルーム

担当者	71名
（うち学級日当日担当者	22名）
生涯学習センター職員	4名

2015年

(H. 27)

174名

四十二年目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

◇全体行事

- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・生涯学習センターまつり (展示・舞台)

◇学級別活動

※ 公民館学級 (コース制31年目)

<コース別活動>

- ・楽器大好き コース
- ・ものづくり コース
- ・わたしたちのみらい コース
- ・ケンカラ コース
- ・劇・ミュージカル コース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・合宿 (大地沢青少年センター)
- ・クリスマス会

※ ひかり学級 (コース制24年目)

<コース別活動>

- ・にじスマイル コース
- ・強くて負けないスーパー電車
スポーツコース1・2・3
- ・小さなしあわせ すみれ コース
- ・ミュージカル・ダンス コース
- ・おでかけ料理 コース

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・日帰り旅行 (江ノ島)
- ・新年会

※ 土曜学級 (班制19年目)

<班制活動>

- ・ハッピーブルー 班
- ・みんな元気スポーツ 班
- ・楽しいイベント 班
- ・あじさいものづくり48 班

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・合宿 (大地沢青少年センター)
- ・新年会

◇ 学級外のサークル活動

- ・とびたつ会
- ・おなべの会
- ・スケッチルーム

担当者	71名
(うち学級日当日担当者)	22名)
生涯学習センター職員	5名

2016年

(H. 28)

171名

四十三年目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

◇全体行事

- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・生涯学習センターまつり (展示・舞台)

◇学級別活動

※ 公民館学級 (コース制32年目)

<コース別活動>

- ・抱きしめたい心 コース
- ・ものづくり コース
- ・生活とくらしを考える コース
- ・炎のファイト! 健康からだづくり コース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・合宿 (大地沢青少年センター)
- ・クリスマス会

・あおのなかま コース

※ ひかり学級（コース制25年目）

<コース別活動>

- ・ふれあいをつくっていく コース
- ・無敵最強スポーツ コース
- ・ひまわり味彩大作戦 コース
- ・コスマリップ劇ダンス コース

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・日帰り旅行
(藤野芸術の家)
- ・クリスマス会

※ 土曜学級（班制19年目）

<班制活動>

- ・ハッピーブルー 班
- ・みんな元気スポーツ 班
- ・楽しいイベント 班
- ・あじさいものづくり48 班

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・日帰り旅行
(みなとみらい)
- ・新年会

◇ 学級外のサークル活動

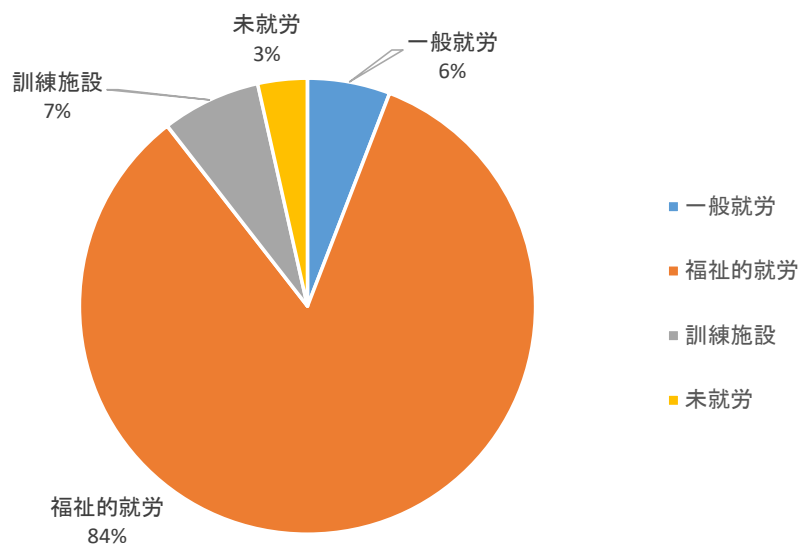
- ・とびたつ会
- ・おなべの会
- ・スケッチルーム

担当者	64名
(うち学級日当日担当者)	26名)
生涯学習センター職員	6名

☆学級生の就労状況

未就労	6	福祉的就労	町田おかしの家	1	
		アールフィールド	3	町田かたつむりの家	5
一般就労		赤い屋根	3	町田リス園	2
特例子会社	2	大賀藕絲館	19	メイクⅡ	1
リネンサプライ	1	かがやき	19	森工房	1
菓子工場	1	喫茶けやき	2	ゆめ工房	1
木・紙製品製造	1	共働学舎	6	ラ・まの	6
理容・美容	1	くず葉学園	1	ワークステーション立川	1
園芸	1	こころみ農園	2	訓練施設	
設計事務所	2	サポートセンター町田とも	5	島田療育センター	1
衣料販売	1	シャロームの家	4	ひかり療育園	2
		スワン・ベーカリー	3	プラスアルファ	1
		地の星	6	町田生活実習所	4
		つるかわ学園	5	町田福祉園	2
		つるかわ学園職業準備支援センター	1	わさびだ療育園	2
		なないろ	14		
		ニースセンター花の家	13		
		白峰会	1		
		花の郷	6		
		美術工芸館	5		
		プラスアルファ	6		
		ボア・アルモニー	1		

就労・通所状況



☆学級生の持っている手帳

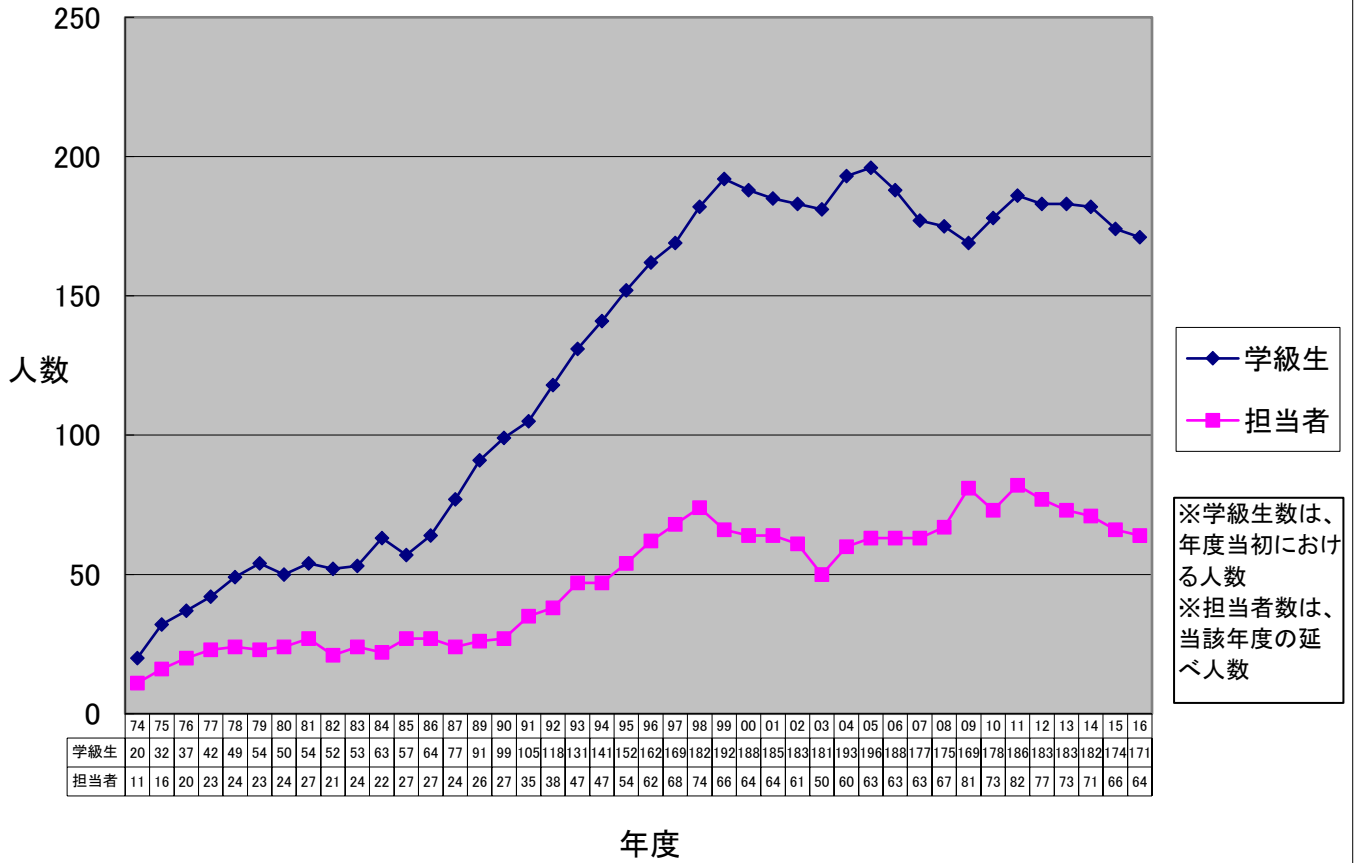
愛の手帳(療育手帳)

		1度	2度	3度	4度	計
公民館学級	男		17	15	7	39
	女		9	12	3	24
ひかり学級	男		11	20	2	33
	女	2	13	6	2	23
土曜学級	男	2	15	18	4	39
	女		6	5	1	12
計	男	2	43	53	13	111
	女	2	28	23	6	59
総計		4	71	76	19	170

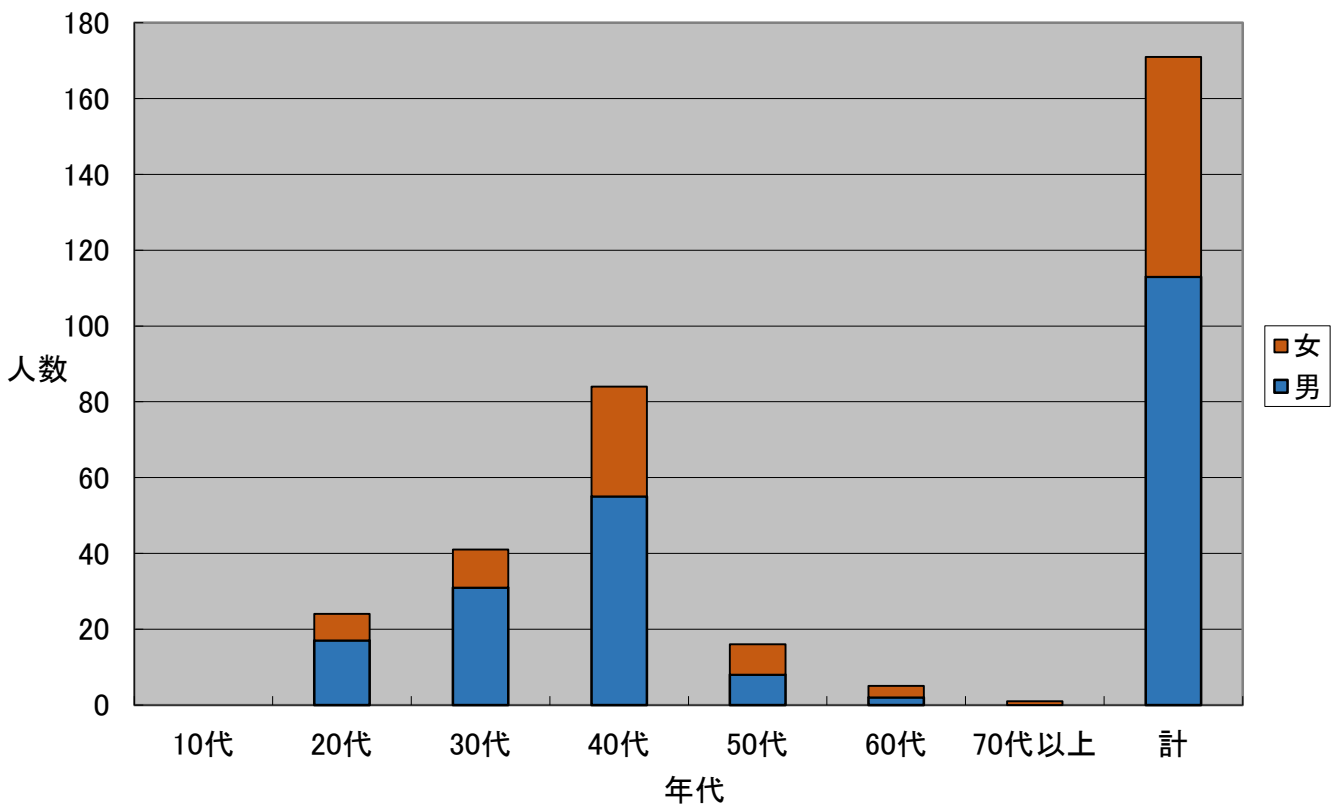
身体障害者手帳

		1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
公民館学級	男	4	2	1	1			8
	女	1	2	0	1			4
ひかり学級	男	1	1				1	3
	女	6	5			1	1	13
土曜学級	男	3	2		1			6
	女	1	1		1			3
計	男	8	5	1	2	0	1	17
	女	8	8	0	2	1	1	20
総計		16	13	1	4	1	2	37

学級生数とボランティア担当者数の推移



学級生の年代・男女別構成比



担当者・当日スタッフ紹介(2016年4月～2017年3月)

☆..担当者 ★..当日スタッフ

公民館学級 (26名)

- ☆ 石上 美津子
- ☆ 内田 桃香
- ☆ 兼近 賢一
- ☆ 櫻井 明美
- ☆ 柴田 保之
- ☆ 関水 末子
- ☆ 高井 大輔
- ☆ 滝本 克芳
- ☆ 竹下 雄飛
- ☆ 長野 希織
- ☆ 能登 あやな
- ☆ 原子 昌平
- ☆ 牧野 恵里香
- ☆ 松本 萌恵子
- ☆ 山之内 敦郎
- ☆ 和田 創
- ★ 伊藤 美紀子
- ★ 今泉 晴世
- ★ 大嶋 啓子
- ★ 木元 祥平
- ★ 近藤 日名子
- ★ 鈴木 邦子
- ★ 田崎 新大

- ★ 富永 節子
- ★ 福井 洋一
- ★ 的野 賢太

ひかり学級 (20名)

- ☆ 朝比奈 康太
- ☆ 五十嵐 瑞記
- ☆ 金田 友里
- ☆ 小林 逸雄
- ☆ 駒井 祐樹
- ☆ 酒匂 健太
- ☆ 佐藤 優香
- ☆ 高山 嵐
- ☆ 舘井 菖
- ☆ 田中 駿佑
- ☆ 徳永 恵生
- ☆ 中川 稀絵
- ☆ 播本 啓子
- ☆ 山本 佳奈
- ★ 石井 紗希
- ★ 伊藤 美保子
- ★ 落合 理奈
- ★ 高取 静香
- ★ 中村 千津子

土曜学級 (18名)

- ☆ 伊藤 直光
- ☆ 梅原 光輝
- ☆ 片岡 千栄子
- ☆ 小山 京子
- ☆ 富沢 タツ子
- ☆ 彦根 睦
- ☆ 宮城 幸生
- ☆ 渡辺 祐美子
- ★ 石橋 堯弥
- ★ 遠藤 彰代
- ★ 大貫 徳三
- ★ 岡村 綾子
- ★ 小野寺 浩文
- ★ 河井 収穂
- ★ 朽方 光代
- ★ 小山 寿美子
- ★ 西村 鎮男
- ★ 福島 妙子
- ★ 山形 洋子

行政職員

(生涯学習センター)

- ☆ 今村 耕一 (13)
- ☆ 岩田 武 (16)
- ☆ 千葉 海 (16)
- ☆ 村田 圭祐 (12)
- ☆ 矢嶋 良史 (15)
- ☆ 渡部 敬 (13)

★ 八木 いさを

町田市障がい者青年学級 実践報告集 第42号

発行日 2018年 3月

編集 町田市障がい者青年学級 担当者会

発行 町田市教育委員会生涯学習部生涯学習センター

〒194-0013 東京都町田市原町田6-8-1

TEL 042-728-0071

刊行物番号 17196

この冊子は、130部作成し、1部あたりの単価は2,016円です。
(職員の人件費を含みます。)